

福井鉄道交通圏地域公共交通計画

令和5年3月

福井市 鯖江市 越前市 池田町 南越前町 越前町

目 次

第1章 計画概要	1
1. 計画策定の背景と経緯	1
2. 計画の期間	3
3. 計画の区域	3
第2章 これまでの取り組みの評価・検証	4
1. これまでの取り組みの概要	4
2. 施策・事業の評価・検証	5
第3章 福井鉄道交通圏における地域公共交通の課題と方向性	7
1. 地域公共交通の課題	7
2. 課題解決に向けた方向性	11
第4章 福井鉄道交通圏地域公共交通計画	12
1. 基本方針	12
2. 計画の目標	13
3. 計画の目標を達成するために行う事業とその実施主体	16
4. 計画の目標の達成状況の評価について	22
資料編	資料1
1. 福井鉄道交通圏の概況	資料 1
2. 関連計画	資料 9
3. 地域公共交通の現況	資料20
4. 福井鉄道福武線の現況	資料22
5. バス交通の現況	資料30
6. タクシー交通の現況	資料46
7. 策定体制と経緯	資料47

第1章 計画概要

1. 計画策定の背景と経緯

(1) 背景

福井鉄道福武線は、昭和8年の運行開始以来、通勤、通学、通院、買物など沿線住民の生活を支える交通手段として、また、沿線市※1である福井市、鯖江市、越前市のシンボリックな役割を果たしてきた。

モータリゼーションの進展や少子化などの影響により、利用者数が年々減少し、平成19年度には約161万人と、平成元年度の292万人のおよそ4割減となった。この間、福井鉄道は、サービスの改善など経営改善への様々な手段を講じてきたが、平成19年9月、事業者単独での再建は困難と判断し、福井県及び沿線市に対して行政支援を求める旨の要請を行った。

これを受け、「福井鉄道福武線活性化連携協議会」が設置され、今後の支援のあり方等について検討し、平成21年2月には「福井鉄道福武線地域公共交通総合連携計画」を策定、「鉄道事業再構築実施計画」の認定を受け、安全安心に向けた設備更新や、利用促進に向けた取り組みが進められた。

さらに、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の一部改正により、平成28年2月に「福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画」を策定（平成30年3月更新）し、福井鉄道に接続する路線バス、コミュニティバス、タクシー等を含めた福井鉄道交通圏における地域公共交通網の目標を設定し、その達成に向けた施策事業が進められた。

この結果、福井鉄道福武線の利用者数は増加に転じ、平成28年度には年間利用者数200万人を達成するなど堅調な増加が続いてきた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け定期外利用者が大幅に減少したものの、通勤定期利用者は継続して増加している。

一方、経営状況については、利用者の安全安心の確保の観点から、鉄道施設の維持、更新等に多大な費用を要しており、収支均衡は未達成の状況にある。

将来に向けては、人口減少、超高齢社会に対応した持続可能なまちづくりとして、住民の日常生活に必要な都市機能を公共交通の利便性の高い駅周辺に集約したコンパクトなまちづくりが求められており、公共交通は、集約した都市機能をつなぐ重要な役割を担っている。

今回の「福井鉄道交通圏地域公共交通計画」は、前計画を継承する第3期の計画として、各交通事業者と沿線市町※2の協働によって、福井鉄道を軸とする広域圏における地域公共交通をネットワーク化し、まちづくりや観光等との連携、車に頼り過ぎない持続可能な住みやすいまちの構築を目指して策定する。特に今回は、令和6年春の北陸新幹線福井開業を間近にして、福井鉄道福武線は福井駅を拠点とする二次交通の中心的な機能、役割を担う路線として、観光・ビジネス需要に対応する施策を重点的に実施するものとする。

※1：福井市、鯖江市、越前市の3市

※2：福井市、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町の6市町

(2) 経緯

本計画は、平成21年2月に策定した「福井鉄道福武線地域公共交通総合連携計画」を出発点として、交通圏を拡大するとともに目標実現に向けて施策事業を展開してきた。

●福井鉄道福武線地域公共交通総合連携計画（平成21年2月策定）

計画区域	福井市、鯖江市、越前市の福井鉄道福武線沿線
基本目標	「地域に親しまれ共に歩む鉄道」の実現
目標指標	年間輸送人員：H19年度 161万人 ⇒ 200万人
計画期間	平成20年度～平成29年度

●福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画（平成28年2月策定）

計画区域	福井鉄道交通圏（福井鉄道福武線を主軸に路線バス、コミュニティバス、タクシー等のフィーダー交通※が運行されている福井市、鯖江市、越前市、越前町の範囲）
基本目標	地域に親しまれ共に育む公共交通
目標指標	公共交通の利用者数等9指標を設定
計画期間	平成27年度～平成29年度（法改正に伴う策定）

※フィーダー交通：フィーダーとは、「支線」のことで、福井鉄道福武線を「幹線交通」として、これに接続する路線バス等の公共交通をフィーダー交通としている。

●福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画（平成30年3月策定）

計画区域	福井鉄道交通圏（福井鉄道福武線を主軸に路線バス、コミュニティバス、タクシー等のフィーダー交通が運行されている福井市、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町の範囲）
基本目標	地域に親しまれ共に育む公共交通（前計画を継続）
目標指標	公共交通の利用者数等10指標を設定
計画期間	平成30年度～平成34年度（令和4年度）

今回策定する地域公共交通計画は、地域公共交通総合連携計画、地域公共交通網形成計画など従来の計画からさらに計画の対象や内容、位置づけ、実効性の確保のそれぞれの面で拡充させ、新たな計画とすることで、地域公共交通に関する各種の取り組みを促進していくことを目的としている。

2. 計画の期間

「令和5年度から令和9年度までの5年間」

本計画の計画期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とする。

ただし、計画期間内において、本計画の達成状況の評価に基づく計画の見直しを行うとともに、社会情勢や法制度等の変化に対応するための見直しを随時行うものとする。

3. 計画の区域

本計画の対象区域は、福井鉄道交通圏とする。

福井鉄道交通圏は、福井鉄道福武線を軸に路線バス、コミュニティバス、タクシー等のフィーダー交通が運行されている福井市、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町を範囲とする。

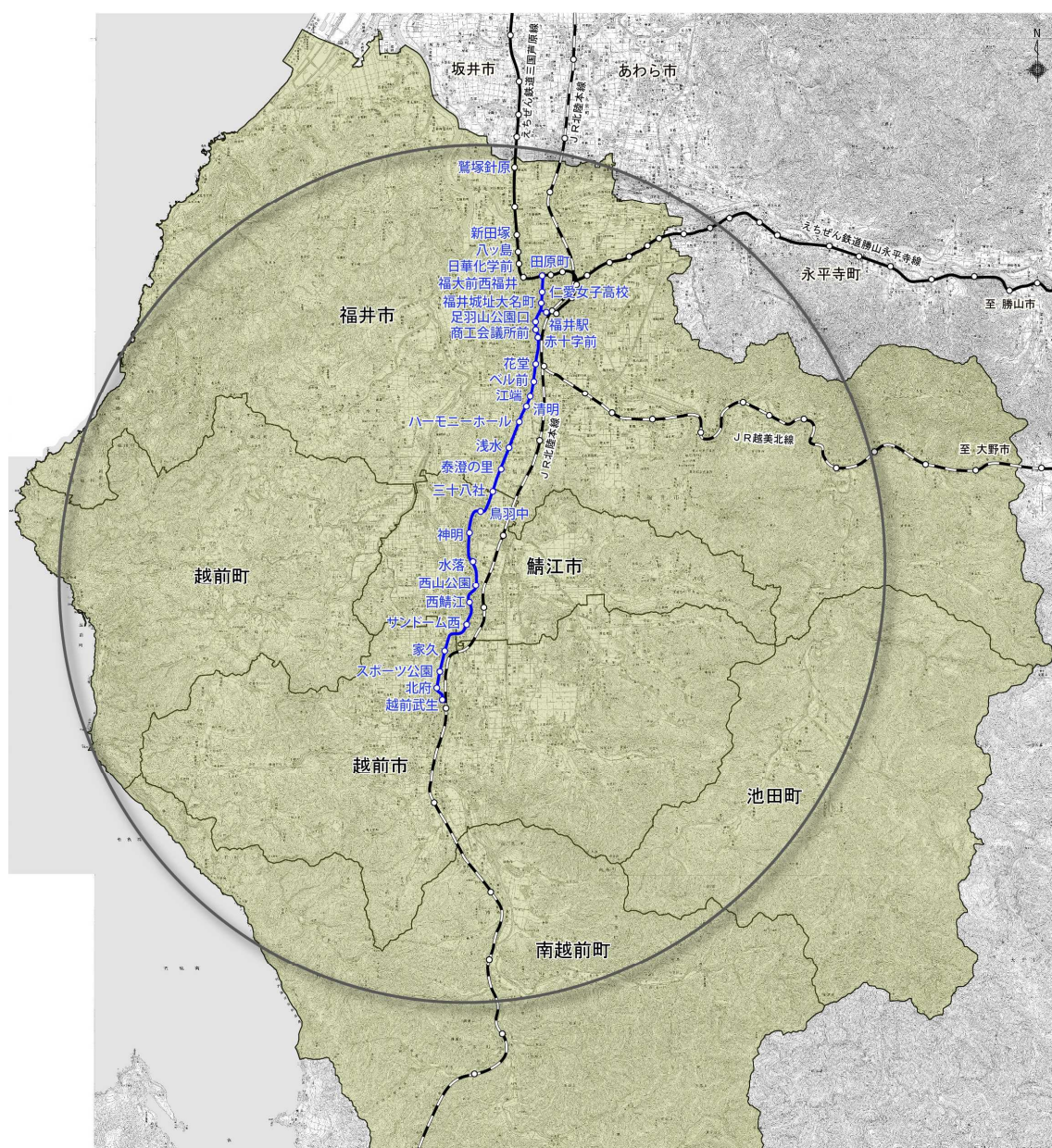


図1-1 計画の区域

第2章 これまでの取り組みの評価・検証

1. これまでの取り組みの概要

前計画である「福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画」においては、目標とすべき公共交通の目標像として「地域に親しまれ共に育む公共交通」の実現に向けて、4つの目標を設定し、64施策を設定した。

施策の実施状況は、64施策の内、「実施・着手」が60施策、「計画・設計・検討」が2施策、となり、ほぼすべての施策を実施することができた。

表2-1 施策の実施状況の概要

目標と取り組むべき施策	主な施策の実施状況
目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現	
■ 駅やバス停へのアクセス環境の向上	・ 駅施設（パーク＆ライド駐車場（西鯖江駅、家久駅）、駐輪場（北府駅）、トイレ（浅水駅）、無料Wifiサービス等）の改善
■ 利用者ニーズに対応した乗り継ぎ等の利便性向上	・ キャッシュレス決済可能な自動券売機の設置（有人駅） ・ イベント等に対応した臨時列車の運行
■ 情報発信の充実	・ 運賃、経路、時刻表の検索稼働（Google、WESTER）
■ 接客サービスの向上	・ 接遇マナー講習会の実施
目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現	
■ 安全で安心な公共交通の基盤づくり	・ 鉄道施設（レール、分岐器、電気設備、車両等）の更新
■ 安全で快適な交通環境づくり	・ 踏切事故防止運動の実施 ・ 自動車ドライバーへのチラシ配布
■ 安定した公共交通の経営基盤を支える体制づくり	・ えちぜん鉄道との「災害時における相互協力協定」の締結 ・ 駅、電停、車両を対象とした広告スペースの提供、電車関連グッズの拡充、販売促進 ・ 鉄道、バス路線維持への行政支援（福井県、沿線市町）
目標3 車に頼り過ぎない住みやすいまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現	
■ 駅を中心としたまちづくり	・ 主要駅周辺への人口集約のための住宅支援、補助 ・ 主要駅を拠点とするイベントの実施（コロナ禍により一部中止）
■ まちづくりや観光との連携	・ 地域のまちづくり活動、遠足等の教育活動での利用料金の割引 ・ 北府駅での鉄道文化財の保存、活用（鉄道ミュージアムの整備） ・ 電車、バス乗継乗車券（周遊バス等）の販売 等
目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現	
■ 乗る運動や利用促進	・ カーフリーデーふくい、ふくぶせんフェスタin北府駅の開催 ・ 自動車免許返納者への電車利用券、コミュニティバス無料券等の配布 ・ 通学支援補助（電車、バス定期券の購入補助）
■ 地域住民との連携	・ 花植え等による駅の美化運動の継続 ・ サポート団体による利用促進に向けた取組の実施
その他	
■ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の実施	・ 駅、車両の抗ウイルス抗菌加工の実施 ・ 通勤通学ラッシュ時における車内混雑状況の情報発信 等

2. 施策・事業の評価・検証

前計画である「福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画」では、計画の数値目標として10の評価指標を設定し、目標達成に向けて各種施策・事業を実施してきた。

しかし、平成31年3月頃から拡大した新型コロナウイルス感染症による外出自粛や在宅勤務、テレワーク等の新しい生活様式は、福井鉄道をはじめ公共交通の利用者数に大きな影響を与えた。

このため、施策・事業について、最新年度（主に令和3年度）と新型コロナウイルス感染症拡大前の平成30年度の2つの値で行うこととした。

（1）公共交通利用者数に関する計画目標の達成状況と課題

前節で述べたように前計画で設定した施策・事業のほぼすべてを実施したことによって福井鉄道福武線をはじめとする各地域公共交通の利用環境の底上げをすることができたが、評価指標の数値には反映されないものも見られた。

個別の指標についてみると、「指標1 公共交通の利用者数」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のない平成30年度までは増加傾向にあり、達成率（目標値に対する利用者数の割合）は97%であった。路線別の内訳では、福井鉄道福武線が安定した推移を示す一方、フィーダーバスを構成する路線バス、市町が運営するコミュニティバスの利用状況が減少傾向を示しており、交通圏全体の公共交通ネットワークとサービス水準の維持・向上を図るために改善が求められる状況である。

また、福井鉄道福武線についても「指標6 鉄道の1日フリーキップ利用者数」、「指標7 65歳以上が対象の1日フリーキップ利用者数」の減少については、北陸新幹線開業による観光需要増加に伴う改善が見込まれるが、新たな利用促進の取組を図り、利用者を増やしていく必要がある。

（2）安全・安心な利用環境に関する計画目標の達成状況と課題

安全・安心な利用環境については、「指標2 故障等部内原因による鉄道の遅延障害件数」、「指標3 交通事故等の部外原因による鉄道の遅延障害件数」の2指標ともに目標を達成することができた。さらに障害件数の削減に向けて、今後とも継続して計画的な設備更新・修繕や安全策を講じていく必要がある。

（3）まちづくりに関する計画目標の達成状況と課題

まちづくりとの関連では、「指標4 鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺（半径500m圏域）の人口」、「指標5 鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺（半径500m圏域）の生活利便施設の立地件数」は、『コンパクト・プラス・ネットワーク』を進める上で重要な指標である。

主要駅6駅（福井駅、田原町駅、浅水駅、神明駅、西鯖江駅、越前武生駅（R5.2.25～たけふ新駅）のうち、神明駅のみ人口が若干ながら増加しており、小規模ながらも住宅地開発によって住宅の立地が進んだことによるものと考えられることから、本計画の上位関連計画である都市計画マスタープラン、立地適正化計画等による施策との連携によって人口の定着、生活関連施設の立地を支援することが求められる。

表2-2 評価指標の目標達成状況

評価指標	基準値 (H28)	目標値 (R4)	現況値:H30値 ():最新値	評価	備考	
■目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現						
1	公共交通の利用者数	6,802千人	6,980千人	6,781千人 (5,475千人:R3)	△	福井鉄道福武線利用者数は安定しており、目標値を若干下回る
■目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現						
2	故障等部内原因による鉄道の遅延障害件数	20件	10件	8件 (13件:R3) 平均 10.0件 ※1	○	平成30年度は目標を達成したものの、令和3年度は鉄道施設関連の故障で増加
3	交通事故等の部外原因による鉄道の遅延障害件数	6件	6件	2件 (2件:R3) 平均 2.8件 ※1	○	交通管理者、道路管理者の協力による対策で減少
■目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現						
4	鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺（半径500m圏域）の人口	25,040人	25,500人	24,012人 (R3)	×	神明駅を除く主要駅で減少し、平成28年の値を下回る
5	鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺（半径500m圏域）の生活利便施設の立地件数	2,600施設	2,600施設以上	2,346施設 (R3)	×	すべての主要駅で減少（店舗等が減少）し、平成28年の値を下回る
6	鉄道の1日フリーキップ利用者数	106,800人	114,800人	79,518人 (44,556人:R3)	×	福井鉄道の土日祝日限定1日フリーキップを値上げ※2したことにより、割安感が低下し、利用者数が減少した
7	65歳以上が対象の1日フリーキップ利用者数	67,300人	87,100人	55,674人 (38,972人:R3)	×	割引会員の年齢変更※3による料金改定により、割安感が低下し、利用者数が減少した
8	観光周遊バスの利用者数	11,500人	12,700人	8,914人 (- 人)	×	観光イベントでの周知不足等により利用者が伸び悩み、目標値を下回る
9	野外学習等運賃補助制度利用者数	15,600人	17,100人	15,156人 (2,739人:R3)	△	概ね横ばいで推移し、目標達成には至らず
■目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現						
10	サポート会等の市民団体の活動回数	29回	32回	27回 (13回:R3)	△	概ね横ばいで推移し、目標達成には至らず

※1 平成29年度から令和3年度までの平均値

※2 500円から550円に値上げ（えちぜん鉄道との共通1日フリーキップの料金は変更なし）

※3 70歳以上を対象としたハッピー会員を廃止し、65歳以上を対象とするプレミアム会員に統合したことで、1日フリーキップの料金が400円から500円に値上げ（65歳以上70歳未満を対象としたラッキー会員もプレミアム会員に統合したが、料金は500円に変更なし）

○：目標達成

△：未達成（概ね横ばいで推移）

×：未達成（現況値を下回る）

第3章 福井鉄道交通圏における地域公共交通の課題と方向性

1. 地域公共交通の課題

ここでは交通圏市町の地域状況、福武線の状況、福井鉄道交通圏におけるバス交通等の状況から、本計画において対応すべき課題を整理する。

交通圏を構成する市町の地域状況、福武線の状況、交通圏におけるバス交通等の状況から、本計画において対応すべき課題を5つのグループに分けて整理する。

福井鉄道交通圏における公共交通の課題

- ① 社会潮流への対応
- ② 利用環境の拡充
- ③ 交通基盤の形成
- ④ まちづくりとの連携
- ⑤ 住民等との協働

① 社会潮流への対応

ポストコロナに向けた感染リスクの低減

- ・新型コロナウイルス感染症が令和4年（2022年）現在も日本全国で猛威を振るっており、公共交通利用にも多大な影響
- ・ポストコロナに向けた公共交通のあり方として、利用者数の早期の回復・向上に向け、感染拡大の状況に応じつつ、新しい生活様式に対応した安全で安心して利用できるサービスの提供が必要

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた環境負荷の軽減

- ・持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、過度にクルマに依存した生活を見直し、環境負荷が小さく、使いやすく持続可能な輸送システムの構築によって公共交通の利用促進が必要

大規模災害への対応

- ・近年、地震や豪雨・大雪等による大規模災害が多発しており、鉄道や道路への被害によって日常生活の移動が困難な状況が長期化するケースが発生
- ・災害に強い基盤整備を推進するとともに、災害時には地域の重要な移動手段として早期の復旧が重要

自動運転技術研究の推進

- ・鉄道による事故を削減し、安全で快適な交通環境に寄与するため、次世代技術として鉄道の自動運転技術の研究を推進

② 利用環境の拡充

地域鉄道を構成する路線の機能、役割の明確化、相互の乗り継ぎ利便性の向上

- ・北陸新幹線福井開業により、交通圏における地域鉄道は、福井鉄道福武線、ハピラインふくい、えちぜん鉄道によって形成されることになり、公共交通ネットワークにおける各鉄道の機能、役割の明確化が必要
- ・既存の鉄軌道網を活用した地域公共交通の幹線軸を強化し、広域的な移動の利便性の向上を図るため、ハピラインふくいやえちぜん鉄道との乗り継ぎ利便性の向上が必要

鉄道駅を拠点（ハブ）としたフィーダー交通の充実

- ・福井駅の総合交通ターミナル機能を活かし、路線バスやコミュニティバス等のフィーダー交通との結節機能の充実が必要
- ・福井鉄道福武線の主要駅であるたけふ新駅、西鯖江駅、神明駅、浅水駅、田原町駅の交通結節機能の強化に向けて、路線バスやコミュニティバス等のフィーダー交通の充実が必要
- ・自動車交通との連携強化に向けて、福井鉄道各駅においてパークアンドライド駐車場の拡充が必要

利用者ニーズに対応した乗り継ぎ利便性の向上

- ・キャッシュレス化を進め、利用者の利便性の向上を図ることが必要
- ・利便性向上のため、運行ダイヤや運賃体系など利用者ニーズに対応した見直しが必要

交通情報を手軽に入手できる環境の充実

- ・路線バスの待ち時間の不安感の解消や、乗り継ぎ等の接続情報を入手できる環境整備として、携帯端末への情報提供等の環境整備が必要

③ 交通基盤の形成

ハピラインふくい、えちぜん鉄道との事業連携

- ・経営の効率化や利用者へのサービス向上のため、地域鉄道3社において、資材調達、維持管理をはじめ、利用促進策の導入や災害時の相互協力等の事業連携が必要

地域における多様な輸送資源の活用検討

- ・日常生活における多様な移動環境を確保するため、従来の鉄道、バス、タクシー等による公共交通に加えて、自家用有償旅客運送、福祉輸送、スクールバス等の多様な輸送資源の活用検討が必要

ICT化（キャッシュレス、MaaS）への対応

- ・様々な分野でのICT化※が進んでおり、公共交通分野においても、キャッシュレス化による運賃収受の効率化や時間短縮等を図るとともに、シームレスな移動の確保が可能なMaaS※の導入が必要

※ICT化：ICTとは、Information and Communication Technologyのことであり、パソコンやスマートフォンなどのデジタル機器や情報処理テクノロジーを活用し、サービスの向上を図ること。

※MaaS：MaaSとは、Mobility as a Serviceのことであり、一人ひとりの移動ニーズに応じて、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのこと。

軌道や車両等の更新

- ・安全で快適な運行を確保するため、路面や路盤に損傷のある軌道等の改善、その他設備の更新等が必要
- ・電車やバスの車両の更新に当たっては、エネルギー効率やバリアフリーの視点から、省エネルギー化した乗り降りしやすい車両への更新が必要

安定した経営基盤の構築

- ・安定した経営基盤の構築のため、運行に係る経費の削減、効率化を図るとともに、広告や関連グッズの販売等による収入拡大が必要

公共交通に関わる人材の育成

- ・継続的に公共交通サービスを提供するため、今後の公共交通に担い手となる人材育成の取組が必要

④ まちづくりとの連携

ふくい嶺北連携中枢都市圏の形成

- ・嶺北地域の11市町（福井市、大野市、勝山市、鯖江市、あわら市、越前市、坂井市、永平寺町、池田町、南越前町、越前町）によって構成する「ふくい嶺北連携中枢都市圏」の広域的なまちづくりと交通ネットワーク形成に向けて、各市町間を連絡する公共交通網の強化が必要

人口減少と高齢化、生活利便施設の郊外化による市街地の空洞化への対応

- ・人口減少や高齢化、買い物や医療等の生活利便施設の郊外化による市街地の空洞化に対応するため、持続可能なまちづくりとして、公共交通の利便性の高い地区を中心とするコンパクトなまちづくりが必要
- ・主要駅周辺における生活利便施設の集約化に向けて、利便性の高い公共交通サービスの提供とともに、都市機能、居住機能の立地誘導が必要
- ・にぎわいのあるまちづくりに向けて、公共交通を利用した外出機会の増加を支援する施策の検討が必要

北陸新幹線開業に伴う観光誘客の推進に向けた利便性の高い公共交通網の構築

- ・北陸新幹線福井開業によって首都圏をはじめとする県外や海外からの観光・ビジネス需要の増加が期待されており、北陸新幹線で訪れた観光・ビジネス客が公共交通を活用して交通圏内を快適に周遊できるよう、鉄道、バス等の乗り継ぎ利便性の向上が必要

公共交通と連携した観光まちづくりの推進

- ・観光施設や交流施設が鉄道、バス沿線に多く立地していることから、公共交通と連携した観光まちづくりの推進が必要
- ・本県観光の魅力向上に向け、イベント時や季節運行等の電車・バスや、タクシーの充実が必要

公共交通と連携した自転車利用環境の充実

- ・公共交通と連携した自転車利用環境の充実が必要
- ・自宅から駅・バス停までや、駅・バス停から目的地までにおいて、自転車の貸出や駐輪場の整備などの公共交通利用環境を補完する整備が必要

⑤ 住民等との協働

住民等との協働による公共交通の利用促進

- ・駅やバス停周辺を対象として、公共交通の利便性を活かした通勤、通学、通院や買物、余暇活動等における公共交通利用促進の啓発が必要
- ・日常生活に密着した路線バスやコミュニティバス等の確保、維持のため、住民や事業所等との協働による利用促進への取組みが必要

住民等との協働による地域貢献の取組み

- ・車に過度に依存した暮らしを見直し、高齢者でも出歩きやすく健康で快適な生活を確保し、子育て世代などの若年層にも魅力的なまちづくりを進めていくうえで、住民等との協働によって、公共交通を活かしたまちづくりの必要性、重要性を広く周知していくことが必要
- ・沿線地域において、福井鉄道感謝祭等のイベントの実施、鉄道駅や主要なバス停周辺における花植え活動等、身近な公共交通に向けて住民や各種団体等と連携し、継続していくことが必要

高齢者の運転免許返納支援

- ・高齢者による交通事故をなくしていくため、クルマを利用しなくても日常生活に必要な移動ができる環境づくりや免許返納後の公共交通利用を促す支援策が必要

2. 課題解決に向けた方向性

前頁で整理した課題について施策の体系ごとに分類すると、下図のとおりである。

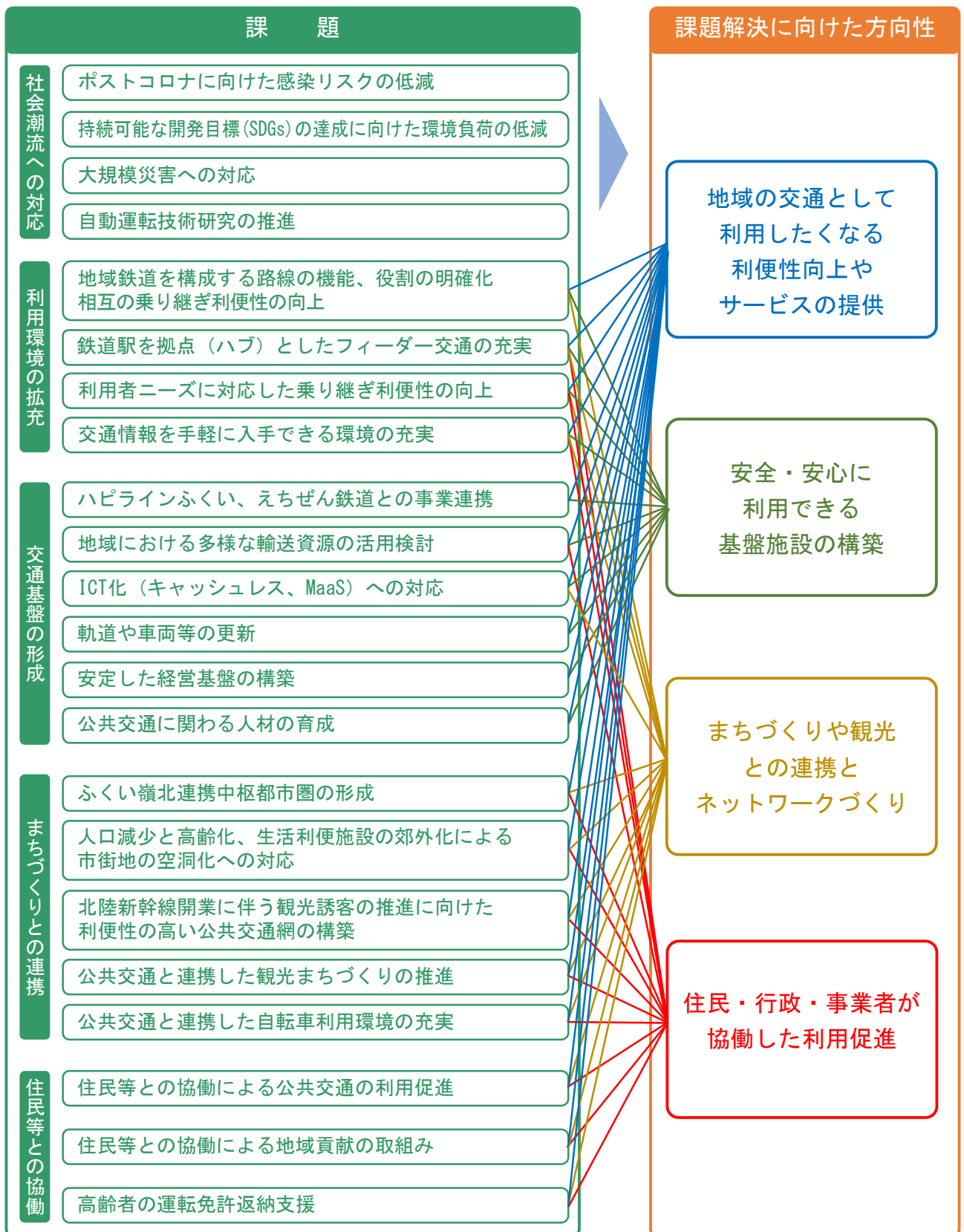


図3-1 公共交通の課題と課題解決に向けた方向性

第4章 福井鉄道交通圏地域公共交通計画

1. 基本方針

(1) 福井鉄道交通圏における公共交通ネットワークの維持・強化

福井鉄道福武線は、嶺北地域における南北方向の骨格を形成する幹線交通として、福井市、鯖江市、越前市の3市を連絡しており、その沿線には、住民の日常生活を支える商業、医療、学校、行政等の生活関連施設をはじめ、イベント・観光施設等が集積している。また、主要駅では、路線バス、コミュニティバス、タクシーと接続するとともに、パークアンドライド駐車場やレンタサイクルが整備されており、鉄道沿線だけでなく、池田町、南越前町、越前町を含む広範囲な地域に公共交通サービスを提供している。これらの生活機能と交通機能により、福井鉄道交通圏を形成している。

将来的には、令和6年春の北陸新幹線福井開業に向け、観光・ビジネスに対応した二次交通として、福井都市圏を形成するもうひとつの鉄道を軸とする交通圏である「えちぜん鉄道交通圏」やハピラインふくいとの連携により相乗的効果を発揮し、より利便性の高い地域公共交通の「受け皿」として公共交通ネットワークの維持・強化を図るものとする。

(2) 鉄道網の連携による持続可能な鉄道サービスの提供

北陸新幹線福井開業に伴い新たな地域鉄道としてハピラインふくいが開業する。ハピラインふくいは、北陸新幹線の並行在来線として敦賀駅から石川県境（大聖寺駅）までを連絡し、JR北陸本線、小浜線、越美北線、IRいしかわ鉄道と接続する広域路線である。福井鉄道交通圏においては、福井鉄道福武線と同様に南北方向の鉄道で近接するルートにあるものの設置駅数が大きく異なり（福井―武生：ハピラインふくい 6駅、福井鉄道福武線 25駅）、独立した駅勢圏をもち地域交通を支えており、えちぜん鉄道を加えた鉄道3社が連携することにより持続可能な鉄道サービスの提供が期待されている。

このため、持続性のあるまちづくりに向けて、交通圏の特性を活かしたコンパクトで魅力ある定住環境の形成を図るとともに、住民や観光・ビジネス客の多様なニーズに対応した利便性の高いサービスの提供により、広域性、速達性、快適性の向上を図る。

(3) 交通事業者、沿線市町、地域住民の協働によるまちづくりの推進

本計画では、各交通事業者と沿線市町の協働によって、福井鉄道を軸とする広域的な交通圏において、圏域の地域特性や既存のコミュニティを踏まえたうえで、主要駅や路線バス、コミュニティバスの乗継バス停周辺を公共交通の利便性の高い拠点地区として位置づけ、各種都市機能の集積を誘導するとともに、パークアンドライド駐車場の整備、自転車利用環境の向上を図り、福井鉄道福武線を主軸に路線バス、コミュニティバス、タクシー等によって公共交通ネットワークを形成するものとする。これにより、移動の利便性が高く、車に頼り過ぎない住みやすいコンパクトなまちづくりを目指すとともに、交通圏を対象とする周遊性のある観光のまちづくりを目指すものとする。

一方、交通圏域の住民は、公共交通の意義を理解し、積極的に公共交通を利用する機会を設けることで、公共交通のサービス水準の維持・向上につなげることを目指すものとする。

2. 計画の目標

福井鉄道福武線は交通圏を形成する主軸として、路線バスやコミュニティバスは地域密着型のフィーダー交通として、日常生活に不可欠な地域住民の足としての役割を担っており、公共交通が地域のまちづくりに必要不可欠であることを今以上に認識し、多くの住民によって「地域に親しまれ共に育む公共交通」として利活用していかなければならない。

また、北陸新幹線開業に伴う観光・ビジネス客の増加に対応するとともに、さらなる誘客を図り、人口減少、高齢化等による公共交通の利用者減少を補うとともに新型コロナウイルス感染症拡大により減少した公共交通利用者の回復を図る必要がある。

このため、交通圏内の主要乗継拠点を連絡する公共交通ネットワークを拡充するとともに、キャッシュレス化、MaaS等の導入によるICT化を推進することで、移動の利便性が高く、車に頼らなくても住みやすいまちづくりや、周遊性の高い魅力ある広域観光のまちづくりを目指す。

本計画の計画期間内に北陸新幹線福井開業を迎えるため、将来像実現に向けた基本的な4つの目標に加えて、北陸新幹線開業に関連する重点事項を設定する。

<目指すべき公共交通の将来像>

「地域に親しまれ共に育む公共交通」

～北陸新幹線開業に伴う観光誘客の推進～

<重点事項>

- ・ 移動を快適にする地域公共交通ネットワーク化、ICT化の推進
- ・ 広域的な観光・ビジネス需要の増大に寄与する地域観光との連携

目標 1

地域の交通として利用したくなる公共交通の実現

- 駅やバス停へのアクセス向上、他交通機関との接続向上を進め、「地域の交通として利用したくなる公共交通」を目指す。

目標 2

安全・安心に利用できる公共交通の実現

- 計画的な鉄道施設への設備投資や維持修繕、バス路線への運行支援を行い、「安全・安心に利用できる公共交通」を目指す。

目標 3

車に頼り過ぎない住みやすいまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現

- 主要拠点駅を中心としたコンパクトなまちづくりや、沿線の観光施設との連携を進め、「車に頼り過ぎない住みやすいまちづくりや広域観光と連携した公共交通」を目指す。

目標 4

住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

- 住民、行政、事業者の協働により、公共交通への意識を高め、利用促進につなげるための取組みを進め、「住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通」を目指す。

<福井鉄道交通圏における地域公共交通ネットワーク>

表4-1 地域公共交通ネットワークを形成する軸と拠点

		機能・役割
公共交通中心軸 (福井鉄道福武線)		<ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線に接続する二次交通を担い、交通圏を形成する主軸として、福井市、鯖江市、越前市間を相互に連絡する。 ハピラインふくい(JR北陸本線)、えちぜん鉄道と接続することで、嶺北地域における鉄道による幹線公共交通としての役割を担う。
公共交通拠点地区		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利便性の高い地区に住民の日常生活に必要な商業、医療、行政サービス等の生活関連施設を集積することで、車に頼り過ぎることなく、便利で快適な生活の場を形成する。 (福井駅、田原町駅、浅水駅、神明駅、西鯖江駅、たけふ新駅、織田バスターミナル、稲荷、河野の各周辺地区)
主要乗継拠点	福井駅	<ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線をはじめ、ハピラインふくい(JR北陸本線)、福井鉄道福武線、えちぜん鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシー等が結節する総合交通ターミナルとして、公共交通ネットワークの中心的な役割を担う。
	田原町駅 浅水駅 神明駅 西鯖江駅 たけふ新駅	<ul style="list-style-type: none"> 福井市、鯖江市、越前市において、福井鉄道福武線と路線バス、コミュニティバス、タクシー等が結節する主要乗継拠点として、公共交通ネットワークの骨格を形成する。
	あいぱーく今立 稲荷バス停 河野バス停 織田バスターミナル	<ul style="list-style-type: none"> 越前市(今立)、池田町、南越前町(河野)、越前町において、福井駅、神明駅、たけふ新駅等に接続する路線バスと各町内のコミュニティバスの主要乗継拠点として、公共交通ネットワークを形成する。
	乗継拠点 (その他の鉄道各駅)	<ul style="list-style-type: none"> パークアンドライド駐車場の設置により自家用車から鉄道への乗り継ぎ利便性を高めるとともに、コミュニティバス等の接続や自転車駐輪場の設置により利便性を高める。
フィーダー交通		<ul style="list-style-type: none"> 主要乗継拠点において、路線バス、コミュニティバス、タクシー等によって、駅周辺及び郊外地域を連絡する。 幹線バスは、幹線公共交通である福井鉄道福武線に接続するフィーダー交通として、主要乗継拠点間を連絡する。

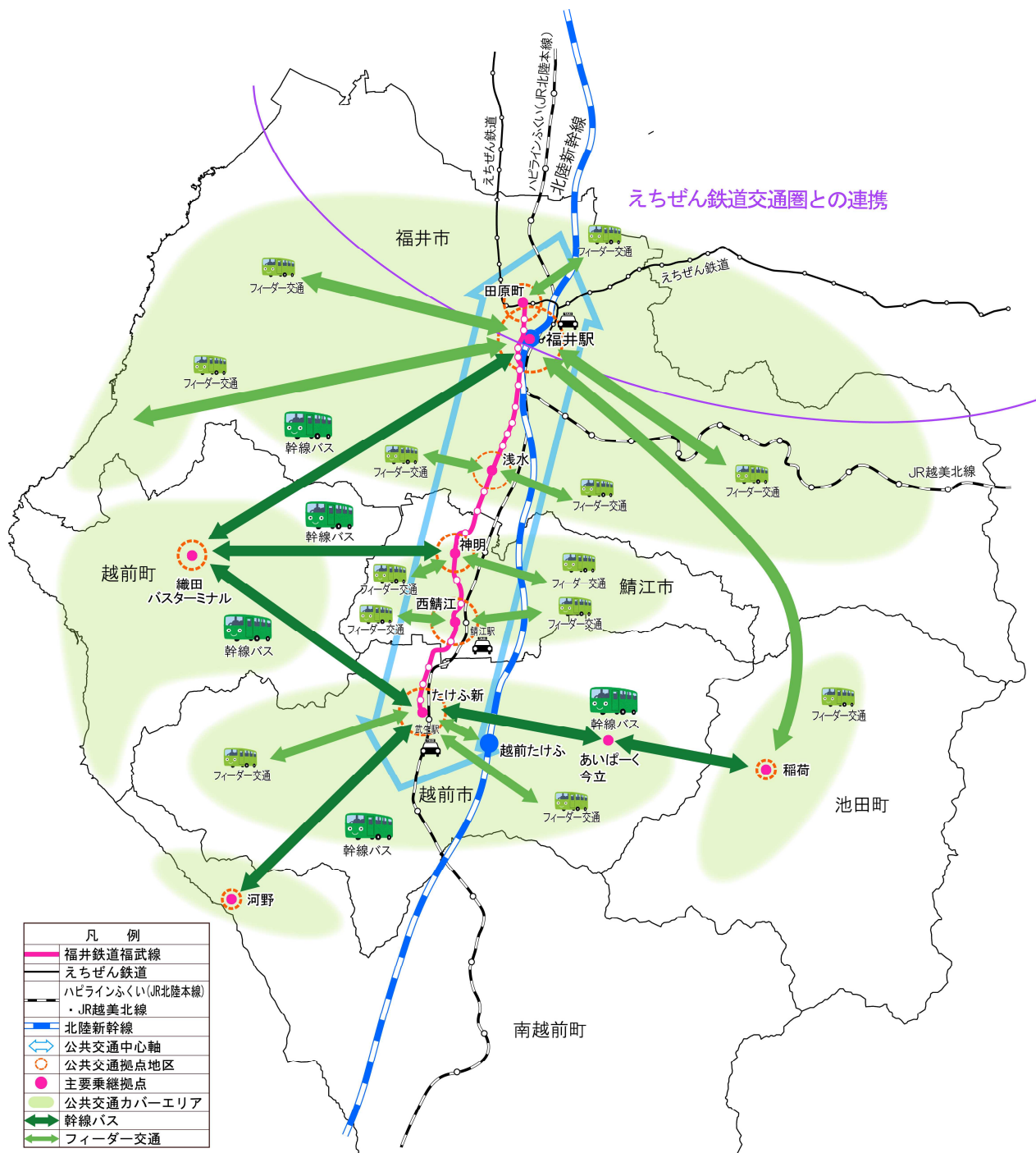


図4-1 公共交通ネットワーク方針図

3. 計画の目標を達成するために行う事業とその実施主体

(1) 目標達成に向けた主要な施策と実施主体

目指すべき公共交通の将来像である「地域に親しまれ共に育む公共交通」の実現に向けて施策を展開する。

そのうち、本計画の計画期間内に北陸新幹線福井開業を迎えることになることから、特に重点的に実施または実施を検討する施策を以下のように設定する。

【重点事項】移動を快適にする地域公共交通ネットワーク化、ICT化の推進

施 策	実施主体
フィーダー交通の充実(路線バス、コミュニティバス) (施策番号 6)	沿線市町、バス事業者
越前たけふ駅との接続 (施策番号 8)	福井鉄道、越前市
運賃体系の総合的再構築 (施策番号 9)	福井鉄道、バス事業者、福井県、沿線市町
ICT化の推進 (施策番号 12)	福井鉄道、えちぜん鉄道、ハピラインふくい、バス事業者、福井県、沿線市町
観光客受け入れ環境の充実 (施策番号 53)	
・ふくい嶺北連携中枢都市圏全体でのMaaSによる交通システムの構築・導入	沿線市町、福井県、福井鉄道、バス事業者
・キャッシュレス化、MaaS導入の運用	福井鉄道、バス事業者、福井県、沿線市町

【重点事項】広域的な観光・ビジネス需要の増大に寄与する地域観光との連携

施 策	実施主体
鉄道文化財の活用 (施策番号 43)	福井鉄道、越前市
企画電車の運行 (施策番号 48)	福井鉄道、福井県、沿線市
企画乗車券の充実 (施策番号 50)	福井鉄道、バス事業者
観光周遊バスの運行 (施策番号 51)	バス事業者
観光客受け入れ環境の充実 (施策番号 53)	
・えちぜん鉄道やバスと連携した多様なフリーキップの充実	福井鉄道、えちぜん鉄道、バス事業者
・ハピラインふくと連携したフリーキップの研究・検討	福井鉄道、ハピラインふくい
・福井鉄道イメージキャラクターを活用した企画の充実	福井鉄道、福井県
・丹南地域の観光スポット(越前和紙、越前打刃物、越前焼、眼鏡、越前漆器)を巡回するバスの運行	バス事業者
・福井県内の観光地を巡るバスツアーの運行	バス事業者
・福井県内の観光地を巡るタクシーの運行	タクシー事業者
・ふくい嶺北連携中枢都市圏全体でのMaaSによる交通システムの構築・導入	沿線市町、福井県、福井鉄道、バス事業者
・キャッシュレス化、MaaSの運用	福井鉄道、バス事業者、福井県、沿線市町

(2) 目標別の個別施策と実施主体

公共交通の将来像の実現のための4つ目標における個別施策とその実施主体は、以下のとおりである。

目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現										
	施策	実施内容等	実施主体	実施スケジュール(年度)						
				R5	R6	R7	R8	R9		
■駅やバス停へのアクセス環境の向上										
1	たけふ新駅以南への延伸可能性研究	利便性向上のため、たけふ新駅以南への延伸可能性を研究	福井鉄道、福井県、越前市							
2	駅前線区間の快適性及び利便性の検証及び対応	駅前線区間の所要時間の緩和策として短絡線を検討・計画 駅前線区間における、現状利用者等に対する快適性や利便性の検証が必要であり、結果に応じて必要な対応を推進	福井鉄道、福井県、福井市							
3	パークアンドライド駐車場の利用環境の向上	既存のパークアンドライド駐車場の設備等の修繕	福井鉄道、福井県、沿線市							
4	駐輪場の整備改修	利便性向上のための駐輪場整備及び改修	福井鉄道、福井県、沿線市							
5	駅待合環境の整備改修	利便性向上のため、駅トイレ等の整備及び改修	福井鉄道							
6	フィーダー交通の充実(路線バス、コミュニティバス)	交通圏内を運行する路線バス、コミュニティバスのルート、運行形態等の見直し、フリー乗降制の検討、新たな交通モードの検討	沿線市町、バス事業者							
7	多様な輸送資源の活用	従来の公共交通サービスに加え、自家用有償旅客運送、福祉輸送、福祉施設の送迎バスやスクールバスの活用を検討	沿線市町							
8	越前たけふ駅との接続	首都圏からの来訪者を誘導するため、北陸新幹線越前たけふ駅との接続を考慮した二次交通の整備、路線バス、コミュニティバスのルート等の見直し(定額タクシー、シャトルバスなど)	福井鉄道、越前市							
■利用者ニーズに対応した利便性の向上										
9	運賃体系の総合的再構築	バスや電車の乗り継ぎなど、利用者ニーズに応じた運賃体系(企画乗車券等含む)の見直し	福井鉄道、バス事業者、福井県、沿線市町							
10	運行ダイヤ等の見直し	接続性を改善し分かりやすい運行ダイヤであるパターンダイヤ、待ち時間の短縮等の検討	福井鉄道、バス事業者							
11	乗車環境を改善する車両の対策	混雑時の多客対応や乗り心地、空調等の快適性の改善を検討	福井鉄道							
12	ICT化の推進	キャッシュレス化、MaaS導入による乗り継ぎや運賃支払いの効率化	福井鉄道、えちぜん鉄道、ハピラインふくい、バス事業者、福井県、沿線市町							
13	新たな企画乗車券の造成	利用者ニーズを掘り起こす企画乗車券の造成	福井鉄道、バス事業者							
■情報発信の充実										
14	情報発信の強化	ホームページ、SNS等の充実	福井鉄道、福井県、沿線市町、バス事業者							
■接客サービスの向上										
15	社員のマナー・接客サービスの向上	利用者本位のサービスの向上	福井鉄道、バス事業者							

■ 前回計画からの追加施策

■ 前回計画からの更新施策

沿線市：福井市、鯖江市、越前市

沿線市町：福井市、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町

目標２ 安全・安心に利用できる公共交通の実現

	施策	実施内容等	実施主体	実施スケジュール(年度)				
				R5	R6	R7	R8	R9
■安全で安心な公共交通の基盤づくり								
16	鉄道施設・設備の更新	軌道、電路、橋りょう、変電所、信号保安設備、車両等の更新・改修	福井鉄道	■	■	■	■	■
17	鉄道施設・設備の維持修繕	レール・マクラギ等の交換、電車線・通信線等の交換	福井鉄道	■	■	■	■	■
18	車両更新	ノンステップバスの導入	バス事業者	■	■	■	■	■
19	大規模災害の対応	大規模災害時の早期復旧体制の確立	福井鉄道、福井県、沿線市町	■	■	■	■	■
20	自動運転車両等の研究	運転支援システムの導入を見据えた調査・研究	沿線市町、福井県、福井鉄道	■	■	■	■	■
21	鉄道事業における人材の育成	鉄道3社による合同研修の実施	福井鉄道、えちぜん鉄道、ハピラインふくい	■	■	■	■	■
22	踏切等の安全対策の強化	踏切、信号等の点検や事故防止対策の強化	福井鉄道	■	■	■	■	■
■安全で快適な交通環境づくり								
23	交通マナー啓発活動	交通マナーや啓発活動の実施等(交通安全教室等の開催)	福井鉄道、バス事業者、福井県、沿線市	■	■	■	■	■
24	ポストコロナへの対応	車両や待合施設の換気、消毒等の感染対策の徹底	福井鉄道、バス事業者	■	■	■	■	■
■安定した公共交通の経営基盤を支える体制づくり								
25	設備等の更新・維持等にかかる経費の縮減	えちぜん鉄道との車両部品等の共有化	福井鉄道、えちぜん鉄道	■	■	■	■	■
26		検査業務のIT化等維持管理の省力化、電力スマート化による電力使用量の削減、運行車両数の見直し等	福井鉄道	■	■	■	■	■
27	駅管理業務の効率化	利用客サービス水準に対応した駅管理業務体制の見直し(人員の配置、有人時間帯等)によるコスト削減	福井鉄道	■	■	■	■	■
28	広告収入等の拡大	駅、電停、車両を対象とした広告スペースの提供、電車関連グッズの拡充、販売促進	福井鉄道	■	■	■	■	■
29	設備更新費への支援	鉄道施設・設備の更新費への支援	福井県	■	■	■	■	■
30	維持修繕費への支援	線路・電路等の維持費への支援	沿線市	■	■	■	■	■
31	沿線市による土地無償貸付	沿線3市が鉄道用地を保有し、福井鉄道へ無償貸与	沿線市	■	■	■	■	■
32	バス路線維持への行政支援	欠損補助	福井県、沿線市町	■	■	■	■	■
33	経営強化に向けた取組	えちぜん鉄道やハピラインふくいと資材等の共同調達、工事の一括発注、合同イベント等を行う	福井鉄道、えちぜん鉄道、ハピラインふくい	■	■	■	■	■
		運賃見直しの検討	福井鉄道	■	■	■	■	■
		貨物輸送の導入検討(貨客混載)	福井鉄道	■	■	■	■	■
34	環境負荷の低減	車両改良等による省エネ化の推進	福井鉄道	■	■	■	■	■



前回計画からの追加施策



前回計画からの更新施策

沿線市：福井市、鯖江市、越前市

沿線市町：福井市、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町

目標3 車に頼り過ぎない住みやすいまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現

	施策	実施内容等	実施主体	実施スケジュール(年度)				
				R5	R6	R7	R8	R9
■駅を中心としたまちづくり								
35	福井駅を中心とした居住誘導	福井駅を中心としたエリアでの、住宅建設やリフォーム等への補助	福井市					→
36	たけふ新駅周辺の居住誘導	たけふ新駅を含めた中心市街地地区において、住宅の取得費や空き家のリフォーム補助等	越前市					→
37	福井駅前への店舗誘致	中央1、3丁目でのリノベーションによる店舗等開業への経費補助	福井市					→
38	田原町駅を拠点としたにぎわいの創出	田原町駅周辺において、交流人口の増加やイベント等によるにぎわいの創出	福井市、福井鉄道、えちぜん鉄道、自治会、地元商店街等					→
39	西鯖江駅を拠点としたにぎわいの創出	つつじまつり、誠市など、西鯖江駅周辺で行われるイベントとの連携による交流人口の増加やにぎわいの創出	鯖江市、鯖江商工会議所、鯖江公共交通振興会等					→
40	北府駅を拠点としたにぎわいの創出	北府駅周辺において、北府駅鉄道ミュージアムを活用した交流人口の増加やイベント等によるにぎわいの創出	越前市、福井鉄道					→
■まちづくりや観光との連携								
41	地域のまちづくり活動、教育活動等に対する公共交通利用促進	地域のまちづくり活動及び遠足等の教育活動等に公共交通機関を利用してもらうため、公民館等を通じ、フリーキップ等の利用セールス等を実施	福井鉄道、バス事業者、沿線市町					→
42	公共施設(観光施設含む)との連携による利用促進	鉄道利用者に対する沿線公共施設利用料金の割引の検討 沿線の公共施設、店舗(小売り、飲食)、沿線で開催されるイベントでの公共交通利用の呼びかけ(チラシやホームページ掲載のフォーマット提供、電車・バス等の時刻表提供など)	福井鉄道、福井県、沿線市町					→
43	鉄道文化財の活用	北府駅周辺の登録有形文化財(北府駅本屋、バス旧車庫、車両工場)、福井鉄道の200形車両の展示を活用した観光の拠点としての魅力の発信	福井鉄道、越前市					→
44	地域資源を活用したイベント・ツアー企画	電車沿線の歴史自然等と連携したイベント・ツアーの開催	福井鉄道、沿線市					→
45	ショッピングセンター・シティホテル等との連携	ショッピングセンター、商店街等と連携した企画の拡充、ホテルランチ(スイーツ)付1日フリー乗車券の販売促進や企画拡充	福井鉄道、福井県、沿線市町					→
46	沿線観光・文化等施設情報の提供	地域のまちづくりや観光施設と連携した情報提供	福井鉄道、沿線市町					→
47	野外学習等事業に対する運賃一部助成	沿線の高校生までを対象に、電車を利用して体験学習を行う場合に運賃補助	福井鉄道、バス事業者、沿線市					→
48	企画電車の運行	サイクルトレイン、レトラムの運行、新たな企画電車の創出	福井鉄道、福井県、沿線市					→
49	レンタサイクルの拡充	観光まちづくりを促進させるために、主要な鉄道駅や施設への自転車の設置や継続的な維持管理	沿線市町					→
50	企画乗車券の充実	既存の企画乗車券に加え、観光客をターゲットとしたバス、電車乗継乗車券(周遊バス等)等の販売	福井鉄道、バス事業者					→
51	観光周遊バスの運行	観光スポットを巡回するバスの運行	バス事業者					→
52	臨時列車・臨時バスの運行	フェニックスまつり(福井市)、つつじまつり(鯖江市)、たけふ菊人形(越前市)、越前陶芸まつり(越前町)等での臨時列車・臨時バス運行	福井鉄道、バス事業者					→



前回計画からの追加施策



前回計画からの更新施策

沿線市：福井市、鯖江市、越前市

沿線市町：福井市、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町

施 策	実施内容等	実施主体	実施スケジュール(年度)					
			R5	R6	R7	R8	R9	
■まちづくりや観光との連携								
53	観光客受け入れ環境の充実	えちぜん鉄道やバスと連携した多様なフリーキップの充実	福井鉄道、えちぜん鉄道、バス事業者	→				
		ハピラインふくいと連携したフリーキップの研究・検討	福井鉄道、ハピラインふくい	→				
		福井鉄道イメージキャラクターを活用した企画の充実	福井鉄道、福井県	→				
		丹南地域の観光スポット(越前和紙、越前打刃物、越前焼、眼鏡、越前漆器)を巡回するバスの運行	バス事業者		→			
		福井県内の観光地を巡るバスツアーの運行	バス事業者		→			
		福井県内の観光地を巡るタクシーの運行	タクシー事業者		→			
		ふくい嶺北連携中枢都市圏全体の MaaS による交通システムの構築・導入	沿線市町、福井県、福井鉄道、バス事業者	→				
		キャッシュレス化、MaaS の運用	福井鉄道、バス事業者、福井県、沿線市町		→			
54	越前たけふ駅との接続	首都圏からの来訪者を誘導するため、北陸新幹線越前たけふ駅との接続を考慮した二次交通の整備、路線バス、コミュニティバスのルート等の見直し(定額タクシー、シャトルバスなど)	福井鉄道、越前市		→			
55	サンドーム福井やフェニックスプラザ等との連携	サンドーム福井やフェニックスプラザ等で開催されるイベント時の福武線やバスの利用	沿線市町、福井県、福井鉄道、バス事業者		→			
56	駅施設の活用	使用していないプラットホームの有効活用(再利用)	福井鉄道		→			



前回計画からの追加施策



前回計画からの更新施策

沿線市：福井市、鯖江市、越前市

沿線市町：福井市、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町

目標 4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

	施策	実施内容等	実施主体	実施スケジュール(年度)				
				R5	R6	R7	R8	R9
■乗る運動や利用促進								
57	公共交通とまちづくりに向けた意識啓発と利用促進	福井鉄道感謝祭、まちフェス、カーフリーデー等の各種イベントに合わせて、公共交通とまちづくり事業を実施	市民団体、企業、福井鉄道、福井県、沿線市					
58	モビリティマネジメント	小学校等で公共交通に関する出前講座の実施 高校入学予定者に公共交通情報を配布等 地区別総合時刻表の作成・提供、個人・グループへのマイ時刻表の作成支援	福井鉄道、福井県、沿線市、サポート協議会					
59	カー・セーブデーの推進	公共交通機関の利用やエコ通勤の促進(毎週金曜日)	福井鉄道、福井県、沿線市、参加企業、団体					
60	福鉄感謝祭の開催	鉄道の日(10月14日)に合わせたイベントの開催	福井鉄道					
61	自動車免許返納者への外出支援	65歳以上の運転免許返納者に、福井鉄道の電車利用券の配布	沿線市					
62	自動車免許返納者への外出支援の拡充の検討	65歳以上の運転免許返納者に、地域のコミュニティバスの無料乗車券等の交付	沿線市町					
63	通学支援補助	通学用の電車・バス定期券の購入補助	越前町、池田町、南越前町					
64	法人利用の促進	沿線事業所への電車利用の働きかけ及び沿線企業へのセールス訪問を通年実施	福井鉄道					
65	町内在住者の利用促進	町内在住者による路線バス利用への運賃補助(運賃補助券の交付)	南越前町					
66	マイレール意識の醸成	ふるさと納税、クラウドファンディングの実施	福井鉄道、福井県、沿線市					
■地域住民との連携								
67	駅の美化運動	駅や鉄道敷きへの花植え等による美化運動の継続	福井鉄道、福井県、沿線市、自治会、市民団体、サポート団体					
68	地域イベントとの連携強化	沿線地域で開催されるイベントと公共交通利用との連携	福井鉄道、沿線市、サポート団体					
69	沿線サポート団体等との連携強化	サポート団体等との連携を強化し、利用促進に向けた取組みを実施	福井鉄道、沿線市サポート団体					



前回計画からの追加施策



前回計画からの更新施策

沿線市：福井市、鯖江市、越前市

沿線市町：福井市、鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町

4. 計画の目標の達成状況の評価について

(1) 計画目標の指標

目指すべき公共交通の将来像を実現させるための計画目標の4項目について、10指標を設定し、目標年次（令和9年度）の数値目標を設定する。

■目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現

評価指標	数値目標		定義及び内容
	現 状	将来目標 (R9年度)	
(指標1) 公共交通の利用者数	6,480 千人 (H30年度)	6,800 千人	定義： ・福井鉄道、京福バス、福鉄バス、すまいるバス、つつじバス、のろっさ、なかま号、住民利用バス(河野地区)、フレンドリー号の乗客数の合計 内容： ・北陸新幹線開業に伴う観光・ビジネス需要の増加を主要因として、コロナ禍前(平成30年度)を基本に5%増を目指す

利用者数(人/年)	現 状 (H30年度)	将来目標 (R9年度)	備 考
福井鉄道	2,043,885	2,200,000	8%増
フィーダーバス	4,436,004	4,600,000	4%増
京福バス	3,355,383		
福鉄バス	382,830		
すまいる(福井市)	423,876		
つつじバス(鯖江市)	143,579		
のろっさ(越前市)	81,946		
なかま号(池田町)	16,287		
河野住民利用バス(南越前町)	1,189		
フレンドリー号(越前町)	30,914		
計	6,479,889	6,800,000	5%増

■目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現

評価指標	数値目標		定義及び内容
	現 状	将来目標 (R9年度)	
(指標2) 故障等部内原因による鉄道の遅延障害件数	13 件 (R3年度)	5 件以下	定義： ・故障等の部内原因による福武線の遅延障害件数 (車両故障等により運転を休止または30分以上遅延した件数) 内容： ・現状の発生件数を踏まえ努力目標として、5件以下を目指す
(指標3) 交通事故等の部外原因による鉄道の遅延障害件数	2 件 (R3年度)	0 件	定義： ・交通事故等の部外原因による福武線の遅延障害件数 (車両故障等により運転を休止または30分以上遅延した件数) 内容： ・現状の発生件数を踏まえ努力目標として、0件を目指す

■目標3 車に頼り過ぎない住みやすいまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現

評価指標	数値目標		定義及び内容
	現 状	将来目標 (R9年度)	
(指標4) 鉄道とバスが接続する 主要拠点駅周辺（半径 500m圏域）の人口	24,012 人 (R3年度)	24,000 人	定義：・福井駅、田原町駅、浅水駅、神明 駅、西鯖江駅、たけふ新駅の半径 500m以内の町丁目の合計人口 内容：・立地適正化計画等による駅周辺への 人口定着を図るものとして、現状維 持を目指す
(指標5) 鉄道とバスが接続する 主要拠点駅周辺（半径 500m圏域）の生活利 便施設数	2,346 施設 (R3年度)	2,350 施設	定義：・福井駅、田原町駅、浅水駅、神明 駅、西鯖江駅、たけふ新駅の半径 500m以内の立地する医療、福祉、 文化、商業の合計施設数 内容：・立地適正化計画等による駅周辺への 施設立地を誘導するものとして、現 状維持を目指す
(指標6) 鉄道のフリーキップ 等の利用者数	79,518 人 (H30年度)	114,800 人	定義：・土日祝日限定の1日フリーキップや えちぜん鉄道との共通1日フリーキ ップ等の利用者数 内容：・北陸新幹線開業に伴う観光・ビジネ ス需要の増加、えちぜん鉄道との共 通キップにより、コロナ禍前(平成 30年度)を基本に約40%増を目指す
(指標7) 65歳以上が対象の 1日フリーキップの 利用者数	55,674 人 (H30年度)	60,000 人	定義：・65歳以上が対象となるプレミア会員 の鉄道利用者数 内容：・沿線市周辺の対象者へのPRを積極 的に行い、コロナ禍前(平成30年度) を基本に8%増を目指す
(指標8) 観光周遊バスの利用 者数	8,914 人 (H30年度)	12,700 人	定義：・さくら号、つつじ祭り臨時バス、菊 人形臨時バス、陶芸まつり臨時バ ス、田楽能舞臨時バス、SLバス等 の合計利用者数 内容：・イベント時のPRを積極的に行い、 コロナ禍前(平成30年度)を基本に約 40%増を目指す
(指標9) 野外学習等運賃補助制 度利用者数	15,156 人 (H30年度)	15,500 人	定義：・児童・生徒野外学習運賃補助制度の 合計利用者数 内容：・交通圏内の保育、教育施設、沿線自 治会等へのPRを選挙区的に行い、 コロナ禍前(平成30年度)の値を目指 す

■目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

評価指標	数値目標		定義及び内容
	現 状	将来目標 (R9年度)	
(指標10) サポート会等の市民団 体の活動回数	27 回 (H30年度)	32 回	定義：・サポート会、自治会等の活動回数 内容：・コロナ禍前(平成30年度)を基本に 20%増を目指す

(2) 計画の推進体制

この計画に掲載した利用促進の各施策をスパイラルアップ的に推進するため、地方自治体と福井鉄道、バス事業者が協働し、社会情勢の変化に応じた評価・改善の仕組みを定める。

①PDCAサイクルの実行

本計画で掲げた目標を達成するために、コンパクトで住みやすいまちづくりに向けた新たな取組みの計画(Plan)を策定し、計画された取組みを継続的に実施する(Do)、実施した取組みについて検証および評価し(Check)、問題点があれば見直しを検討する(Action)、このようなPDCAサイクルを実行する。連携協議会では、点検・評価の結果を受けて、見直しや修正が必要であれば適時修正を行い、計画期間中の推進を図る。

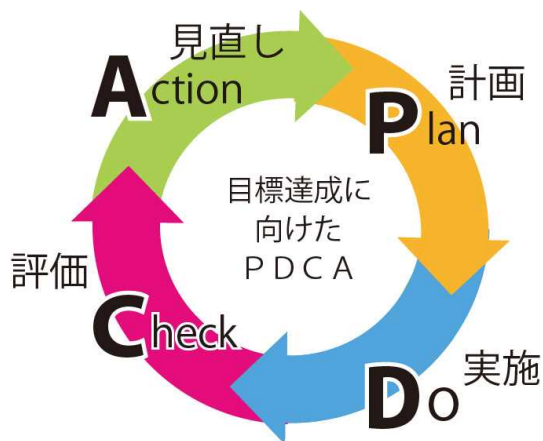


図5-3 PDCAサイクルのイメージ

②PDCAサイクルの実施体制と評価検証方法

PDCAサイクルの実行は、妥当性・有効性・効率性・持続性の視点を踏まえ、福井鉄道福武線活性化連携協議会が、形成計画の進捗管理及び施策の評価・検証を行う。

実施体制としては、福井鉄道福武線活性化連携協議会のもとに「福武線再建スキーム管理部会」を継続して設置する。

福武線再建スキーム管理部会は、プロセスの過程だけを評価・検証するのではなく、施策を実施し、どのような効果があったのか、なぜ成果が出なかったのか、何をすれば利用者のニーズに応えられるのか等、施策や指標を具体的に評価・検証し、連携協議会に報告を行う。

連携協議会は部会から報告を受けた内容を踏まえ、計画全体の進捗管理及び施策や指標の評価・検証を行う。

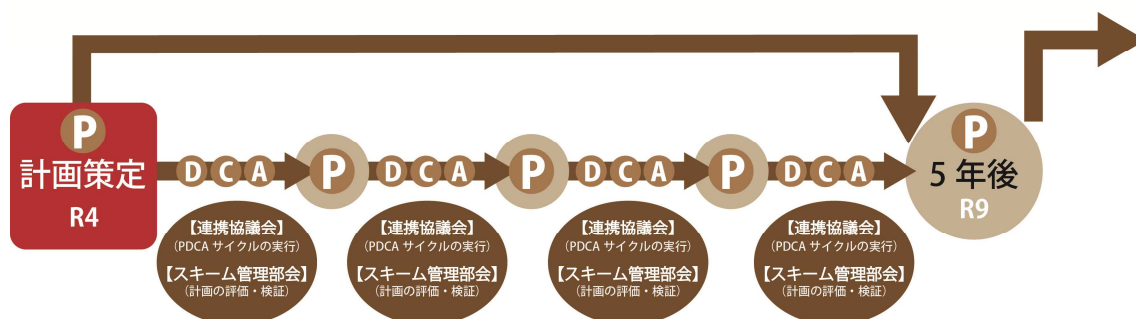


図5-4 PDCAサイクルの実行体制イメージ

③協議会及び部会の役割

福井鉄道福武線活性化連携協議会のもとに設置された各部会の役割は以下のとおりである。また各部会の委員は必要に応じて追加できるものとする。

≪福井鉄道福武線活性化連携協議会 委員及び事務局≫

福井鉄道交通圏地域公共交通計画の策定、進捗管理、施策や指標の評価・検証を行う。

役員	所属	役職	氏名
座長	福井大学学術研究院工学系部門	教授	川本 義海
会長	福井市	市長	東村 新一
副会長	鯖江市	市長	佐々木 勝久
副会長	越前市	市長	山田 賢一
委員	福井市福井鉄道福武線 サポート団体協議会	会長	奥村 清治
監事	福井鉄道福武線利用促進 鯖江市民会議	会長	橋本 雅夫
監事	越前市・福武線を応援する 連絡協議会	会長	福島 宏
委員	福井県警察本部交通部 交通規制課	課長	松浦 則幸
委員	福井県地域戦略部	部長	吉川 幸文
委員	福井県土木部道路保全課	課長	三田村 佳紀
委員	福井鉄道株式会社	代表取締役社長	村田 治夫
オブザーバー	国土交通省中部運輸局鉄道部	部長	今村 徹
オブザーバー	池田町総務財政課	課長	森川 弘一
オブザーバー	南越前町観光まちづくり課	課長	初一 剛
オブザーバー	越前町総務部門	理事	杉本 恭伸
オブザーバー	公益社団法人 福井県バス協会	会長	岩本 裕夫
事務局	福井市都市戦略部地域交通課		

《福武線再建スキーム管理部会 委員及び事務局》

地域公共交通計画に基づく事業の進捗状況及び維持修繕の用途を含む福武線の経営状況のチェックや、指標に関する具体的な評価・検証を行い、福井鉄道福武線活性化連携協議会に報告する。

	所 属	役 職	氏 名
委 員	福井大学学術研究院工学系部門	教 授	川本 義海
	公認会計士		安久 彰
	福井県地域戦略部地域鉄道課	課 長 [地域戦略部副部長 (地域鉄道)]	大石 秀昭
	福井市都市戦略部	部 長	桑原 雄二
	鯖江市政策経営部	部 長	宮田 幹夫
	越前市企画部	部 長	西野 吉幸
	福井鉄道株式会社	代表取締役社長	村田 治夫
事務局	越前市企画部総合交通課		

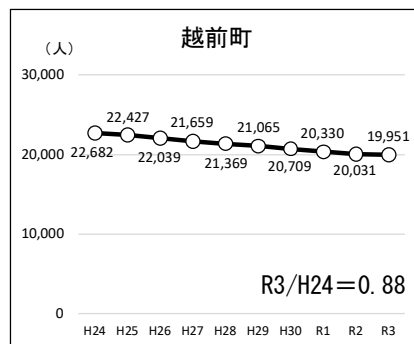
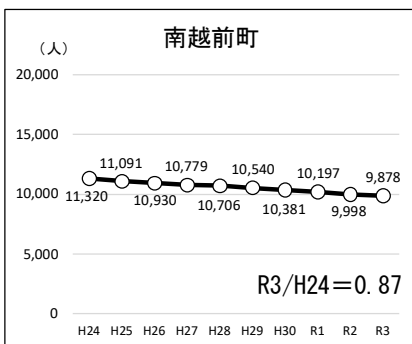
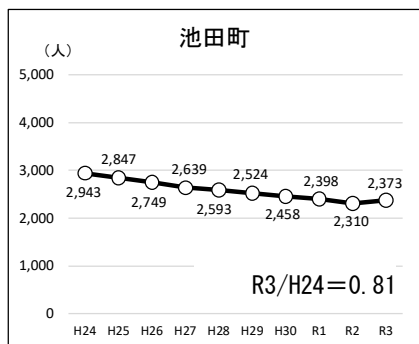
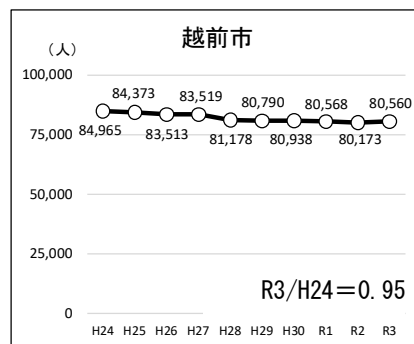
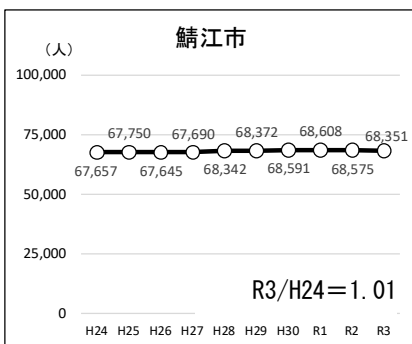
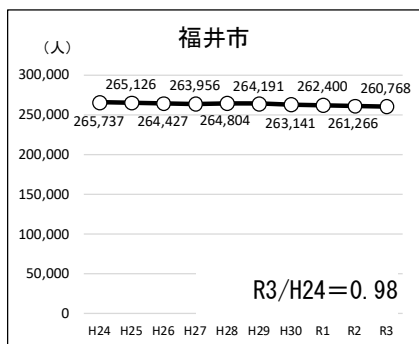
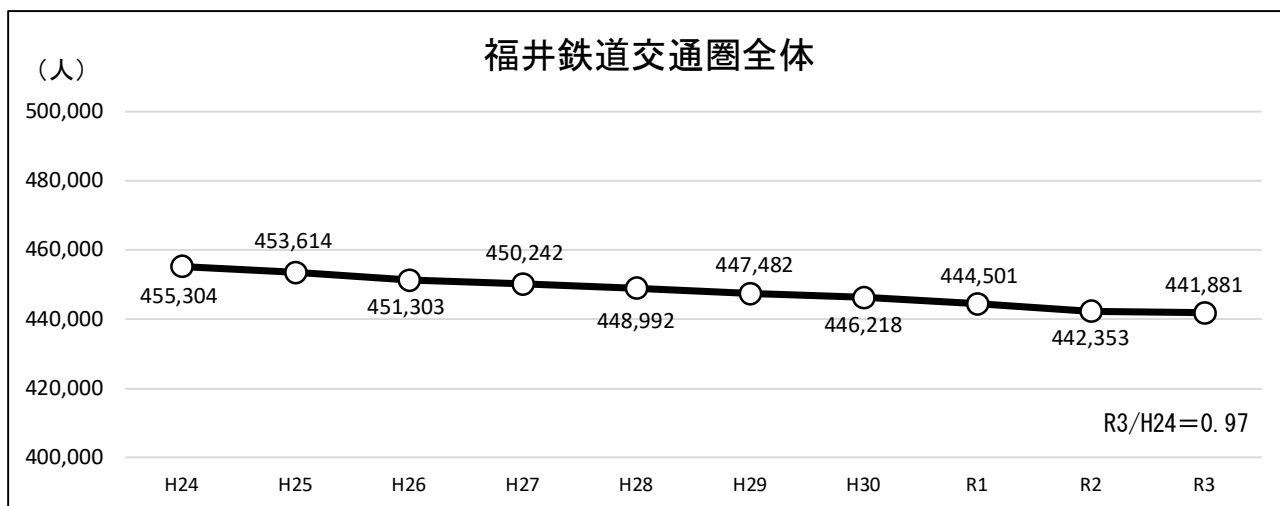
資料編

1. 福井鉄道交通圏の概況

(1) 福井鉄道交通圏6市町の概況

① 人口

○交通圏全体の人口は、減少傾向にあり、直近10年間で約3%減少した。各市町の人口は、鯖江市で若干増加傾向にあるものの、他市町は減少している。特に、池田町の人口減少率が高い。

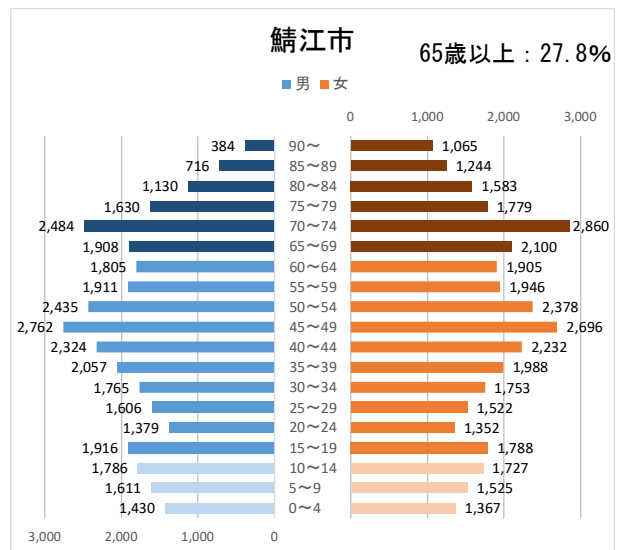
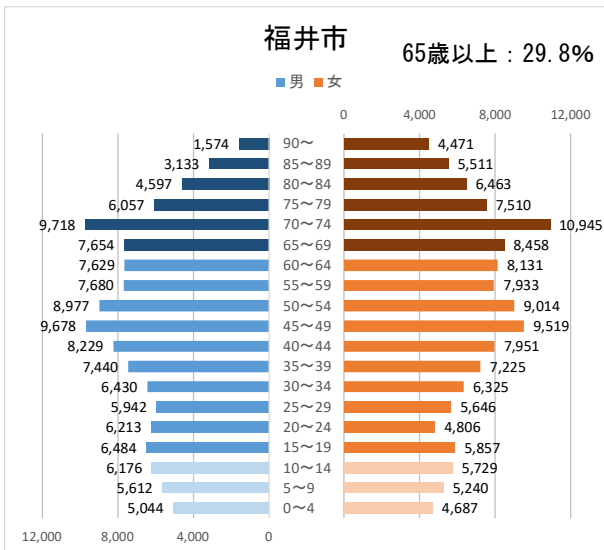
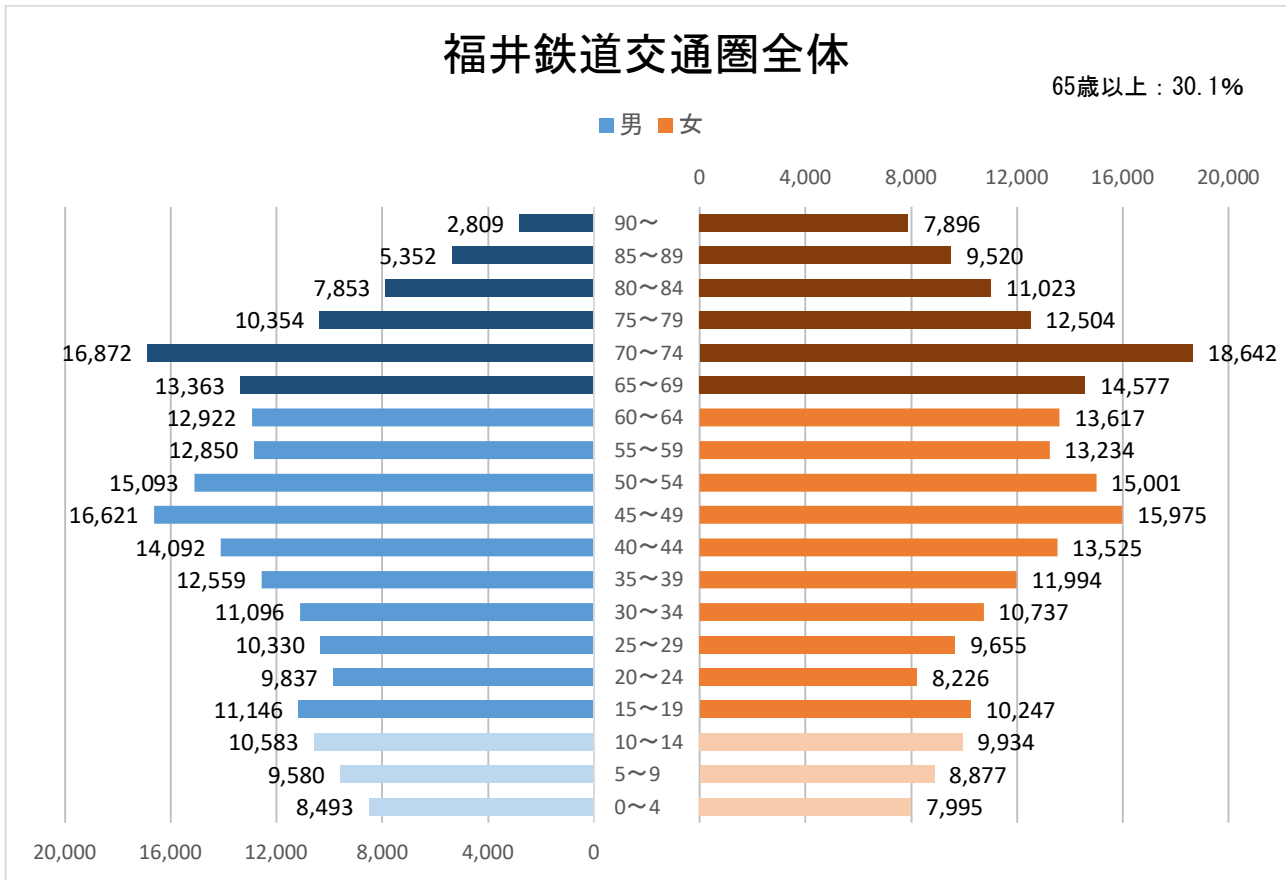


資料：福井県の推計人口各年4月1日現在

図1-1 人口の推移

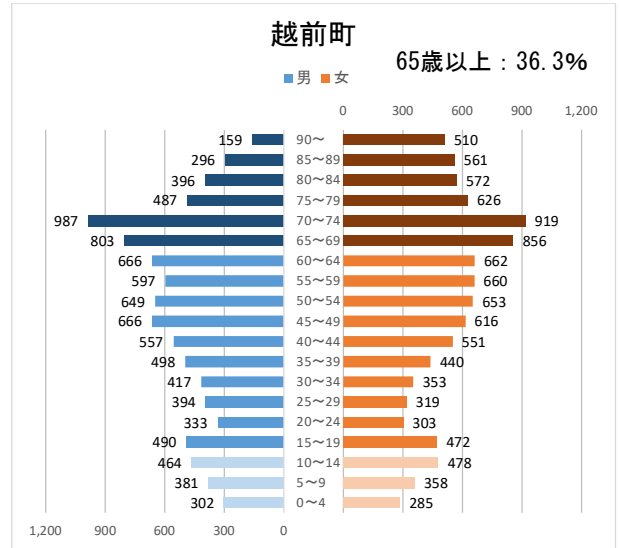
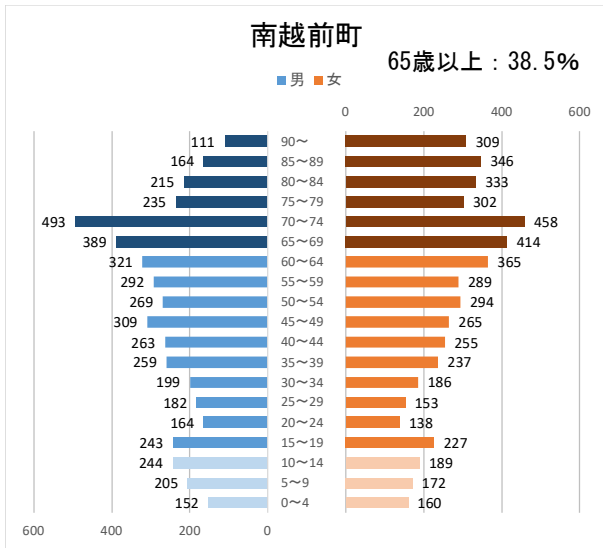
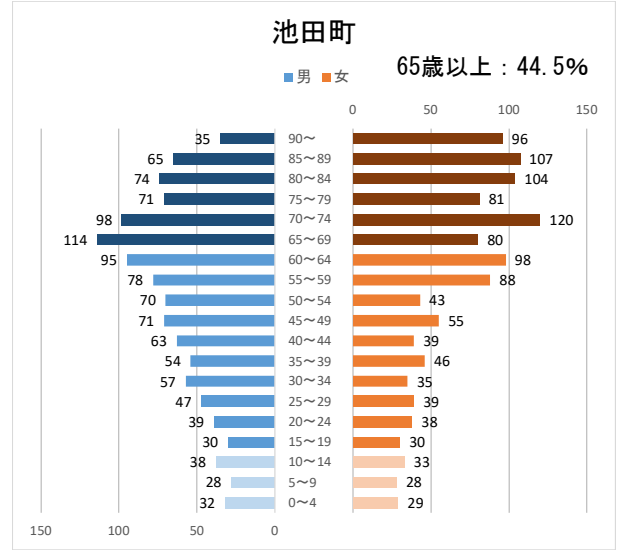
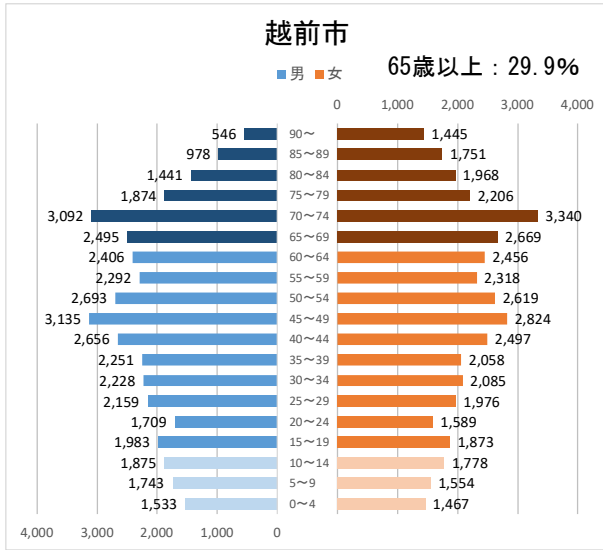
② 年齢構成

○交通圏全体の年齢構成は、「70～74歳」とその子供の世代である「45～49歳」の人口が多く、年少人口は減少傾向にある。65歳以上の割合は交通圏全体で30%である。



資料：福井県の推計人口（令和3年10月1日現在）

図1-2 人口ピラミッド（1）

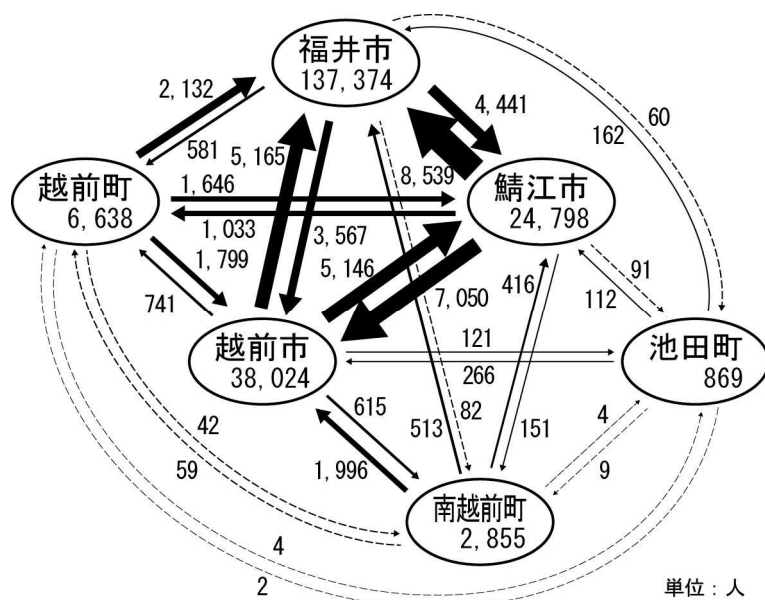


資料：福井県の推計人口（令和3年10月1日現在）

図1-3 人口ピラミッド（2）

(2) 通勤通学流動状況

- 令和2年の通勤通学流動をみると、福井市に常住している通勤通学者は83% (1137.3/166.0千人)が福井市内に通勤通学しており、自市以外では交通圏外の坂井市(7.4千人)に次いで鯖江市(4.4千人)、越前市(3.6千人)が多い。
- 鯖江市に常住している通勤通学者は56% (24.8/44.1千人)が鯖江市内に通勤通学しており、自市以外では福井市(8.5千人)が多い。
- 越前市に常住している通勤通学者は73% (38.0/52.2千人)が越前市内に通勤通学しており、自市以外では福井市(5.1千人)、鯖江市(5.1千人)が多い。
- 池田町に常住している通勤通学者は59% (0.8/1.5千人)が池田町内に通勤通学しており、自町以外では越前市(0.3千人)が多い。
- 南越前町に常住している通勤通学者は46% (2.9/6.2千人)が南越前町内に通勤通学しており、自町以外では越前市(2.0千人)が多い。
- 越前町に常住している通勤通学者は52% (6.6/12.8千人)が越前町内に通勤通学しており、自町以外では福井市(2.1千人)、越前市(1.8千人)、鯖江市(1.6千人)が多い。



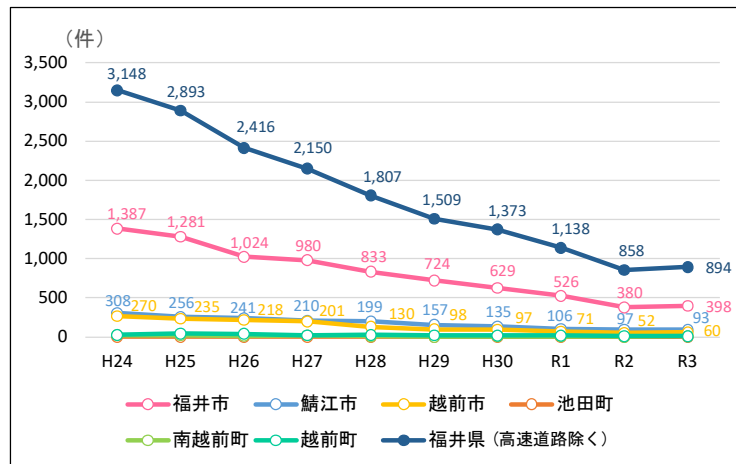
		通勤通学市町									
		総数	福井市	鯖江市	越前市	池田町	南越前町	越前町	その他 県内	県外	不詳
常住市町	福井市	165,963	137,374	4,441	3,567	60	82	581	12,651	2,301	4,906
	鯖江市	44,137	8,539	24,798	7,050	91	151	1,033	1,002	549	924
	越前市	52,237	5,165	5,146	38,024	121	615	741	871	551	1,003
	池田町	1,473	162	112	266	869	9	2	32	16	5
	南越前町	6,195	513	416	1,996	4	2,855	59	254	63	35
	越前町	12,767	2,132	1,646	1,799	4	42	6,638	252	135	119
	計	282,772	153,885	36,559	52,702	1,149	3,754	9,054	15,062	3,615	6,992

単位：人 令和2年国勢調査

図1-4 通勤通学流動（令和2年）

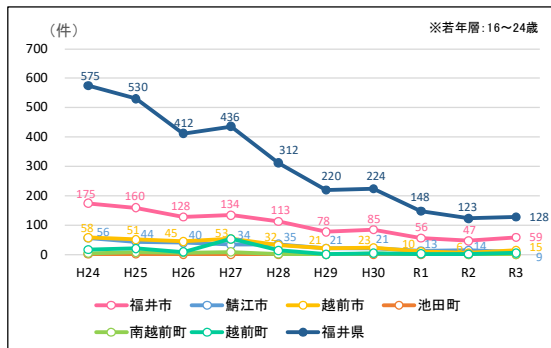
(3) 交通事故発生状況

- 福井県全体の人身事故の発生件数は減少傾向で推移している。
- 若年（16歳～24歳）、高齢者（65歳以上）が第1当事者となった人身事故についても減少傾向で推移している。
- 若年が第1当事者となった人身事故と高齢者が第1当事者となった人身事故の発生件数を比べると、これまでは若者が第1当事者となった人身事故件数の方が上回っていたが、平成25年以降は高齢者が第1当事者となった人身事故件数の方が上回っている。

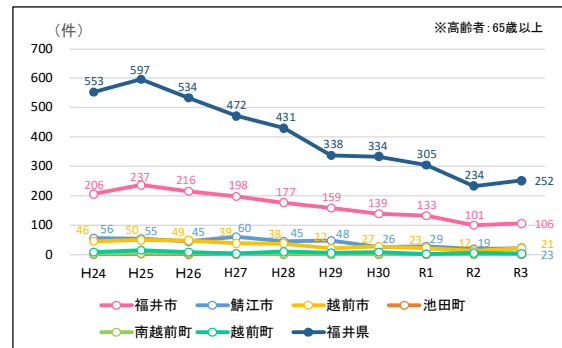


出典：福井の交通

図1-5 市町別交通事故発生件数

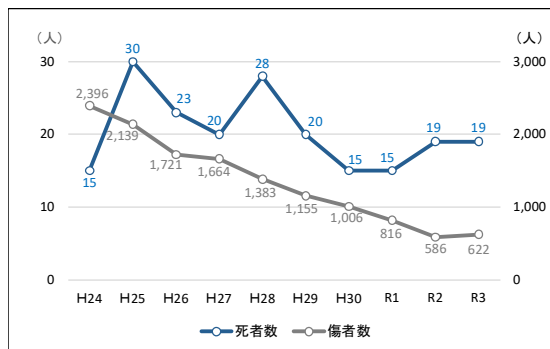


資料：福井の交通



資料：福井の交通

図1-6 若年層が第1当事者となった人身事故発生件数 図1-7 高齢者が第1当事者となった人身事故発生件数



資料：福井の交通

図1-8 6市町の人身事故件による死傷者数

○人身事故の発生件数の減少に伴い、傷者数は減少傾向にある。

○死者数は20人～30人の間で推移している。

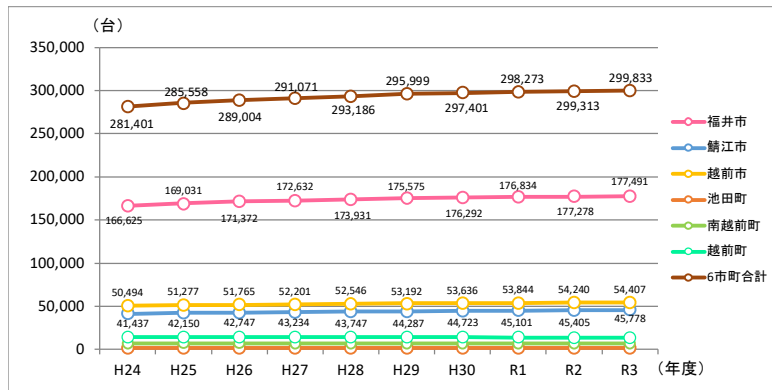
(4) 自動車保有台数及び運転免許の保有状況

○6市町の自動車保有台数は漸増傾向にあり、平成24年度と令和3年度で比べると約6%増加しているものの、直近5年間ではほぼ横ばいとなっている。

○6市町の運転免許の保有者数は概ね横ばい傾向にあるが、池田町、南越前町、越前町においては保有者数が減少している。

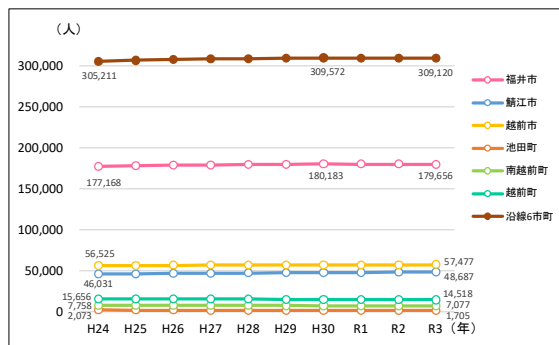
○6市町の免許返納者数は、堅調に増加してきたが、近年横ばい傾向になっている。

各市町では免許返納者への対策として、市町が運行するコミュニティバスの無料乗車券の交付等を行っている。



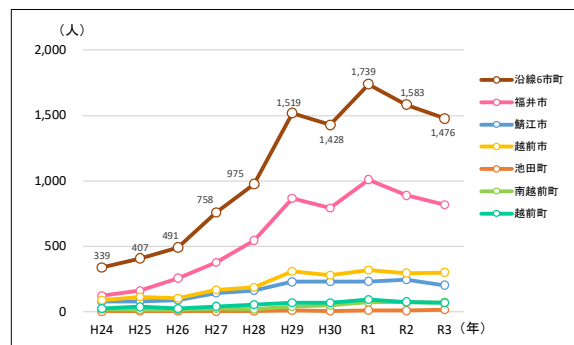
出典：福井運輸支局

図1-9 自動車保有台数の推移



出典：福井の交通

図1-10 運転免許保有者数の推移



出典：福井の交通

図1-11 運転免許返納者数の推移

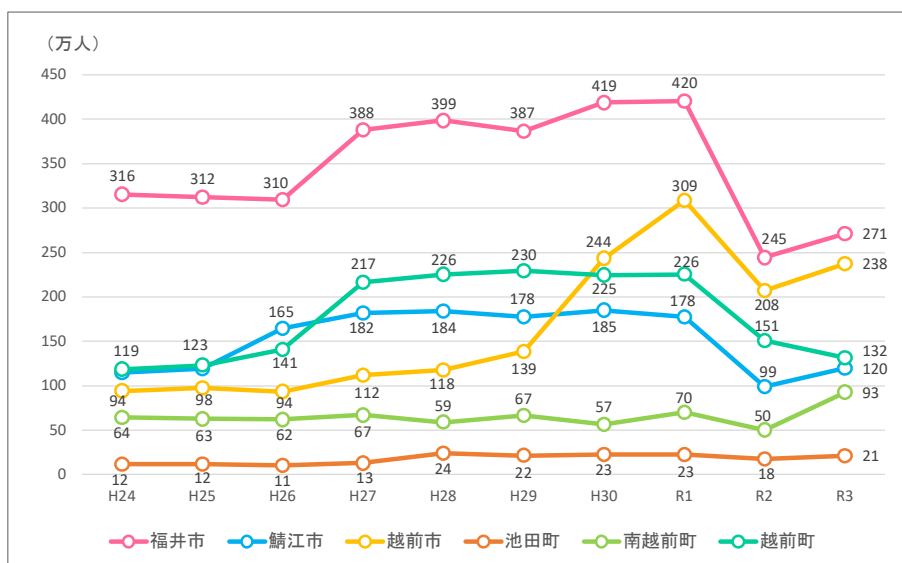
《高齢運転免許返納者への支援》

	対象者	支援策
福井市	65歳以上の市民	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関利用券の交付（①～⑤のいずれかを提供） <ul style="list-style-type: none"> ①バス回数券2,000円分（京福バスまたは、福鉄バス） ②福井鉄道乗車券引換券2,000円分の配布 ③えちぜん鉄道割引証：えちぜん鉄道の普通乗車券の運賃と1日フリー切符が3年間2割引 ④ICカード乗車券「ICOCA」2,000円分（デポジット500円分を含む） ⑤まちなかレンタサイクル「ふくチャリ」利用券2,000円分） ・運転免許証自主返納証明証の交付（75歳以上が対象） ・反射材の交付
鯖江市	65歳以上の市民	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの無料乗車券の交付（無制限） ・交通災害共済掛金の全額負担（永年） ・運転経歴証明書がなくても、市内の協力タクシー会社の運賃1割引サービス（75歳以上の方が対象）を受けられる証明書の交付
越前市	65歳以上の市民	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスを無期限・無料で利用できる証明書の交付（運転経歴証明書で代用可） ・運転経歴証明書がなくても、市内のタクシー会社の運賃1割引サービス（75歳以上の方が対象）を受けられる証明書の交付
池田町	令和4年4月1日以降に自主返納した70歳以上の町民	<ul style="list-style-type: none"> ・町内のタクシー利用補助券2万円分（交付から3年間の期限付き） ・町民協働バス（マイバス）の運賃8割補助バスを交付（交付から3年間の期限付き）
南越前町	65歳以上の町民	<ul style="list-style-type: none"> ・住民利用バス無料乗車券交付（無期限） ・毎年15,000円相当分のタクシー利用券の交付（新規の方10年間交付、平成29年度までに支援を受けた方9年間交付）
越前町	65歳以上の町民	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス無料乗車券（最長10年） ・デマンドタクシー（チョイソコえちぜん）運賃割引

(5) 観光状況

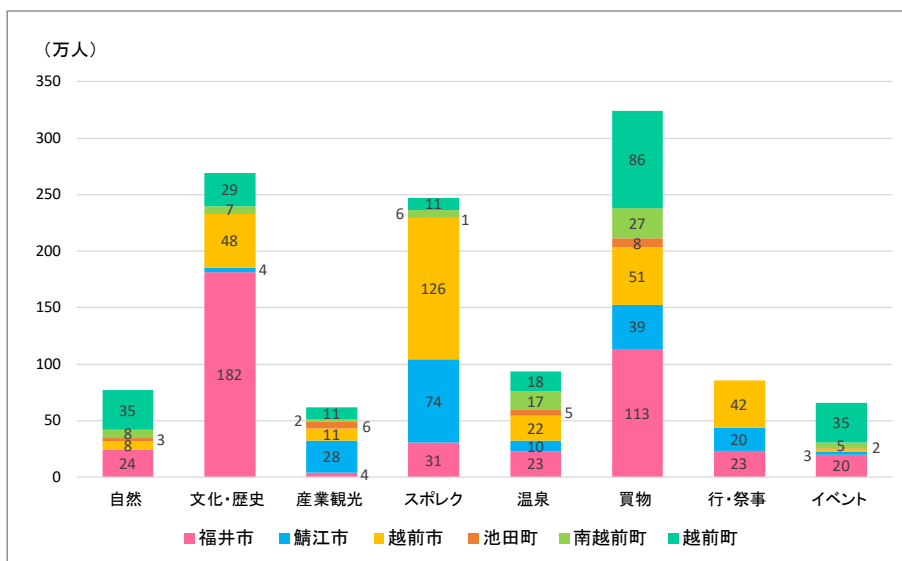
《観光入込客数》

- 福井鉄道交通圏における観光入込客数は、北陸新幹線金沢開業の平成27年以降増加傾向にあったが、令和2年以降新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて大幅に減少した。コロナ禍前の令和元年度の6市町合計は、12百万人を超えており、特に近年、越前市の増加数が多い（武生中央公園の再整備やコーヒーチェーン店の立地に伴う家族連れ利用者の増加）。
- 目的別では、「買物」が最も多く、次いで「文化・歴史」となっている。近年の増加数が多い越前市では「スポーツ・レクリエーション」が増加（H28:4.3万人→R1:125.5万人）している。



出典：福井県観光入込客数（推計）

図1-12 市町別観光入込客数の推移

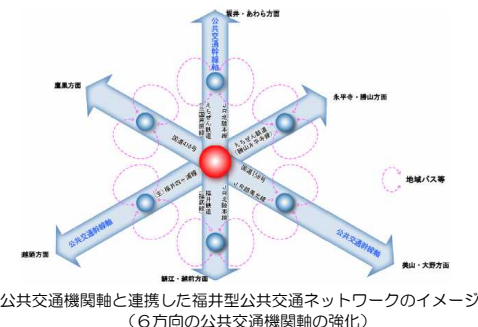


出典：福井県観光入込客数（推計）

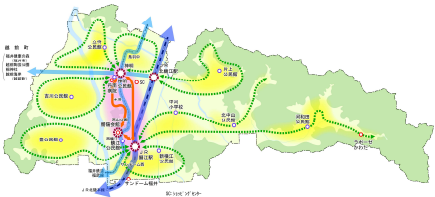
図1-13 令和元年市町別目的別入込状況

2. 関連計画

都市名	公共交通の考え方
ふくい嶺北連携中枢都市圏	<p>【ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン（改訂版）令和4年4月改訂】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇目 標 年 次：令和22年（2040年） ◇都市圏の将来像：「つながり 創造する 活力と魅力あふれる ふくい嶺北都市圏」 ◇基 本 方 針：戦略① 圏域全体の経済成長のけん引 戦略② 高次の都市機能の集積・強化 戦略③ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上 ※②に基づき、ふくいMaaSの導入を進めている ◇将 来 人 口：64.7万人（2015年）⇒ 57.6万人（2040年） <small>※福井市への通勤通学割合が概ね0.1以上である嶺北10市町（大野市、勝山市、鯖江市、越前市、坂井市、永平寺町、池田町、南越前町、越前町）によって構成される都市圏</small>
福井市	<p>【第2次福井市都市交通戦略 令和3年3月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇目 標 年 次：令和12年 ◇将 来 都 市 像：人にやさしい「全域交通ネットワーク」と にぎわいとやすらぎの「まちづくり」 ◇都市交通の目標：地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」づくり <small>（暮らしをつなぎ支えるモビリティ・ネットワークの構築）</small> ◇施策パッケージ：①選択性のある都市交通利用環境の構築 ②拠点への機能の集積とモビリティの改善による持続可能な地域の形成 ③公共交通機関のシームレス化の推進 <p>【福井駅周辺地区交通戦略 令和3年12月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇目 標 年 次：令和12年 ◇地区交通戦略の目標：福井をみて、感じて、楽しんで 歩きたくなるまちなか ◇基 本 方 針：①まちなかを歩きたくなる道路空間の創出 ②道路空間を活用した、魅力あるまちなかにする取組みの実施 ③多様な交通モードでまちなかへ快適にアクセスできる交通環境づくり <p>【改訂福井市都市計画マスタープラン 平成22年3月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇目 標 年 次：平成42年 ◇都市づくりの理念：暮らしの豊かさを実感できる「歩きたくなる」まち ◇将 来 都 市 像：中心市街地と地域拠点が 公共交通ネットワークにより有機的に結ばれた都市 <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい・観光・交流の拠点となる中心市街地の形成 ・日常生活に必要な機能を集約した地域拠点の形成 ・公共交通幹線軸の強化と幹線軸沿いへの都市機能の集積 <p><全体構想></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「移動の骨格づくり」に向けた推進方針 <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが自由に行動でき、人々の生き生きとした生活や交流を支え、様々な交流や連携に対応できるよう「歩く」視点から交通の骨格づくりの推進 ・全域交通ネットワークのための公共交通の骨格づくり <p><分野別構想：公共交通機関の機能強化の方針></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会の到来や地球環境に負荷を与えないライフスタイルの確立に向けて、過度な自動車利用からの脱却を目指した公共交通機関の機能充実 ・子どもからお年寄りまで、市民誰もが気軽に利用できる、人にやさしく便利な市内全域の交通ネットワークの形成

都市名	公共交通の考え方
福井市	<p>○既存ストックを活用した福井型公共交通ネットワークの実現</p> <p>●6方向の公共交通幹線軸の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR福井駅を中心として、南北2方向（JR北陸本線やえちぜん鉄道三国芦原線、福井鉄道福武線など）、東西4方向（JR越美北線やえちぜん鉄道勝山永平寺線、国道158号、416号、（主）福井四ヶ浦線など）の公共交通幹線軸を基本として鉄道やバスなどの利便性の向上、拠点となる駅やバス停などへのアクセス向上  <p>●地域特性にふさわしい交通サービスの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通のサービス水準が低い地域では、地域住民や企業、交通事業者との協働により、地域住民の主体的な取り組みによる地域バス等の運行を検討 ・幹線軸沿線の利便性の向上、地域との連携強化のため、主要な鉄道駅やバス停において地域拠点や乗り継ぎ拠点を形成 <p>○既存の鉄軌道ストックを活かした施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や病院、行政サービス施設、商業・業務施設などが集積している区間におけるえちぜん鉄道、福井鉄道の相互乗り入れによる移動利便性の向上 ・既存の鉄軌道の積極的な活用に向けて、LRTの導入、路面軌道の再整備・延伸、新駅の設置の推進 ・JRと他の公共交通機関の乗継利便性を高めるため、JR福井駅の総合交通ターミナル機能の強化 ・住宅、病院、学校、公共施設、商業業務施設、企業等が集積する市街地の南北幹線軸の利便性を先導的に高め、沿線のまちづくりに関する取り組みとの連携による潜在需要の掘り起こし、沿線地域の活性化 <p>○連携施策の推進：過度な自動車利用からの転換促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民意向把握や公共交通に関する情報提供、意識啓発などによるモビリティ・マネジメントの推進 ・企業へのカーセーブ運動やカーシェアリングなどへの参加・協力の呼び掛け、関係団体との協力・連携体制の確立 <p>【福井市立地適正化計画 平成31年3月策定】</p> <p>◇目標年次：2030年（令和12年）</p> <p>◇将来都市像：1 自然環境との共生・調和を基本とした水と緑あふれる都市 2 中心市街地と地域拠点が公共交通ネットワークにより有機的に結ばれた都市</p> <p>◇基本方針：・市街地における都市基盤ストックを活かした生活利便性の維持 ・にぎわい交流拠点を中心とした魅力あるまちなか地区の形成 ・日常生活に必要な機能を集約した地域拠点の形成と公共交通ネットワークの確保</p> <p>【福井市観光振興計画 令和2年3月策定】</p> <p>◇計画期間：令和2年～令和6年度（5年間）</p> <p>◇目指す姿：『日々の暮らしにある「福」があふれるまち ～オール福井で取り組む福井周遊の玄関口～』</p> <p>◇施策の方向性：・福井ならではのブランディングと戦略的な観光プロモーション ～本市に訪れてもらうための明確なきっかけづくり～ ・選ばれるための魅力づくりと国内外の旅行者をもてなす受入環境の整備 ～本市での満足度を確実にする全方位のおもてなし～</p>

都市名	公共交通の考え方
福井市	<p>【福井市地域公共交通計画 令和6年3月策定予定】</p> <p>◇計画期間 令和6年度～令和10年度</p> <p>◇目的 本市は北陸新幹線開業を控えており、その効果を波及させるためには、路線バス等の二次交通の充実が重要であるため、令和2年度に交通政策における目標及び施策をまとめた第2次福井市都市交通戦略を策定した。 市内のバス交通について、今年度から2年間をかけて第2次福井市都市交通戦略をより具体的に実現するための計画を、県の計画（嶺北地域）と連携して策定する。</p> <p>◇計画方針</p> <p>①福井市中心部のバス運行ルート、ダイヤの見直し、運賃体系の見直し すまいるバスを中心に福井市中心部の運行ルートを見直すとともに、北陸新幹線福井開業に合わせ、効率的なダイヤとなるよう見直す。 さらに、現在の距離制運賃、100円区間、鉄道の初乗り運賃、すまいるバスの運賃等の整合性を総合的に判断し、適切な運賃体系について検討する。</p> <p>②フィーダー交通の見直し フルデマンドタクシーや福祉車両を活用するなど、地域の特性に合ったフィーダー交通の導入方針について検討する。</p> <p>③新モビリティ、キャッシュレス決済の導入検討</p> <p>④生活交通を確保維持するための支援方法検討</p>
鯖江市	<p>【鯖江市都市計画マスタープラン 平成24年10月改定】※令和6年3月改定予定</p> <p>◇目標年次：平成42年度</p> <p>◇将来都市像：豊かな生活を支える安心して住み続ける ふるさと鯖江</p> <p>◇土地利用の方針</p> <p>○公共交通利便エリアへの居住推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車に過度に依存することなく安心して生活できる居住環境には、公共交通の利便性が高いことが重要 ・公共交通の利便性が高い地区を公共交通利便エリアとして位置づけ、対象範囲を明確にし、エリア内での住宅の建設や転居をはじめ、店舗の新設や企業の立地などを推進 <p>◇公共交通ネットワークの整備方針</p> <p>○鉄道を中心とする南北方向の公共交通サービスの維持・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な鉄道網を形成するJR北陸本線を広域交流幹線軸、隣接する福井市、越前市を連絡する福井鉄道福武線を都市連携幹線軸と位置づけ ・これらの鉄道による公共交通の高い利便性をまちづくりの基本とし、積極的な公共交通の利用促進により現在のサービス水準の維持、今後の利用動向を踏まえたサービス水準の向上 <p>○バスによる東西方向の公共交通サービスの維持・向上（生活交通フィーダー線）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市における東西方向の公共交通サービスは、東西に広い市域の市民生活を支える公共交通として、バスを中心としたサービスを提供 ・バスネットワークを構成する「つつじバス」及び福鉄バスを、市街地への連絡や鉄道による広域交流幹線軸、都市連携幹線軸に接続する生活交通フィーダー線として位置づけ、積極的な利用促進により、現在のサービス水準の維持、今後の利用動向を踏まえたサービス水準の向上 <p>【鯖江市立地適正化計画 平成29年3月策定】</p> <p>◇まちづくりの方針</p> <ol style="list-style-type: none"> ①安心して住み続ける歩いて暮らすまちづくり ②地域の宝を活かした交流・連携によるにぎわいのあるまちづくり ③市民がともに支え合い、行政と一体となった市民主役のまちづくり

都市名	公共交通の考え方
鯖江市	<p>【鯖江市地域公共交通計画 令和3年12月策定】</p> <p>◇持続可能な地域公共交通に関する基本的な方針</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンパクトで魅力あるまちづくりと連携した公共交通 ②人々の生活を支える公共交通 ③協働により地域に存続する市民主役の公共交通 <p>◇計画の区域：鯖江市全域</p> <p>◇計画の期間：5年間（令和4年度～令和8年度）</p> <p>◇計画の目標</p> <p style="padding-left: 20px;">＜地域公共交通の将来像＞</p> <p style="text-align: center;">豊かさや安心のある暮らしを支える交通環境</p> <p style="padding-left: 20px;">＜地域公共交通の計画目標＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現 ②まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現 ③観光・ビジネスで訪れた人にもやさしく、鯖江の魅力を高める公共交通の実現 ④市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現 <div style="text-align: right;">  <p>■将来公共交通ネットワーク方針</p> </div>
越前市	<p>【越前市都市計画マスタープラン 平成29年3月改定】※令和6年3月策定予定</p> <p>◇目標年次：平成38年度</p> <p>◇基本理念：持続可能な定住都市の形成</p> <p>◇全体構想：交通ネットワークの方針</p> <p>○人とまちにやさしい多様性のある公共交通体系の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通網の充実により、移動制約者に対する移動性の確保、CO2等の環境負荷の軽減、歩いて暮らせるコンパクトなまちを形成 ・鉄道（JR北陸本線、福井鉄道）を基幹的な公共交通軸として路線バスや市民バス等によって公共交通ネットワークを形成し、これらを利用しやすい環境を整備及び充実することで、車に過度に依存しない多様な移動手段の選択ができる交通体系を確立 ・JR北陸本線、福井鉄道福武線の利便性の向上 ・路線バスは、主に拠点間を連絡する持続的な基幹交通手段として、公共交通ネットワークの維持、サービス水準の向上 ・その他のバスは、日常生活を支える交通手段として、公共交通ネットワークの維持 ・市民に対しては、自動車依存型の生活スタイルから公共交通や自転車・徒歩を利用した生活スタイルへの転換を促進 ・南越駅（仮称）と、中心拠点や地域拠点を連絡する二次交通の確保 <p>【越前市立地適正化計画 平成29年3月策定】※令和7年3月策定予定</p> <p>◇まちづくりの方針</p> <ol style="list-style-type: none"> ①多様かつ高次な都市機能を提供する中心拠点の形成 ②生活の利便性を高める持続可能な公共交通ネットワークの維持、サービス水準の向上 ③将来人口に見合った市街地規模の実現、市民による居住地選択の誘導 ④現在の居住地での暮らしやすさの維持

都市名	公共交通の考え方
越前市	<p>【北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画 平成27年12月策定】</p> <p>◇基本理念：交流促進の起点南越駅周辺地域 ～丹南地域の人・自然・伝統・文化とのふれあいによる新たな出会い～</p> <p>◇4つの展開</p> <p>①「交流の起点交通結節点と地域資源への誘導の場の創出」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中心に位置し、北陸自動車道武生インターチェンジや国道8号と近接する地の利を生かし、地域外から活力を呼び込む広域交通拠点（ゲートウェイ）の位置づけを確立し、2つのまちなかの交通結節点（ハブ）や地域資源へ誘導する役割を担う ・災害時には、交通結節点を生かした防災機能が発現するような役割を担う <p>②「伝統・文化とのふれあい伝統・文化、匠の技との出会いの場の創出」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越前国府1,300年の悠遠な時が生んだ伝統と文化、古代伝説の時代から継承と創造を繰り返す匠の技との新たな出会いを創出する役割を担う <p>③「人とのふれあい来訪者と地域住民の交流の場の創出」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線のみならず、北陸自動車道武生インターチェンジや国道8号からの来訪者と、地域住民の新たな交流を創出する役割を担う <p>④「自然とのふれあい豊かな自然を感じる、癒しの場の創出」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田園や日野山など豊かな自然環境を感じとることができ、心地よい癒しの空間を創出する役割を担う <p>◇駅周辺の整備コンセプト</p> <p>『伝統・文化を未来につなぐ癒しと交流の空間』</p> <p>丹南地域の広域交通の玄関口となる南越駅（仮称）は、集積する伝統産業や先端産業を生かすなど、丹南地域の伝統・文化を結び付け、地域資源を再発見したり、新しい価値をもった情報を発信したりする起点として整備し、地域を活性化する空間を創出する。</p> <p>また、南越駅周辺のまちづくりの主役である「地域の住民」に親しまれるとともに、訪れた人が日野山などの山並みやコウノトリが舞う里を感じ、癒される場を創出する。</p> <p>さらに、北陸自動車道武生インターチェンジや国道8号が近接する広域交通の結節点といった地理的特性を生かして、新幹線利用者のみならず道路利用者の利用もできる道の駅としての機能や防災機能を持ち、賑わいや安全・安心をもたらす場を創出する。</p> <p>【越前市観光振興プラン 令和5年3月改定】</p> <p>◇計画期間：令和5年度～令和9年度</p> <p>◇目指す将来像：「手仕事」の価値を活かした、文化・観光・経済の好循環</p> <p>◇戦略：①価値に共感するターゲット層を重点主軸に売込む</p> <p>②「越前」をキーワードに広域的な認知度向上と誘客を図る</p> <p>③高付加価値化を通じて消費拡大と地域経済への波及効果を図る</p> <p>◇計画目標：本市の認知度の向上からつながる観光消費額の拡大</p> <p>◇主な実施事業（公共交通関連）</p> <p>○北府駅鉄道ミュージアムの活用</p> <p>北陸新幹線開業で鉄道への関心が高まるなか、「北府駅鉄道ミュージアム」が令和5年春に完成することから、鉄道ファンなどの誘客を促進するため、ターゲットを絞った情報発信等、観光地としての魅力向上を図る。</p> <p>○北陸新幹線駅前を中心とした観光情報案内の拡充</p> <p>北陸新幹線「越前たけふ」駅前に、新たに観光案内所を設け、新幹線開業により来訪が見込まれる観光客へスムーズな情報提供を行う。</p> <p>○観光二次交通の充実</p> <p>交通の結節点である新幹線駅と各観光地間を結ぶ二次交通について、定額タクシーやレンタカーを中心に、交通事業者等と連携し、観光型Ma a sなどの観光客に移動しやすい環境を提供する。また、並行在来線駅間を結ぶ効果的な仕組みを確立し、観光客の移動手段の充実を図る。</p> <p>○海の資源と連動した宿泊滞在の促進</p> <p>丹南地域の大きな観光資源の一つである海の資源「越前海岸」と連携を図ることで、本市での宿泊滞在を促進し、観光消費の拡大を目指す。</p>

都市名	公共交通の考え方
越前市	<p>【南越駅周辺まちづくり計画 令和2年3月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇まちづくりのテーマ：地域特性を活かした未来都市の創造 ◇まちづくりの方向性：フォレストシティ&越前市版スマートシティ ◇まちづくり実現のための3つの方策 <ul style="list-style-type: none"> ①開発ルールとプログラムによる適切な誘導 ②公共と民間の役割分担と公民連携・公民協働 ③越前らしさを実現する土地利用ゾーニング
池田町	<p>【第2期 池田町地方創成総合戦略 令和3年9月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇計画期間：令和3年度～令和7年度 ◇未来構想：協働する力で育てる「豊国の農村」池田の創出 ◇基本方針：「分担・連携・協働」するまち育て ◇事業テーマと基本目標 <ul style="list-style-type: none"> ●「すみか」＝社会基盤施策、環境施策、定住住宅施策、防災施策など <ul style="list-style-type: none"> ・共同して暮らす生活基盤、社会資本の整備、保全を図る。 ●「しごと」＝産業、経済支援施策など <ul style="list-style-type: none"> ・町民事業者間の連携、協働を促進する。 ・まちの個性を活かす地域産業の育成を図る。 ●「なかま」＝福祉施策、子育て施策、教育施策、地域自治振興など <ul style="list-style-type: none"> ・手づくりと協働で支える地域福祉の増進を図る。 ・町民の参加と支援で創るひと育てを推進する。 ・自治と協働の社会づくりを推進する。 ○道路や通信網などの社会インフラの高度化交通手段の多様化 <ul style="list-style-type: none"> ・町民協働バス「マイバス」運行事業、町民バス「なかま号」運行事業、福祉タクシー「ふくタク」支援事業の継続（令和3年度） <p>【池田町過疎地域持続的発展計画 令和3年12月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域公共交通の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスについては、利用者に対する助成制度を継続し乗車率の向上を図るとともに、赤字運営の欠損補助も行いながら路線バスの存続に努める。 ・「なかま号」や「マイバス」の運行回数や経路の変更についても検討するとともに、自治会等による輸送活動についても検討を行う。 ・また、介護タクシー利用補助や安全装置付き車両の購入補助については、現状・課題等を整理した上で、補助のあり方を検討していく。
南越前町	<p>【第2次南越前町総合計画 後期基本計画 令和2年3月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇計画期間：令和2年度～令和6年度 ◇将来像：海と緑と歴史の恵みに抱かれて、出会いから活力の花ひらく町 ◇基本計画 <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者や障害者にやさしい公共交通サービスが運行されるまち ＜公共交通手段の充実＞ <ul style="list-style-type: none"> ①住民利用バスの利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・運行実態の把握・検証・分析、アンケート等による意見の聴取、地域公共交通会議での議論を行うことで、住民ニーズを的確にとらえた路線や時刻表の改正を行う。 ・集落ごとや希望する利用者のニーズに合わせた、見やすく分かりやすい時刻表を作成する。 ②王子保河野海岸線の運行継続 <ul style="list-style-type: none"> ・河野地区に住む交通弱者の移動手段を確保するため、路線の継続を支援する。 ・利用促進と路線の維持を図るため、生活路線バス利用促進事業補助金を継続する。 ③並行在来線の利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・南条駅前広場を整備し通勤通学時の車の流れを改善することで、パークアンドライドの促進とともに、乗降者の安全性の向上を図る。 ・今庄駅の駅舎から下り線（福井方面）のホームに行く際に、階段を使用しないで済むように改修することで、利便性の向上と利用促進を図る。 ④並行在来線の維持支援 <ul style="list-style-type: none"> ・並行在来線の経営安定化を支援し、運行の維持を図る。 ⑤利用促進の呼びかけ <ul style="list-style-type: none"> ・広報、ケーブルテレビ等、町が所有する広報手段を有効に活用した利用促進の呼びかけを継続的に行う。

都市名	公共交通の考え方
南越前町	<p>【南越前町地域公共交通計画 平成29年3月策定】</p> <p>◇計画期間：平成29年度～平成32年度</p> <p>◇将来像：活力ある地域公共交通をみんなで作り、守り、育てる町</p> <p>◇基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ○継続的な運行の改善による効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が少ない路線や便の統廃合や減便を視野に入れた継続的な改善 ・利用者および事業者の意見を広く集約するための機会の創出 ○生活に密着した利用者によさしい運行 <ul style="list-style-type: none"> ・住民生活に密着した路線、子どもや高齢者によさしい路線の運行 ○地域住民との連携による地域公共交通の維持 <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進に向けた啓発と地域公共交通を自らの力で維持する意識の醸成 ・住民、事業者、行政による意見交換会の開催、利用者や地域住民主体の運行方法を検討する協議会等の設置を目指す <p>◇目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民利用バス各路線利用者数の対前年度からの増加
越前町	<p>【第二次越前町総合振興計画 後期基本計画 令和3年3月策定】</p> <p>◇計画期間：令和3年度～令和7年度</p> <p>◇将来像：人と技 海土里織りなす 快適なまち</p> <p>◇第1章 快適で安全に住み続けられるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住みやすいまちを演出する都市基盤・公共施設の充実 一公共交通の充実 <ul style="list-style-type: none"> ①町内外を移動できる交通手段のネットワーク化を図る <ul style="list-style-type: none"> ・基幹公共交通である路線バスの維持・確保に努める、町民ニーズに応じた運行経路の見直しや便数の充実に努める ・路線バスとコミュニティバスとの乗り継ぎダイヤの調整、乗り継ぎ拠点の見直しなど、路線バス・コミュニティバスの連携・共存による合理化を図る ・コミュニティバスのうち利用が低迷している経路及びダイヤの利用率向上のための効率化を図る ・隣接市と連携を図り、鉄道・路線バス・コミュニティバスの効率的な運行体系を検討 ②誰もが利用しやすいバス利用環境をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・長距離の移動に公共交通が不可欠である高齢者ならびに小中学生・高校生に対して、金銭的な負担を低減する助成制度の維持・充実 ③住民と行政の協働により公共交通の活性化を図る <ul style="list-style-type: none"> ・児童から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした意識啓発により、町民自ら利用したくなるような環境づくり・意識づくりを構築し、地域活動における公共交通利用のPRと商業・観光と連携を図り、公共交通の利用を促進 ・地域に必要な交通は地域自らが守り育てるという観点に基づき、官民連携のもと、地域主体の自主運行型公共交通など、新たな地域公共交通の仕組みづくりの検討 <p>【越前町都市計画マスタープラン 平成29年5月策定】</p> <p>◇目標年次：平成47年</p> <p>◇都市づくりの理念：越前の豊かな暮らし、地域の風土に育まれた暮らしの継承</p> <p>◇交通体系の方針：</p> <p style="padding-left: 2em;">安全で快適な日常生活を支える公共交通ネットワークの維持・確保</p> <p>◇公共交通ネットワークの配置方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①南北交流軸を形成する北陸新幹線等の鉄道駅へのアクセスの確保 ②日常生活を支える町内の移動の確保

都市名	公共交通の考え方
越前町	<p>【越前町地域交通計画 令和3年1月策定】 ◇計画期間：令和3年度～令和7年度 ◇基本方針：皆で守り育てる公共交通ネットワークの形成 ◇基本目標</p> <p>①町内外を移動できる交通手段のネットワーク化 ・路線バスの維持・確保と運行経路・便数の充実【継続】 ・路線バス・コミュニティバスの連携・共存によるネットワーク化【継続】 ・コミュニティバスの持続的な運行継続に向けた効率化及びさらなる移動の利便性向上と運行効率化に向けた区域デマンド運行の実施【新規】</p> <p>②誰もが利用しやすい環境づくり ・多様なニーズに対する助成制度の維持・充実【継続】 ・待合所の整備推進及び小型車導入の検討も含めた車両の計画的な更新【継続】 ・わかりやすさの向上と利用促進のための情報提供の充実【新規】 ・バス車内での感染症の予防及び蔓延防止のために必要な措置の実施【新規】</p> <p>③行政と住民との協働による公共交通の活性化 ・児童から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした意識啓発【継続】 ・公共交通と商業・観光との連携及びPR【継続】 ・地域主体の新たな地域公共交通の仕組みづくりに向けた検討【新規】</p> <p>【越前町立地適正化計画 平成29年3月策定】 ◇都市づくりの方針</p> <p>①安全で安心のある日常生活を支える生活基盤の確立 ②コンパクトな居住集積による「まち」の持続性の確保 ③地域特性を活かした新たな都市機能の誘導、人口定着</p>
福井県	<p>【福井県高速交通開通アクション・プログラム 平成30年3月改定】</p> <p>1. 高速交通開通に向けた「基本戦略」</p> <p>(1)「交通の革新」と地域交通ネットワークの強化</p> <p>○新幹線駅の拠点機能強化と地域公共交通の革新 【主要プロジェクト】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線駅舎デザインのコンセプトを、駅機能とあわせて検討し、鉄道・運輸機構に提案(市、H28) ・新幹線駅の駅前広場やアクセス道路を整備(県・市) ・並行在来線、地域鉄道、バスを一体的に組み合わせ経営とサービスを強化(民間) ・北陸本線の第3セクター化を機に、新駅設置など地域主導で利便性を向上(民間) ・新幹線駅等を拠点に市町を超える広域バスを生活圏の広域化にあわせ運行(市町、H29～) ・コミュニティバスを休日の観光地循環バスとして有効活用(市町・民間) ・福井駅から一乗谷、永平寺など主要観光地への特急バスを運行(県・市町・民間) ・福井市のまちなか観光エリアに低料金の移動手段を確保(民間、H28～) ・福井市中心部における歩行者と鉄道が共存できる空間や市内循環鉄道の整備を検討(県、H28～) ・ICカード乗車券を全県域で利用できるよう順次導入(民間) ・クルマの自動走行を、京福電鉄廃線跡を活用し実証、導入拡大(国、H30～) ・観光客向けカーシェアリングをホテルから順次拡大(民間、H28～)

都市名	公共交通の考え方
-----	----------

福井県

(2) 「都市の改造」と「ふるさと資産」の価値創造

○ 「官民共働」による都市のリ・デザイン
 [主要プロジェクト] (抜粋)

- ・ 公共施設の再配置や民間再開発事業の拡大により、福井市中心部への都市機能の再集約を促進 (県・福井市・民間)
- ・ 各市町の中心市街地において、空き家や空き店舗などを活用したまちなか居住、商業エリアの活性化を推進 (県・市町・民間)
- ・ 中心市街地における「緑のシンボル軸」の形成、空き地等を活用したまちの緑化を推進 (県・市町・民間)
- ・ 各市町の景観計画やガイドラインに基づき、美しい住風景やまちなみ景観の形成を推進 (県・市町・民間)
- ・ 道路空間の再配分により、歩行者や自転車の安全で快適な利用空間を確保 (県・市町)

■二次交通拡充の体系 (案) 出典：エリア別プロジェクト集 (令和4年3月改定)

【福井県嶺北地域公共交通計画 (仮) 令和5年度下期策定予定】

◇計画の区域：福井県嶺北地域 (11市町)

◇計画期間：令和6年度～令和10年度

◇目的
 北陸新幹線開業に向け、新幹線駅の交通ネットワークの充実を図るとともに、地域鉄道と路線バスを軸とした計画を策定し、公共交通の利便性向上を図る。

◇施策の方向性

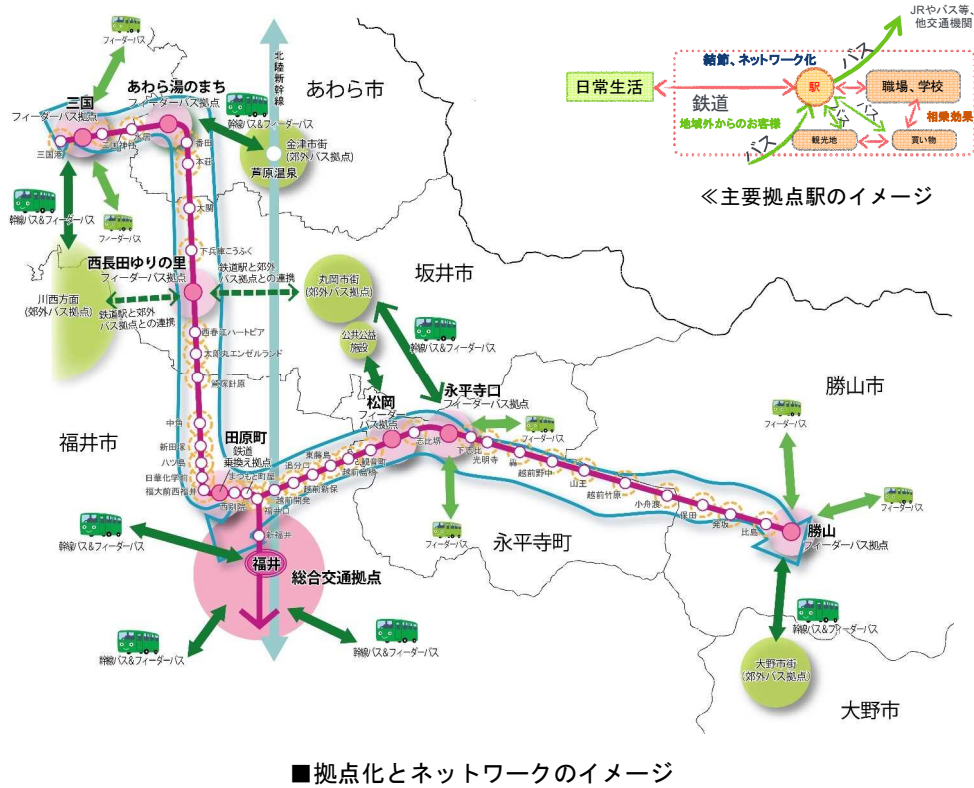
1. 持続可能な交通ネットワークの構築
2. 新幹線駅からの利便性の高い二次交通の整備
3. 公共交通での移動を楽しめる仕掛けづくり

都市名	公共交通の考え方
-----	----------

えちぜん
鉄 道
交 通 圏

(福井市、
勝山市、
あわら市、
坂井市、
永平寺町、
大野市)

- 【えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画 令和4年3月改定】
- ◇計画の区域：えちぜん鉄道とバス路線網を有機的に結合することで都市の発展が期待できる交通領域（えちぜん鉄道交通圏）
（福井市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町、大野市）
 - ◇計画期間：令和4年度～令和8年度
 - ◇目指すべき公共交通の将来像
「車と比べても『選ばれる移動手段』になる」
 - ◇将来像実現のための目標と主要施策
 - 目標1 地域の交通として利用しなくなる公共交通の実現
 - ・利用環境の向上
 - ・駅やバス停へのアクセス向上
 - ・交通機関の乗り継ぎ利便性向上
 - 目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現
 - ・安心・安全を支える鉄道施設づくり
 - ・信頼できる運行を支える鉄道施設づくり
 - ・バス路線の維持
 - 目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現
 - ・駅を核としたまちづくり
 - ・観光・地域活性化施策との連携
 - ・情報発信の連携・強化
 - 目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現
 - ・乗る運動・利用促進
 - ・地域住民との連携



都市名	公共交通の考え方
<p>福井県並 行在来線 地域公共 交通計画 協議会 (福井県、 福井市、 敦賀市、 鯖江市、 あわら市、 越前市、 坂井市、 南越前町)</p>	<p>【福井県並行在来線地域公共交通計画 令和3年10月策定】</p> <p>◇計画の区域：石川県境からJR敦賀駅までの並行在来線沿線市町 (あわら市、坂井市、福井市、鯖江市、越前市、南越前町、敦賀市)</p> <p>◇計画期間：令和3年度～令和16年度(14年間)</p> <p>◇基本的な方針</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 関係法令等を遵守した上で、輸送の安全・安定を最優先に確保する。 (2) 地域に密着した「県民鉄道」へと一新し、生活や交流の基点となるサービスの提供を通じて地域振興と県民の生活環境の向上を図る。 (3) 鉄道事業再構築実施計画の策定により、業務の効率化を図るとともに、実効性ある利用促進策を講じ、長期に渡り安定した経営を維持する。特に、利用促進に関しては、行政や民間、県民が目標値を共有した上で、一致協力して取り組む。 (4) 並行在来線は本県の主要な公共交通軸であるとともに、都市基盤の骨格軸でもあることから、行政や民間と連携し、鉄道駅を中心としたコンパクトシティの形成など持続可能なまちづくりに協力する。 <p>◇計画の目標</p> <p>並行在来線の利用者について、新幹線開業により期待される来県者の利用を確実に取り込むほか、利便性の向上等により人口減少のなかでも通勤・通学や買い物、通院などの県民等の日常的な利用の増加を図り、開業から11年間、開業時の利用者数を維持し、並行在来線の持続可能性を高める。</p> <p>○数値目標(利用者数の目標)：開業年度(令和6年度)の利用者数約2万人/日の維持</p> <p>◇施策・事業および実施主体</p> <p>＜施策1 利便性の向上＞</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 誰もが利用しやすいダイヤの編成【並行在来線会社(並在会社)】 (2) 観光・イベント列車の運行【並在会社、民間企業、沿線市町、県】 (3) 誰もが利用しやすい環境づくり、駅サービスの向上【並在会社、沿線市町】 (4) 駅へのアクセス向上等【並在会社、沿線市町、県】 (5) 新駅の設置【並在会社、沿線市町、県】 <p>＜施策2 駅を中心としたまちづくり＞</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 駅を中心に都市機能の集約や居住誘導【沿線市町、県】 (2) 既存駅のモデルチェンジ【並在会社、沿線市町、県、地域住民】 (3) 駅・駅周辺のにぎわいづくり【並在会社、沿線市町、民間企業、地域住民】 <p>＜施策3 地域鉄道など他の交通事業者との連携＞</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域鉄道等との連携【並在会社、地域鉄道事業者等、県】 (2) 交通事業者等との連携【並在会社、公共交通事業者】 <p>＜施策4 地域に親しまれる鉄道への転換＞</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 会社名の公募【並在会社、県民】 (2) 県民の参画【並在会社、県民、大学等】 (3) マイレール意識の醸成【並在会社、沿線市町、県】 (4) サポーターズクラブの設立【並在会社、地域住民、沿線市町、県】

3. 地域公共交通の現況

- ・福井鉄道交通圏に関連する鉄道は、当該地域と他都市圏を結ぶJR北陸本線、福井市と坂井市・あわら市方面を結ぶえちぜん鉄道三国芦原線、福井市と勝山市・永平寺町方面を結ぶえちぜん鉄道勝山永平寺線、福井市と大野市方面を結ぶJR越美北線がある。
- ・当該地区に関連するバス交通は、京福バス、福井鉄道が運行する路線バスと、各市町が運行するコミュニティバス等がある。

表3-1(1) 公共交通網の接続状況（令和4年10月1日現在）

駅名	都市名	路線バスとの接続状況	コミュニティバス等との接続状況
越前武生 (たけふ新)	南越前町	王子保・河野線 (0m)	住民利用バス河野地区線 (王子保河野線との乗継) (0m)
	池田町	池田線(福鉄バス) (0m)	池田町民バスなかま号 (池田線との乗継) (0m)
		武生越前海岸線、 南越線、池田線、 白山線、入谷線、 王子保河野線、高校線 (0m)	市民バスのろっさ (0m) (市街地循環北ルート、市街地循環南ルート、 吉野・大虫ルート、坂口・神山ルート、 王子保・南ルート、国高・北日野ルート、 味真野・北新庄ルート、白山・大虫ルート)
北府	越前市	—	市民バスのろっさ (0m) (市街地循環北ルート、吉野・大虫ルート(吉野編))
スポーツ公園		—	市民バスのろっさ (0m) (吉野・大虫ルート(吉野編))
家久		—	市民バスのろっさ (50m) (吉野・大虫ルート(吉野編))
サンドーム西	鯖江市	—	鯖江市コミュニティバス つつじバス (鯖江南・新横江線:200m)
西鯖江		—	鯖江市コミュニティバス つつじバス (循環線、豊線、北中山・中河線、河和田線:100m) (鯖江南・新横江線:200m)
西山公園		—	—
水落		—	鯖江市コミュニティバス つつじバス (0m) (循環線)
神明		鯖浦線 (0m)	鯖江市コミュニティバス つつじバス (0m) (循環線、神明線、片上・中河線、立待線、吉川線)
鳥羽中		—	—
三十八社		—	—
泰澄の里	福井市	麻生津循環線 (300m)	福井市南東地区フルデマンドタクシー (100m)
浅水		福浦線 (150m) 麻生津循環線 (0m)	福井市南東地区フルデマンドタクシー (150m)
ハーモニーホール		福浦線 (150m)	—
清明		福浦線 (100m)	—

表3-1(2) 公共交通網の接続状況（令和4年10月1日現在）

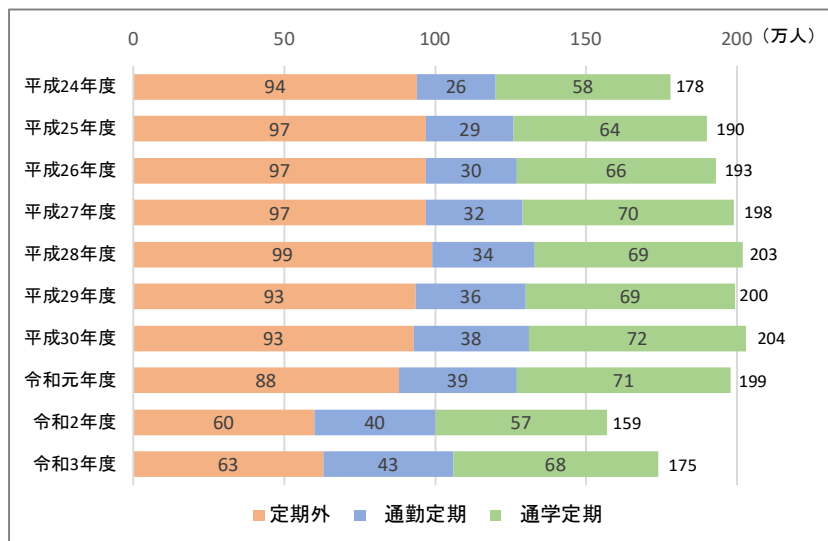
駅名	都市名	路線バスとの接続状況	コミュニティバス等との接続状況
江 端	福井市	福浦線（50m） 清明循環線（150m）	福井市南東地区フルデマンドタクシー（0m）
ベル前		福浦線（150m） 清明循環線（150m） 運動公園線（300m）	福井市南東地区フルデマンドタクシー（150m）
花 堂		福浦線（150m） 運動公園線（150m）	—
赤十字前		福浦線（200m） 運動公園線（200m） 西田中宿堂線（200m）	—
商工会議所前		福浦線（50m） 運動公園線（50m） 西田中宿堂線（50m）	—
足羽山公園口		福浦線（50m） 運動公園線（50m） 西田中宿堂線（50m）	—
福井城址大名町		福浦線（50m） 越前海岸ブルーライン、福井総合クリニック線、 エンゼルランド線、福井総合病院線、 大学病院新田塚線、運転者教育センター線、 高木線、丸岡線、大和田大学病院線、 心臓センター町屋線、すまいるバス（50m）	—
福井駅		福井駅バスターミナル（0m）	池田町町民協働バスマイバス（0m）
仁愛女子高		福浦線（50m） 越前海岸ブルーライン、福井総合クリニック線、 エンゼルランド線、福井総合病院線、 大学病院新田塚線、運転者教育センター線、 高木線、丸岡線、大和田大学病院線、 すまいるバス（50m）	—
田原町		福浦線（50m） 福井総合クリニック線、エンゼルランド線、 福井総合病院線、大学病院新田塚線、 運転者教育センター線、高木線、丸岡線、 大和田大学病院線（50m） すまいるバス（150m）	日新さんさんバス（150m）
福大前西福井 （えちぜん鉄道）		幾久新田塚線、福井総合クリニック線 （150m）	日新さんさんバス（50m）
日華化学前 （えちぜん鉄道）		幾久新田塚線、福井総合クリニック線 （300m）	日新さんさんバス（200m）
ハツ島 （えちぜん鉄道）		—	日新さんさんバス（50m）
新田塚 （えちぜん鉄道）		—	—
鷺塚針原 （えちぜん鉄道）		—	—

※（カッコ）内はバス停から福井鉄道駅までの距離（ただし300m圏内）

4. 福井鉄道福武線の現況

(1) 輸送人員の状況

- 福武線の輸送人員は増加傾向にあったが、平成28年度に年間200万人を超えて以降、概ね横ばいで推移し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2、3年度は大幅に減少した。
- 輸送人員の推移を券種別にみると、定期外の減少が顕著であり、通勤定期はコロナ禍にあっても継続的に増加している。

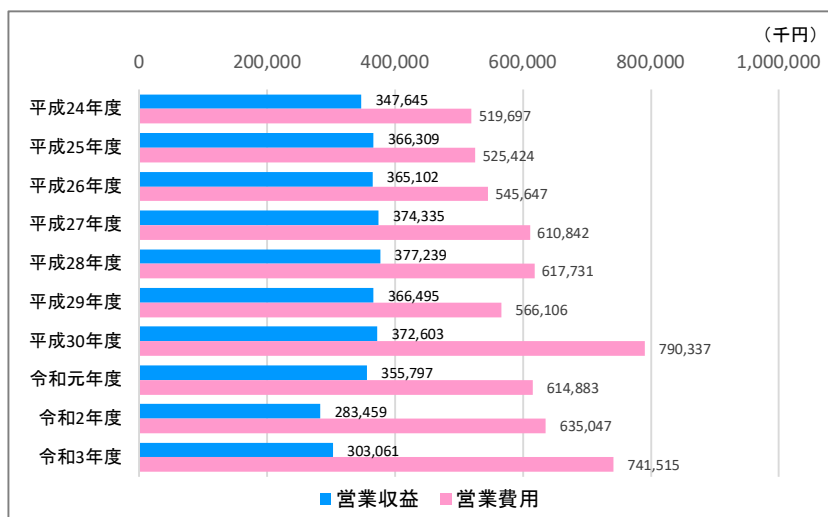


資料：福井鉄道

図4-1 輸送人員の推移

(2) 経営の状況

- 営業収益は、輸送人員の増加に応じて増加傾向にあったが、平成28年度以降横ばいで推移し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2、3年度は大幅に減少した。
- 営業費用については、平成30年度、令和3年度に大幅に増加している。令和2、3年度は、輸送人員の減少により営業収益が減少しており、営業損益の赤字が拡大している。



資料：福井鉄道

図4-2 営業収益・営業費用輸送人員の推移

(3) 施設・設備の状況

福武線の平成29年度以降の整備状況は以下のとおりである。

表4-1(1) 福武線の整備状況（平成29年度～令和3年度）

年度	整備実績	整備内容
H29	レール重軌条化 (37 kg→50 kg N)	神明駅構内上り線・3番線 L=205m
	分岐器重軌条化 (37 kg→50 kg N)	神明駅構内3号分岐器
	路面軌道の改良 (レール・マクラギ・軌道道床等)	大名町交差点～裁判所前交差点区間上り線・下り線 L=504m (1,008m)
	50 kg N レール更新	越前武生～北府駅間 L=350m、家久～サドーム西間 L=130m、西山第1曲線 L=180m、鳥羽中西曲線 L=310m、三十八社～泰澄の里駅間 L=420m
	軌道道床および踏切道の更新	武生新第1踏切 市道1号線 L=25m
	道床バラスト更新	家久～サドーム西駅間 L=130m、西山第1曲線 L=180m、鳥羽中西曲線 L=310m、三十八社～泰澄の里駅間 L=420m
	PC マクラギ更新	三十八社～泰澄の里駅間 L=420m
	合成マクラギ更新	江端川橋梁、大町川橋梁、日野川西曲線水路橋、日野川西曲線架道橋
	レール塗油器新設	鳥羽中西曲線
	踏切遮断器新設	武生新第1踏切、浅水南踏切、花堂南踏切、花堂北踏切 計4箇所
	吊架線更新	市役所前上り線～田原町入口 L=1,300m、日野川西曲線～日野川東詰 L=700m
	電車線更新	水落駅構内2番線 L=250m、鳥羽中西曲線 L=250m
	高圧気中負荷開閉器の更新	北府駅(2箇所)、サドーム西駅、水落駅、神明駅(2箇所)、三十八社駅、浅水駅、江端駅、大名町 計10箇所
	電車線柱更新	西鯖江157号柱、森行331号柱、花堂～赤十字前468・469号柱 計4箇所
	車両修繕	車両タイヤ：F1001号車12枚、F1002号車12枚、 776-7号車12枚 車輪削正：F1001号車、F1002号車、F1004号車、 772-3号車、882-3号車 車両修繕：F1002号車、772-3号車、776-7号車、 882-3号車
	踏切道更新	家久第1踏切 幅員6.5m (L=7.7m)
	踏切保安設備更新	家久～江端駅間 白河(下り)上鯖江(上下)長泉寺(上り)水落南(上り)鳥羽中(上り)中野(上り)足羽(上下) 計9箇所
	信号機柱更新	水落下り場内、三十八社下り場内 N2箇所
	列車無線・ATS連動化改良	F1002号車、F1003号車、F1004号車
	電停改良	市役所前停留所
駅トイレ改修	赤十字前駅	

表4-1(2) 福武線の整備状況（平成29年度～令和3年度）

年度	整備実績	整備内容
H29	支障物件移設	電線地中化 新木田交差点
	駐車場舗装	江端駅
	看板修繕	ハーモニーホール駅 P & R
	駅名変更	市役所前→福井城址大名町
	駐車場整備	ベル前駅（自転車）
H30	レール更新	日野川西曲線 L=250m、家久～サンドーム西駅間 L=100m
	マクラギ更新	家久～サンドーム西駅間 N=360 本
	道床更新	家久～サンドーム西駅間 L=180m、花堂北踏切（上下線）幅員 13m
	踏切道更新	花堂北踏切（上下線）幅員 13m
	分岐器重軌条化	北府構内 1S
	橋梁架け替え	蕨ヶ市第一水路橋、蕨ヶ市第二水路橋 2 箇所
	法面補強	西山公園～水落駅間 1 箇所 30 m ²
	電車線更新	ハーモニーホール～江端駅間 L=870m
	電柱更新	家久～西鯖江駅間 木柱の CP 化 N=10 本
	送き電線更新	越前武生～北府駅間 L=1,202m
	防風設備更新	日野川風速計 N=1 基
	柱上変圧器更新	越前武生駅～赤十字駅間 N=10 箇所
	ポイント融雪設備更新	赤十字前駅 2W・3W 分岐器融雪装置 温風式
	ポイント融雪設備更新	家久駅 1S 履行式
	駐車場舗装	花堂駅
	駐輪場整備	三十八社駅
	踏切保安整備更新	武生新第二踏切(上下)北府踏切(上下)蕨ヶ市踏切(下り)芝原踏切・柳原踏切(上下)白河踏切(上り)住吉町踏切(下り)琵琶神社踏切(下り)鳥羽中踏切(下り)琵琶神社踏切(上り)中野踏切(下り) 計 10 箇所
	列車無線設備更新	西山基地局光ケーブル化 N=1 箇所 越前武生駅
	除雪車両更新	軌陸両用ロータリ除雪車
R1	レール更新	西山第二曲線 L=250m 水落～神明駅間 L=80m
	分岐器更新	三十八社駅 1S・2W
	マクラギ更新	水落～神明駅間 PC マクラギ同種交換 N=338 本
	道床更新	西鯖江～西山公園駅間 L=250m、水落～神明駅間 L=80m、元山大師曲線 L=210m 計 L=540m
	橋マクラギ合成化・PC 化	越前武生～赤十字前駅間 16 橋梁
	電車線更新	福井城址大名町～田原町駅間（下り線）L=260m、福井城址大名町～福井駅間 L=650m
	電柱更新	西山公園～水落駅間 N=8 本
	ポイント融雪設備新設	江端駅 1W・2S、花堂 1S（温水式）
	SIV 装置・主制御装置・空気圧縮機装置更新	884-5 号車

表4-1(3) 福武線の整備状況（平成29年度～令和3年度）

年度	整備実績	整備内容
R1	駅構内の駅名標多言語化改修	16 駅
	駅設備改修	浅水駅トイレ及び下水切替
	車内路線図の多言語化改修	880 形 5 編成
R2	レール更新	西鯖江～西山公園駅間（西鯖江曲線）L=202.4m
	分岐器更新	家久 2S、浅水 2S 計 2 箇所
	マクラギ更新	スポーツ公園～家久駅間 N=236 本
	道床更新	西鯖江～西山公園駅間（西鯖江曲線）L=64.0m
	橋マクラギ合成化	北府～家久駅間 4 橋梁
	橋梁改修	支承更新・橋桁補強・橋桁舗装 北府～家久駅間 4 橋梁
	電車線更新	神明～三十八社駅間 L=917m
	電柱更新	西山公園～神明駅間 N=2 本、ベル前駅～花堂駅間 N=2 本
	変電所設備更新	上鯖江変電所→北府変電所 変電所機器・電路通信設備・変電所上屋
	法面補強工事	家久駅～サンドーム西駅間 日野川東曲線 L=47m
	抗菌・抗ウイルス加工	駅舎の抗菌・抗ウイルス加工、車両の抗菌・抗ウイルス加工 F1000 形 4 編成、770 形 4 編成、880 形 5 編成、レトラム 1 編成
	車両改修(サイクルトレイン)	880 形 1 編成
	新型コロナウイルス対策事業	駅・車内貼り新型コロナ対策ポスター制作、 駅舎及び車両消毒時のフェイスシールドマスク購入、 福鉄電車応援！1 日フリー乗車券制作
	駅の運賃表、時刻表、 路線図の多言語化	越前武生駅～赤十字前駅 19 駅
	車内自動放送装置の多言語化	F1000 形、770 形、880 形 車両 14 編成
車両改修	888-9 号車 VVVF 装置・空調改修・LED 客室灯・空気圧縮機	
閉塞通信ケーブル取替	浅水～江端駅間 398 号柱～414 号柱	
R3	レール更新	家久～サンドーム西駅間 L=323.5m、サンドーム西～西鯖江駅間 L=107.3m、水落～神明駅間 L=167.0m、三十八社駅構内 L=127.2m、三十八社～泰澄の里駅間 L=513.7m 計 L=1,238.7m
	分岐器更新	家久駅 1S 分岐器、浅水駅 1W 分岐器 計 2 箇所
	マクラギ更新	スポーツ公園～家久駅 N=270 本、神明～鳥羽中駅 N=481 本
	道床更新	家久～西鯖江駅間 L=250.0m、神明～鳥羽中駅間 L=663.5m、 三十八社駅構内 L=254.3m、清明～江端駅間 L=477.2m、 江端駅構内 L=245.7m、赤十字前駅～鉄軌道分界点 L=106.3m、 花堂南踏切 L=27.5m 計 L=2,024.5m
	橋梁改修	西山下架道橋
	法面補強	西山公園～水落間（元山大師曲線）L=20m
	電車線更新	家久～花堂駅間 L=4,103m
	電柱更新	西山公園～水落駅間 N=1 本、水落駅～神明駅間 N=1 本、 三十八社～泰澄の里駅間 N=8 本、浅水～ハーモニーホール駅間 N=1 本、 ハーモニーホール～清明駅間 N=6 本 計 N=18 本

表4-1(4) 福武線の整備状況（平成29年度～令和3年度）

年度	整備実績	整備内容
R3	無料Wi-Fi機器の設置	越前武生駅、北府駅、サンドーム西駅、西鯖江駅、神明駅、赤十字前駅、福井駅電停、田原町駅 計8箇所
	列車案内放送多言語化	越前武生駅、神明駅、福井城址大名電停、福井駅電停、田原町駅 計5箇所
	自動券売機のキャッシュレス決済対応化	越前武生駅、北府駅、サンドーム西駅、西鯖江駅、神明駅、赤十字前駅、福井駅電停、田原町駅 計8箇所
	車両改修	882-3号車、886-7号車 VVVF装置・空調改修・LED客室灯・空気圧縮機
	デジタル化・システム化	点群データ台帳作成、Webチケット導入
	車両設備更新	車両抗菌フィルム貼り 770形4編成、880形3編成
	車両検査・修繕	F1002号車、772-3号車 全般検査・重要部検査・車輪交換・車輪削正

(4) パークアンドライドの状況

過度に自動車に依存した交通環境を是正し、鉄道利用への転換を図るため、福武線各駅でのパークアンドライド駐車場の整備を進めている。

整備状況は、下表に示すとおりで、軌道区間の電停を除く19駅のうちの15駅に合計395台の駐車場があり、浅水駅を除いて無料で提供している。これらのうち、浅水駅、水落駅、北府駅には他駅と比べて大きな駐車容量が確保されている。また、公共施設（県立音楽堂）や商業施設の駐車場の一部を活用した駐車場も提供されている。

表4-2 福武線のパークアンドライド駐車場の整備状況

	駅名	駐車容量	料金	利用条件	備考
1	花堂	22台	無料	福武線利用者	申込：不要
2	ベル前	50台	無料	福武線の定期券または回数券を提示して、ベルお買物券3,000円購入者 <利用時間> 6時から22時まで (降雪時は午前10時から)	商業施設の駐車場の一部を使用 申込：ショッピングシイベル (1階総合カウンター)
3	江端	25台	無料	福武線利用者	申込：不要
4	ハーモニーホール	38台	無料	福武線の定期券または回数券利用者	県立音楽堂ハーモニーホールふくいの駐車場の一部を使用 申込：福井県交通まちづくり課
5	浅水	42台	3,150円/月 320円/日	福武線利用者 (定期券利用者は料金免除)	県営駐車場 (申込先：浅水駅)
6	三十八社	11台	無料	福武線利用者	申込：不要、未舗装
7	鳥羽中	5台	無料	福武線利用者	申込：不要、未舗装
8	神明	15台	無料	福武線の定期券利用者	申込：神明駅
9	水落	80台	無料	福武線利用者	市営駐車場（申込：不要）
10	西鯖江	14台	無料	福武線利用者	申込：不要、未舗装
11	サンドーム西	10台	無料	福武線利用者	申込：不要、未舗装
12	家久	6台	無料	福武線利用者	申込：不要
13	スポーツ公園	13台	無料	福武線利用者	申込：不要
14	北府	59台	無料	福武線利用者	県営駐車場（申込：不要）
15	越前武生	5台	無料	福武線の定期券利用者	申込：越前武生駅
	計	395台			

出典：福井鉄道HP



写真1 西鯖江駅駐車場



写真2 家久駅駐車場

(5) えちぜん鉄道との相互乗入の状況

えちぜん鉄道との運行面での連携は、平成24年10月の連絡運賃の取扱いに始まり、平成28年3月27日には福井鉄道越前武生駅とえちぜん鉄道鷺塚針原駅間で相互乗入（フェニックス田原町ライン）の運行が開始された。えちぜん鉄道交通圏と福井鉄道交通圏を直通運行することによって、公共交通の利便性を向上するとともに地域間交流の促進に寄与している。

平成30年度の利用者数は15.8万人となり、田原町駅での乗り換えが必要だった平成27年度の約5万人から約3倍に増加している。

令和2年度にはコロナ禍の影響により利用者数が減少（平成30年度比76%）したものの、令和3年度には平成30年度の92%にまで回復している。

（通勤定期、回数券利用者は、コロナ禍にあっても増加した。通学定期利用者は、休校の期間があり減少した。定期券、回数券以外の一般利用者は、平成30年度の63%まで減少し、令和3年度でも68%までしか回復していない。）

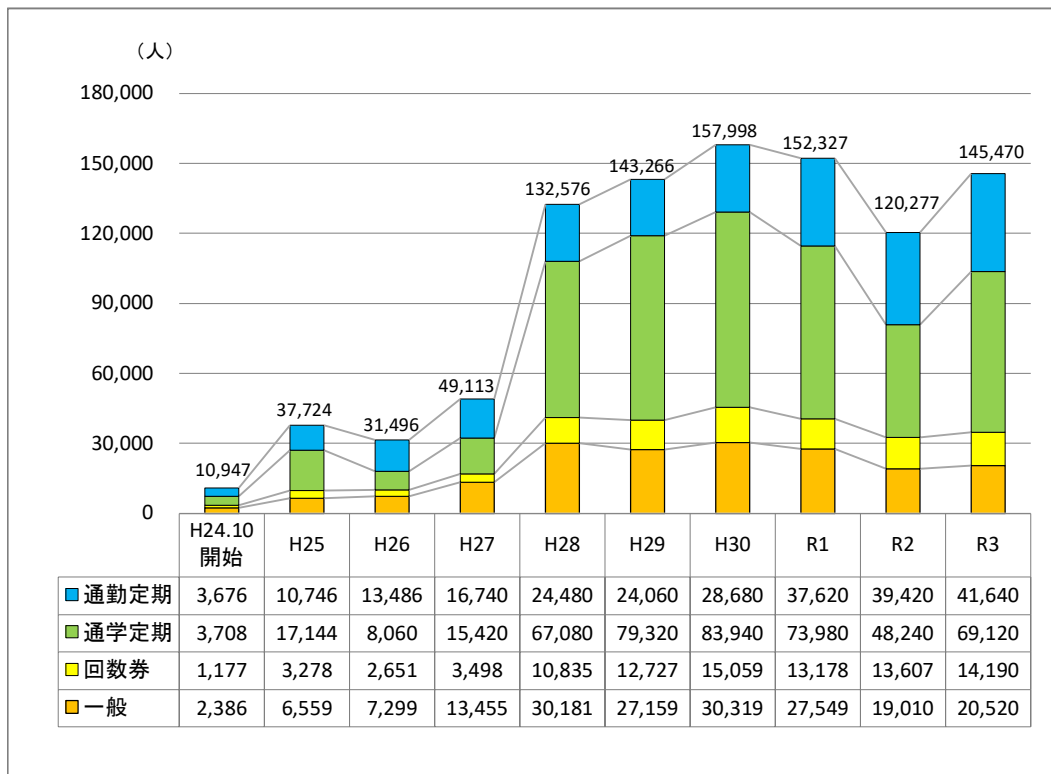


図4-3 年度別フェニックス田原町ライン利用者数の推移

(6) 割引乗車券の活用状況

福武線では、割引乗車券として以下の乗車券を発行している。

表4-3 福武線の割引乗車券の種類

種 類	概 要
モバイルチケットサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンを利用して、以下のチケットをモバイルチケットとして利用可能（料金等は、紙チケットと同様） ○土・日・祝日1日フリー乗車券 ○プレミアム1日フリー乗車券（プレミアム会員限定） ○福井鉄道・えちぜん鉄道共通1日フリーきっぷ
プレミアム1日フリー乗車券	<ul style="list-style-type: none"> ・越前市、鯖江市、福井市在住の65歳以上または自動車運転免許自主返納者（プレミアム会員の登録が必要）を対象に、福武線区間内（越前武生－田原町）が1日乗り放題の乗車券 ・発売金額：500円
土・日・祝日1日フリー乗車券	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日、日曜日、祝日及び福井鉄道が指定する日で福武線区間内（越前武生－田原町）が1日乗り放題の乗車券 ・発売金額：大人 560円、こども 280円
福井鉄道・えちぜん鉄道共通1日フリーきっぷ	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日、日曜日、祝日及び福井鉄道、えちぜん鉄道が指定する日で福井鉄道、えちぜん鉄道が1日乗り放題の乗車券 ・発売金額：大人 1,400円、こども 700円
フライデーフリーパス	<ul style="list-style-type: none"> ・福武線区間内（越前武生－田原町）で使用できる金曜日専用の月極フリー乗車券 ・発売金額：1ヵ月 2,920円
電車・バス休日フリーきっぷ	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日、日曜日、祝日、12月30日～1月3日に福武線区間内（越前武生－田原町）及び福鉄バス全路線で使用できる1日乗り放題の乗車券 ・発売金額：ファミリー（大人2名、または大人1名こども2名）2,200円、大人 1,200円、こども 600円
普通回数乗車券	<ul style="list-style-type: none"> ・回数乗車券 ・発売金額：利用区間の普通運賃10回分の金額で11枚綴り ・有効期限：購入日より6ヶ月間
通勤定期乗車券 通学定期乗車券	<ul style="list-style-type: none"> ・定期（1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月）乗車券 ・通勤定期乗車券、通学定期乗車券 ・通学定期乗車券では、1年定期、学期定期も選択可

（令和4年10月1日現在）

上記以外でも、食事券等とセットの1日フリー乗車券の他、遠足などの野外学習での福井鉄道の利便性を高める「児童・生徒野外学習運賃補助制度」を実施しており、児童、生徒及び引率者の運賃の半額を補助している。対象は、越前市、鯖江市、福井市に所在する保育園、幼稚園、小中学校、高等学校、児童館、子供会その他5人以上の児童などで構成される団体となっている。

また、県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）に隣接するハーモニーホール駅があり、コンサートチケットの提示により運賃割引を行うなど、各種施設やイベントと連携した運賃割引を行っている。

5. バス交通の現況

(1) 路線バスの状況と機能

① 路線一覧

- 福井鉄道交通圏における路線バスは、京福バス、福鉄バスの2つの路線網によって形成され、市街地内の近距離路線、隣接都市を連絡する広域路線によって構成されている。
- 京福バスは、福井駅を拠点として、福井市内をはじめ大野市、坂井市、永平寺町、池田町、越前町を連絡している。福鉄バスは、越前武生駅を拠点として越前市内、池田町、南越前町、越前町を連絡するとともに、神明駅、浅水駅、ベル前駅、赤十字前駅に接続するバス路線を運行している。また、越前町と福井市を連絡する路線を運行している。

表5-1(1) 京福バスが運行する福井鉄道交通圏のバス路線一覧（令和3年10月1日現在）

番号	起 点	主な経過地	終 点	キロ程 (km)	所要 時間 (分)	運行 回数 (回)	平均乗 車密度 (人)	備 考
1	福井駅	済生会病院 小和清水・朝倉 川上・越前大野駅	ヴィオ	往 39.1	70	3.0	0.0	土日祝運行
				復 38.9	70			
2	福井駅	済生会病院 小和清水 花山・越前大野駅	ヴィオ	往 38.1	61	8.0	2.8	
				復 37.9	68			
3	福井駅	済生会病院 小和清水 川上・越前大野駅	ヴィオ	往 38.9	69	3.0	9.3	土日祝運休
				復 38.7	70			
4	福井駅	東郷	浄教寺	往 16.1	34	3.5	1.9	
				復 16.1	33			
5	福井駅	東郷	鹿俣	往 16.4	34	1.0	3.4	
				復				
6	福井駅	東郷 浄教寺	鹿俣	往		1.5	1.5	
				復 19.2	40			
7	福井駅	赤十字病院 プラント3 西田中	天王	往 21.5	58	3.0	7.7	
				復 21.6	59			
8	天王	上糸生	宿堂	往 11.6	17	2.5	0.3	
				復 11.6	19			
9	福井駅	茶崎 居倉	水仙 ランド 入口	往 37.0	70	3.0	2.3	
				復 37.0	70			
10	福井駅	すかっとランド九頭 竜	三国駅	往 25.5	54	1.0	3.3	日祝運休
				復 25.5	68			
11	福井駅	町屋町	丸岡城	往		0.5	9.0	土日祝運休
				復 13.8	42			
12	福井駅	町屋町	丸岡高校	往 13.6	43	2.5	2.6	
				復 14.9	45			
13	福井駅	田原町	丸岡城	往 14.7	42	3.0	3.8	
				復 14.7	53			
				復				
14	福井駅	森田駅	福井 大学病院	往 16.2	40	3.0	2.9	土日祝運休
				復 16.2	43			
15	福井駅	松岡駅福井大学病院	県立大学	往 12.6	33	4.0	8.7	土日祝運休
				復 12.5	30			

表5-1(2) 京福バスが運行する福井鉄道交通圏のバス路線一覧（令和3年10月1日現在）

番号	起 点	主な経過地	終 点	キロ程 (km)	所要 時間 (分)	運行 回数 (回)	平均乗 車密度 (人)	備 考
16	福井駅		県立大学	往 12.1	31	0.5	0.0	土日祝運休
				復				
17	福井駅	運転者教育センター	福井駅	循 21.4	68	3.0	3.5	
				復				
18	福井駅	福井大学前 新田塚 幾久	福井駅	循 8.4	28	5.0	6.0	
				復				
19	福井駅	幾久 新田塚 福井大学前	福井駅	循 8.5	31	4.0	7.1	
				復				
20	福井駅	道守高校前 花堂	福井駅	循 13.8	41	32.0	8.8	
				復				
21	福井駅	花堂 道守高校前	福井駅	循 13.8	40	30.0	5.3	
				復				
22	福井駅	中藤公民館	寺前	往 復 6.7	28	0.5	7.3	土日祝運休
				往				
23	福井駅	菅谷町	福井駅	循 8.9	30	41.0	9.1	
				復				
24	福井駅		金井学園 前	往 3.0	8	1.5	63.6	休校日運休
				復				
25	福井駅	町屋グラウンド	心臓 センター	往 6.2	23	2.0	3.4	
				復 6.2	24			
26	福井駅	フレンドタウン 福井	心臓 センター	往 6.3	25	10.0	3.2	
				復 6.5	26			
27	福井駅	木田校前 羽水高校前	県産業 会館	往 4.6	17	6.5	1.6	
				復 4.6	16			
28	福井駅	重藤町 新田塚 福井総合クリニック	福井 総合病院	往 11.8	33	9.5	5.0	祝運休
				復 11.8	32			
29	福井駅	赤十字病院 みどり図書館前	清水 プラント3	往 14.2	43	21.5	4.0	
				復 14.2	39			
30	福井駅	赤十字病院	清水 プラント 3	往 復 13.3	45	0.5	12.8	
				往				
31	福井駅	赤十字病院	Cネット	往 16.5	49	1.0	6.4	
				復 15.7	54			
32	福井駅	北陸高校東	福井駅	循 5.6	36	18.0	7.8	
				復				
33	福井駅	福井競輪場	福井駅	循 6.4	37	18.0	8.6	
				復				
34	福井駅	羽水高校	福井駅	循 8.4	31	18.0	8.7	
				復				
35	福井駅	県立病院口	福井駅	循 7.9	38	18.0	7.9	
				復				
36	清水 プラント3	下系生 大森	織田	往 復 16.8	30	0.5	2.7	
				往				
37	清水 プラント3	下系生 大森 泰澄の杜	織田	往 18.8	38	1.5	0.1	
				復 18.2	35			

表5-1(3) 京福バスが運行する福井鉄道交通圏のバス路線一覧（令和3年10月1日現在）

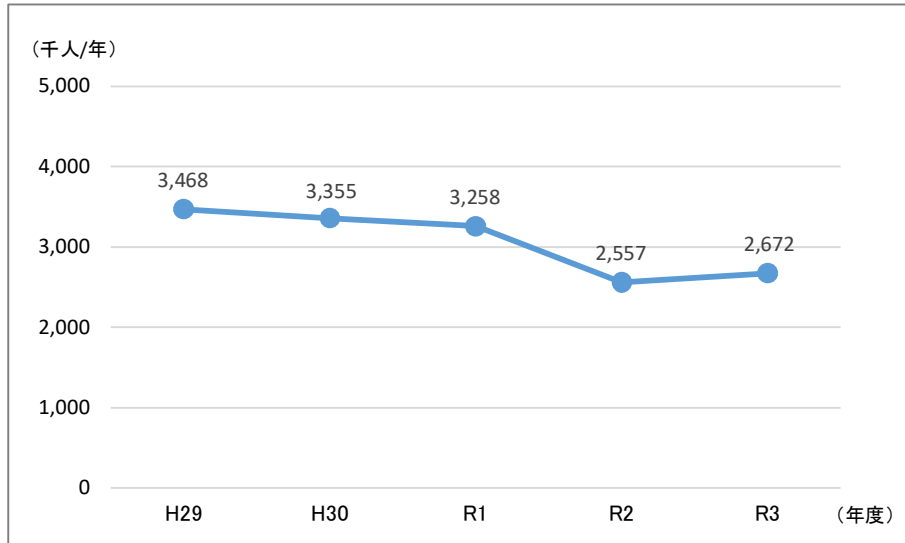
番号	起 点	主な経過地	終 点	キロ程 (km)	所要 時間 (分)	運行 回数 (回)	平均乗 車密度 (人)	備 考	
38	清水 プラント3	西田中	天王	往	9.9	22	3.0	0.6	
				復	9.2	17			
39	福井駅	県立病院	丸岡城	往	17.7	50	11.0	4.5	
				復	16.6	54			
40	福井駅	桜ヶ丘第2	福井駅	循	22.5	53	6.0	1.7	
41	福井駅	佐野	波の華	往	35.3	71	5.0	8.8	
				復	35.3	72			
42	福井駅	福井病院 佐野	波の華	往	36.4	74	10.0	2.8	
				復	36.4	86			
43	福井駅	西松本・佐野	波の華	往	35.7	64	1.0	9.4	日祝運休
				復	36.1	79			
44	福井駅	堀の宮・三ツ屋	すかつと ランド 九頭竜	往	10.2	20	0.5	0.0	土日祝運休
				復					
45	福井駅	堀の宮・三ツ屋	福井 総合病院	往	11.4	28	2.0	3.8	日祝運休
				復	11.2	26			
46	福井駅	重藤町 新田塚	福井クリ ニック	往	4.7	22	6.0	3.4	日祝運休
				復	4.7	21			
47	福井駅	福井大学	福井クリ ニック	往	4.4	18	0.5	14.9	土日祝運休
				復					
48	福井駅	四ツ井	福井駅	循	10.7	35	10.0	3.5	土日祝運休
49	福井駅	済生会病院	福井駅	循	10.7	35	7.0	5.0	土日祝運休
50	福井駅	藤島高校前	エンゼルラ ンド	往	10.6	35	8.0	1.3	
				復	10.6	35			
51	福井駅	アピタ・エルパ前	丸岡城	往	19.7	61	11.0	3.7	
				復	18.6	60			
52	福井駅	アピタ・エルパ前	福井大学 病院	往	13.3	39	25.0	4.5	
				復	13.4	40			

表5-2 福鉄バスが運行する福井鉄道交通圏のバス路線一覧（令和3年10月1日現在）

番号	起点	主な経過地	終点	キロ程 (km)	標準 所要 時間 (分)	運行 回数	支援区分	乗車 密度 (OD)	輸送 人員 (OD)	系統名
1	田原町	織田 西田中	かれい崎	44.8	117	2.7	地域間幹線	3.1	8.3	福浦線
2	JR 北鯖江駅	神明駅 織田病院	かれい崎	39.8	118	3.0	地域間幹線	3.8	11.4	鯖浦線(かれい崎)
3	JR 北鯖江駅	神明駅 新椋津	織田	20.6	112	5.4	地域間幹線	4.2	22.6	鯖浦線(織田)
4	越前武生	八田 織田	かれい崎	33.4	78	5.2	地域間幹線	3.1	16.1	武生越前海岸線
5	シピィ	越前武生 武生東高校	和紙の里	13.5	41	7.0	地域間幹線	3.1	21.7	南越線
6	越前武生	稲荷	魚見・金山	33.7	72	4.2	地域間幹線	1.5	6.3	池田線
7	越前武生	妙法寺口 松森	糠長島	24.8	51	3.8	広域生活 バス路線	1.2	4.5	王子保河野線
8	越前武生	安養寺 織田	越前岬	31.3	69	1.0	広域生活 バス路線	0.8	0.8	武生越前海岸線 安養寺線
9	ベル 食品館前	下荒井 さくら病院	ベル 食品館前	6.2	27	1.0	市町 生活交通	0.6	0.6	清明循環線 大島・下荒井ルート
10	ベル前	下荒井 さくら病院	ベル 食品館前	6.1	25	4.0	市町 生活交通	0.4	1.6	清明循環線 大島・下荒井ルート
11	ベル 食品館前	下荒井	ベル 食品館前	5.3	20	1.0	市町 生活交通	0.3	0.3	清明循環線 大島・下荒井ルート
12	ベル前	下荒井	ベル前	4.7	18	2.0	市町 生活交通	0.0	0.0	清明循環線 大島・下荒井ルート
13	ベル 食品館前	杉谷口	ベル 食品館前	10.2	33	2.8	市町 生活交通	0.3	0.7	清明循環線 杉谷ルート
14	ベル 食品館前	杉谷口	ベル前	9.5	30	1.0	市町 生活交通	1.1	1.1	清明循環線 杉谷ルート
15	ベル 食品館前	江端駅東口	ベル 食品館前	7.7	34	3.0	市町 生活交通	0.3	0.9	清明循環線 江端ルート
16	浅水駅前	冬野・杉の木台	浅水駅前	6.7	20	10.1	市町 生活交通	0.3	3.0	麻生津循環線 冬野・杉の木台経由
17	浅水駅前	青葉台・杉の木台	ハニー前	8.0	30	1.0	市町 生活交通	0.8	0.8	麻生津循環線 青葉台・杉の木台経由
18	ハニー前	青葉台・杉の木台	ハニー前	8.7	35	4.3	市町 生活交通	0.5	2.1	麻生津循環線 青葉台・杉の木台経由
19	浅水駅前	足羽高校・杉の木台	浅水駅前	8.3	25	1.0	市町 生活交通	4.4	4.4	麻生津循環線 足羽高校・杉の木台経由
20	浅水駅前	—	足羽高校	1.4	5	3.0	市町 生活交通	3.1	9.3	麻生津循環線 足羽高校
21	浅水駅前	江尻ヶ丘	浅水駅前	10.2	34	1.0	市町 生活交通	0.3	0.3	麻生津循環線 江尻ヶ丘ルート
22	ハニー前	江尻ヶ丘	ハニー前	11.0	42	2.0	市町 生活交通	0.3	0.6	麻生津循環線 江尻ヶ丘ルート
23	越前武生	下広瀬	千合谷	17.9	41	2.5	市町 生活交通	0.9	2.2	白山線
24	越前武生	味真野	入谷	13.6	36	4.3	市町 生活交通	1.1	4.7	入谷線

② 利用者推移

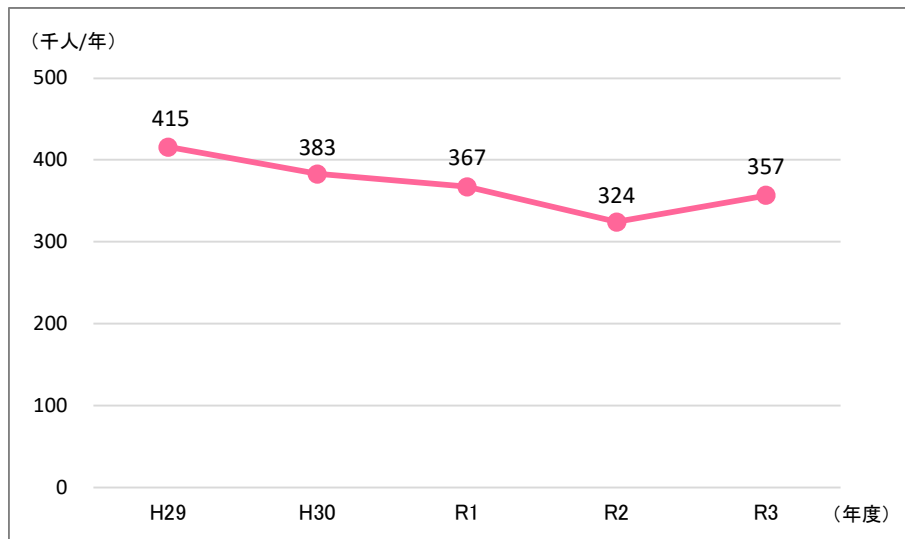
○福井鉄道交通圏における京福バスの年間利用者数は、近年3百万人台でやや減少傾向で推移しており、コロナ禍の影響が大きい令和2年度には大幅に減少したものの、令和3年度はやや増加している。



※利用者数は、福井鉄道交通圏内を運行する京福バス路線(資料31～33参照)の合計(高速バス除く)
資料：京福バス

図5-1 京福バスの輸送人員の推移

○福井鉄道交通圏における福鉄バスの年間利用者は減少傾向にあり、平成30年度で約38万人、令和2年度で約32万人となっている。令和3年度には増加に転じて約36万人となっている。



※利用者数は、福井鉄道交通圏内を運行する路線(資料34参照)の合計

資料：福井鉄道

図5-2 福鉄バスの輸送人員の推移

(2) 福井鉄道交通圏6市町が運行するコミュニティバスの状況

① 福井市が運行するコミュニティバスの状況

《路線の状況》

○福井市が運行してきた「すまいるバス」(令和3年10月より京福バスの路線バスとして運行)は、4ルートで形成され、いずれのルートも1周約45分で市街地を回る循環型ルートで運行している。

○現在策定中の福井市地域公共交通計画では、第2次福井市都市交通戦略をより具体的に実現するため、すまいるバスを含めた市中心部のバス路線網の見直しを図ることとしている。また、令和4年度に実施したアンケート結果を踏まえ、令和5年度にかけて運行ルートの見直しを検討する。

《利用者の状況》

○利用者は、減少傾向にあったが、平成29年度から令和元年度は横ばいで推移し、令和2、3年度は概ね3割程度の減少となっている。

○ルート別の利用者数の傾向に大きな違いは見られない。

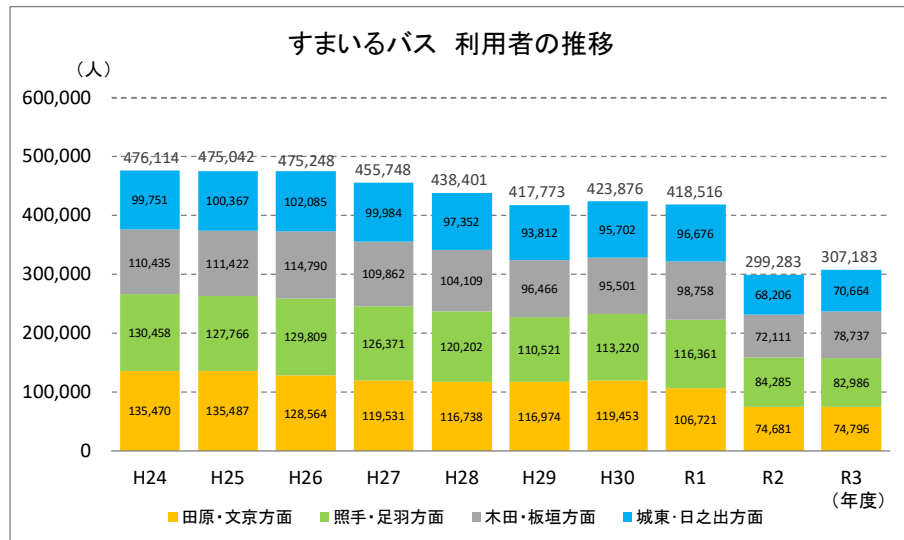


図5-3 すまいるバスの利用者数の推移

市民ニーズの総括

●令和2年度 福井市市民意識調査より

市民の8割以上は、日常生活で鉄道、バスを利用していない

- ・市民の約9割が住んでいる地域の公共交通を知っているが、8割以上がほとんど利用していない
- ・また、市民の約4割が、定期券や回数券、1日フリー乗車券等のお得な乗車券のことを知らないと答えている



図5-4 すまいるバス 路線図

《地域住民が運営に関わっているコミュニティバス》

○福井市では地域住民が運営にかかわっている地域コミュニティバス等が運行されている。

区分	地域	路線名	鉄道、路線バスとの接続状況
地域 コミュニティ バス ※公共交通空白地域 等において、地域 住民と交通事業者 が連携・協力して 運行する取組み	北西	日新さんさんバス	○えちぜん鉄道と接続
		もりたん	○JR森田駅にて大学病院新田塚線、中藤乗合タクシーに接続
		鷹巣・棗地区ふくふく号	○すかつとランド九頭竜にて越前海岸ブルーライン、大安寺線、川西三国線と接続
		鶉地区鶉山バス	○福井総合病院にて福井総合病院線と接続
	南西	殿下かじかポッポー	○プラント3にて清水グリーンライン、茱崎線、西田中宿堂線、清水山乗合タクシー、西安居乗合タクシーと接続
	南東	酒生いきいきバス	○済生会病院・東部プラザにて、大野線、済生会問屋団地線、OKABO岡の泉号、東郷おつくねバスと接続
		福井市地域コミュニティバスOKABO コシヒカリの里号、 岡の泉号	○済生会病院・東部プラザにて大野線、済生会問屋団地線、酒生いきいきバス、東郷おつくねバスと接続 ○県立病院にて県立病院丸岡線、大和田丸岡線、すまいるバス、円山重立乗合タクシー、岡保乗合タクシーと接続
東郷おつくねバス		○済生会病院・東部プラザにて、大野線、済生会問屋団地線、酒生いきいきバス、OKABO岡の泉号と接続 ○JR越前東郷駅にて一条谷東郷線と接続	
地域バス ※市所有のスクールバス 等の既存ストック を活用して運行する 取組み	南西	清水地域バス	○プラント3にて、清水グリーンライン、西田中宿堂線、清水織田線と接続
	南西	越廼・鷹巣地区 海岸地域バス	○小丹生にて鮎川線、鮎川特急と接続 ○和布にて海岸線と接続
	東	美山地域バス	○美山駅において大野線、JR越美北線と接続

○福井市では、地域内の移動を補完する交通として乗合タクシーが運行されている。

区分	運行地区	路線名	接続する地域拠点
乗合タクシー	本郷地区等	乗合タクシー本郷ルート	福井医療大学周辺
	河合地区等	乗合タクシー高屋ルート	新田塚・八ツ島駅周辺
	新田塚地区等	春江新田塚乗合タクシー	新田塚・八ツ島駅周辺
	中藤地区等	中藤乗合タクシー	森田駅周辺
	円山地区等	円山重立乗合タクシー	パリオ周辺
	岡保地区等	岡保乗合タクシー	パリオ周辺
	みのり地区等	赤十字みのり乗合タクシー	ベル前駅周辺
	安居地区等	西安居乗合タクシー	清水健康管理センター周辺
	清水地区等	清水山乗合タクシー	清水健康管理センター周辺
	清水地区等	ほやほや号【デマンド型】	清水健康管理センター周辺
	麻生津、上文殊、 文殊、六条地区	乗合タクシー【フルデマンド型】	浅水駅周辺

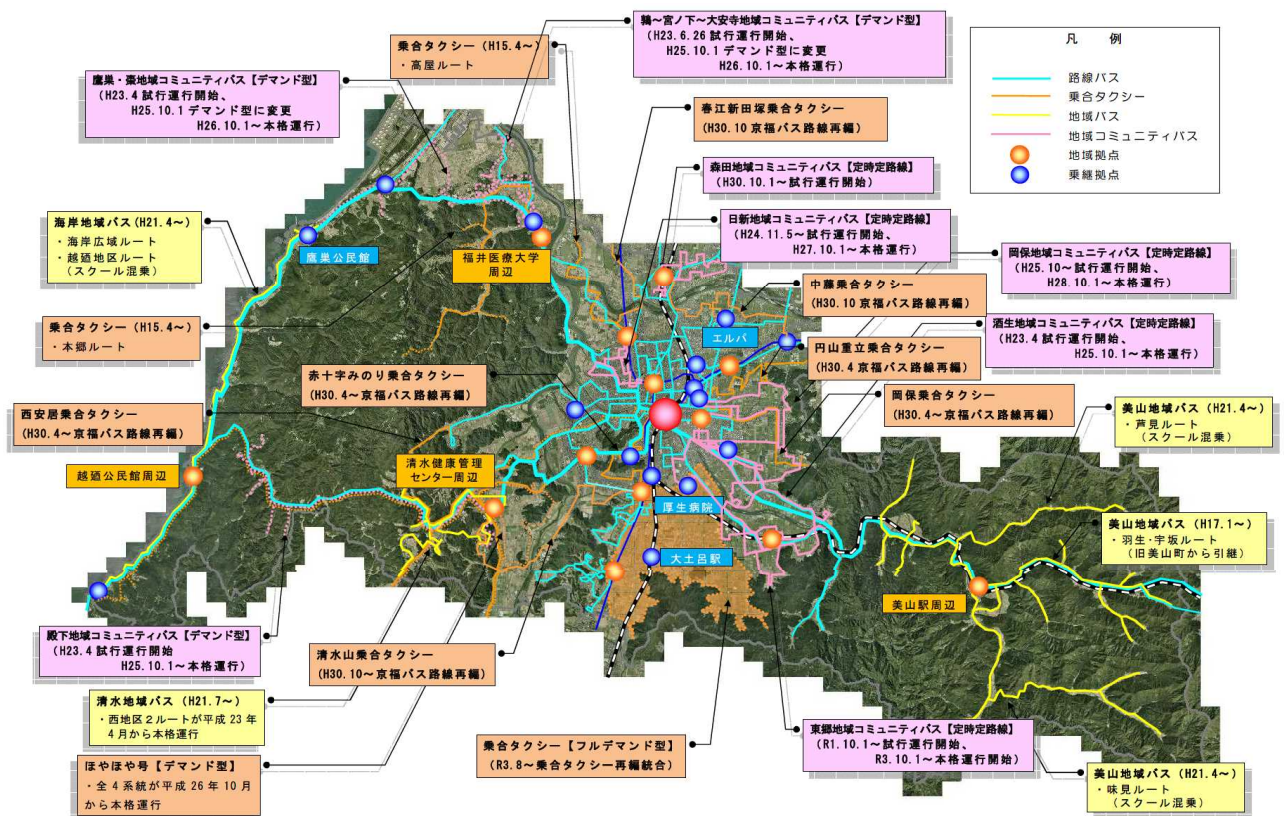


図5-5 福井市のコミュニティバス等

② 鯖江市が運行するコミュニティバスの状況

＜路線の状況＞

- 「鯖江市地域公共交通利便増進実施計画」（令和3年12月策定）により鯖江市が運行するコミュニティバス「つつじバス」のネットワークを再編し、全9路線を運行している。今年度の利用者数は、昨年度の同期と比べて約7%増加している。

＜再編内容＞

- ・循環線のパターンダイヤ化
- ・各地区路線の再編
- ・JR 鯖江駅/福井鉄道 神明駅を各地区路線との乗継拠点とし循環線との接続強化
- ・土日祝日運行便数の増加等

運行路線		運行日	備考
①	循環線	無 休	・ 土日祝の運休便あり
②	鯖江南・新横江線		
③	神明線		
④	片上・中河線		
⑤	立待線		
⑥	吉川線		
⑦	豊線		
⑧	北中山・中河線		
⑨	河和田線		

※年末年始(12月30日～1月3日)は全路線運休

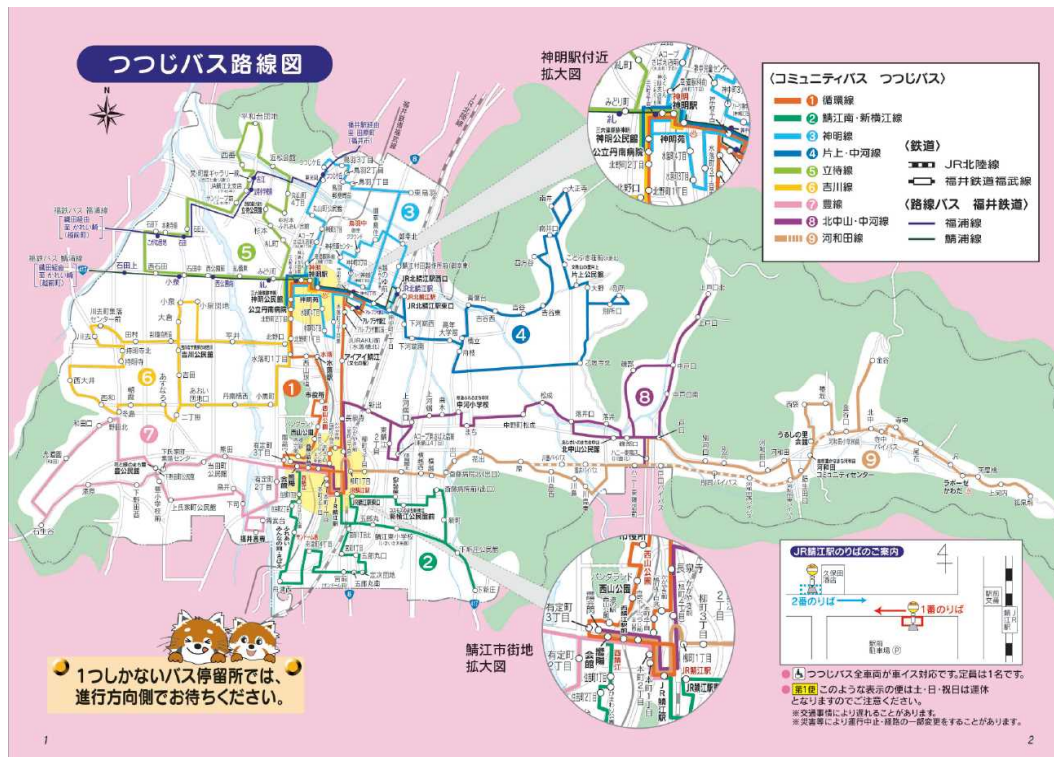


図5-6 つつじバス路線図

《利用者の状況》

○つつじバスの利用者は、緩やかな減少が続いており、令和2、3年度は大きく減少している。

○路線別にみると、循環線（中央線）、河和田線等の利用者が大きく減少している。

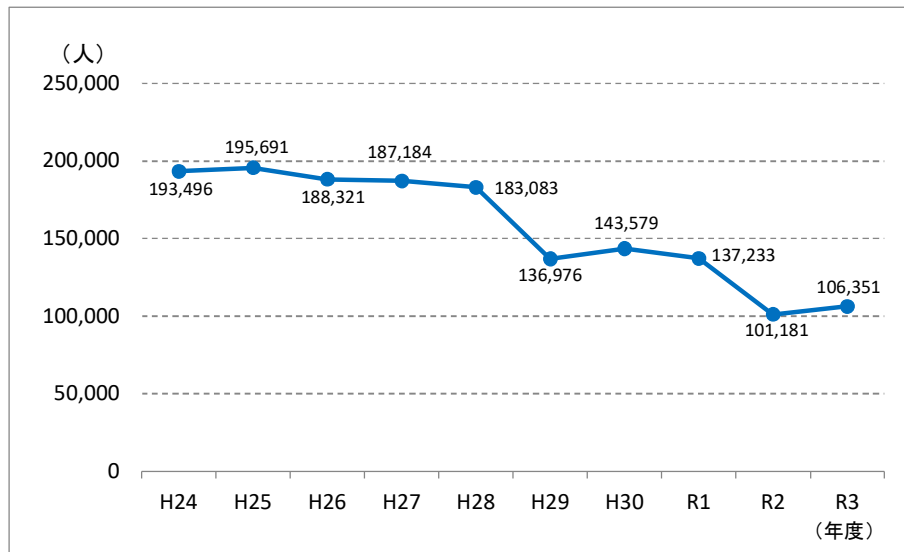
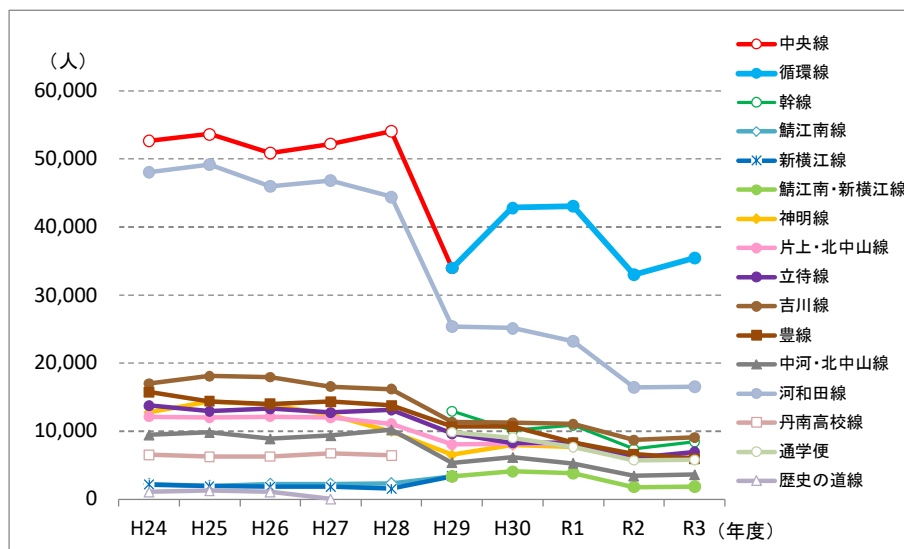


図5-7 つつじバスの利用者数の推移（全路線）



※幹線、通学便：令和3年度まで

図5-8 つつじバスの利用者数の推移（路線別）

市民ニーズの総括

●令和3年度 鯖江市地域公共交通計画策定調査 市民アンケートより

日常生活の外出行動（通勤、通学、通院等）での公共交通の利用が少ない

- ・公共交通の利用率：通勤・通学(9.1%)、通院(14.0%)
- ・公共交通の運行経費については、「高齢者や障がい者の交通手段として重要なので、必要な経費を投入すべき」が全体の3割弱を占めている。

③ 越前市が運行するコミュニティバスの状況

◀路線の状況▶

- 越前市が運行する「市民バスのろっさ」は全部で11ルートとなっている。
- 市街地循環北ルート、市街地循環南ルートは月曜日～土曜日、今立エリアを走る月尾ルート、水間ルート、服部ルートは月曜日～金曜日に運行しているが、他のルートでは週2回の運行となっている。

運行路線		運行日	備 考
武生エリア	① 市街地循環北ルート	月～土	運行日が祝日の場合は運行
	② 市街地循環南ルート		
	③ 吉野・大虫ルート	月・木	吉野編と大虫編がある
	④ 坂口・神山ルート	火・土	
	⑤ 王子保・南ルート	月・木	
	⑥ 国高・北日野ルート	水・金	国高編と北日野編がある
	⑦ 味真野・北新庄ルート	水・金	
	⑧ 白山・大虫ルート	火・土	
今立エリア	⑨ 月尾ルート	月～金	土曜日、日曜日、祝日は運休
	⑩ 水間ルート		
	⑪ 服部ルート		

※年末年始（12月31日～1月3日）は全ルート運休

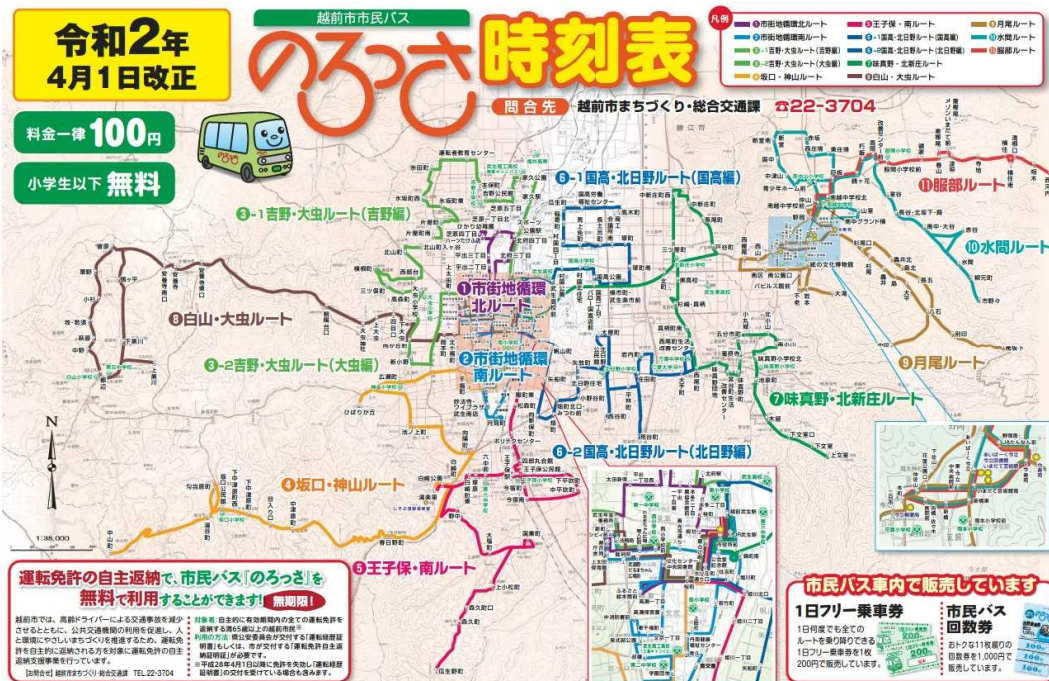


図5-9 のろっさ路線図

《利用者の状況》

- 利用者数は、近年増加傾向にあったが、令和2、3年度は大幅に減少した。
- 路線別にみると、市街地循環ルートは令和元年度以降大幅に減少したものの、令和3年度にかけては回復傾向にある。坂口・神山ルート、王子保・南ルート、白山・大虫ルート、服部ルートが増加傾向にある一方、吉野・大虫ルート、国高・北日野ルート、味真野・北新庄ルート、月尾ルート、水間ルートが減少傾向にある。

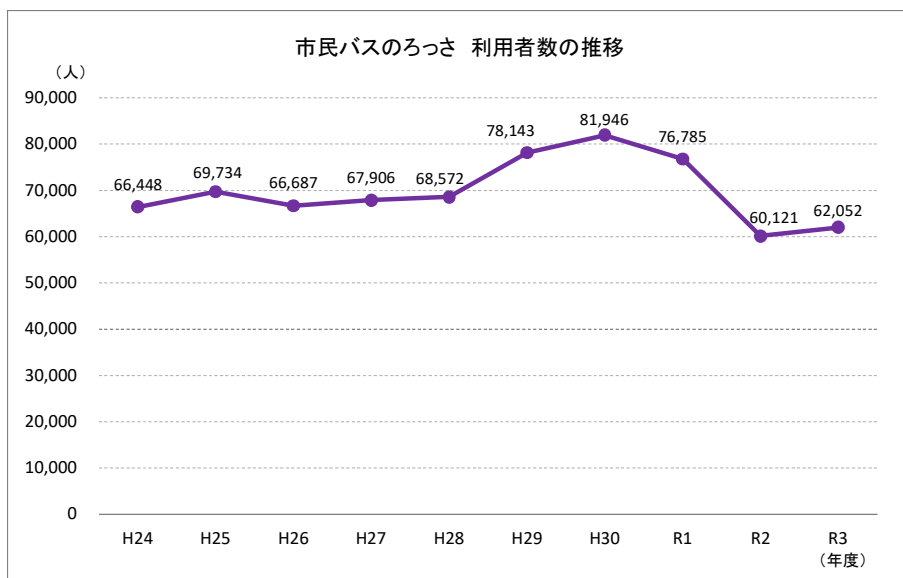


図5-10 市民バスのろっさの利用者数の推移 (全ルート)

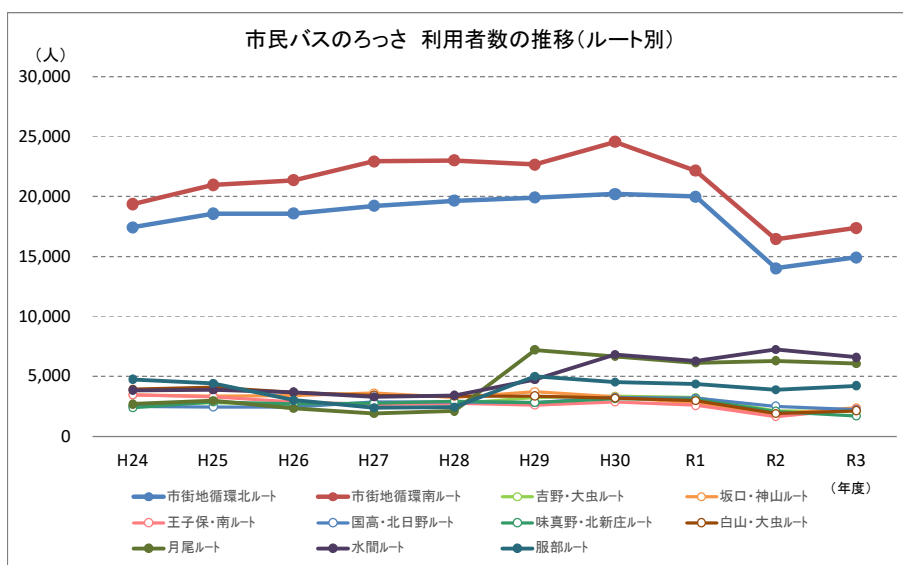


図5-11 市民バスのろっさのルート別利用者数の推移

市民ニーズの総括

○平成30年実施の市民バス利用者アンケート調査より

利用者の70%は70代以上、うち40%は80代以上が利用している

- ・利用者は、70代が30%、80代以上が40%、60代が8%、50代以下は10%
- ・利用目的は、「買い物」または「通院」で75%
- ・満足度は、「大変満足」(23%)、「満足」(70%)をあわせて93%

④池田町が運行するコミュニティバスの状況

《路線の状況》

- 池田町が運行する「町民バスなかま号」は、町内を循環するルートで運行しており、無料で利用可能となっている。
- 平成30年度末の池田線(京福バス)の廃止に伴い、池田町と福井市をつなぐ町民協働の「マイバス」が運行されている。
- 池田町内では、「町民バスなかま号」、町民協働バス「マイバス」、福井鉄道が運行する路線バスともにフリー乗降制を導入している。

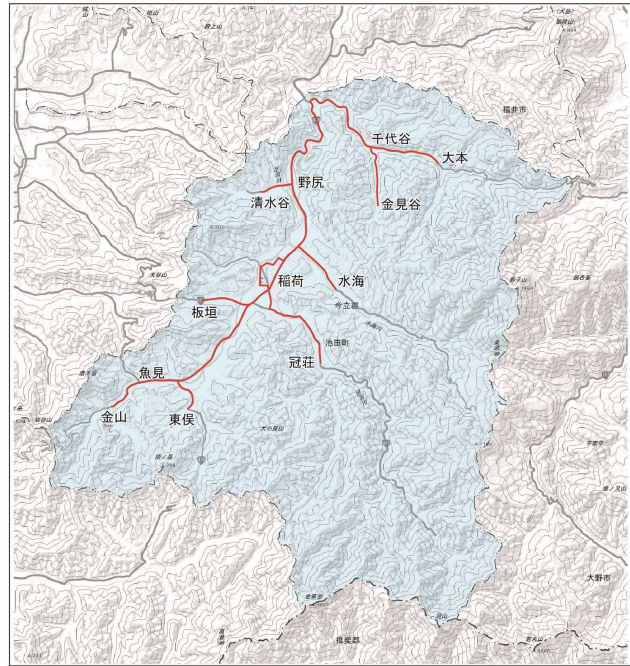


図5-12 町民バス「なかま号」の路線図

《利用者の状況》

- 利用者数は、平成29年度までは概ね横ばいで推移していたが、平成29年度以降は減少傾向となっている。

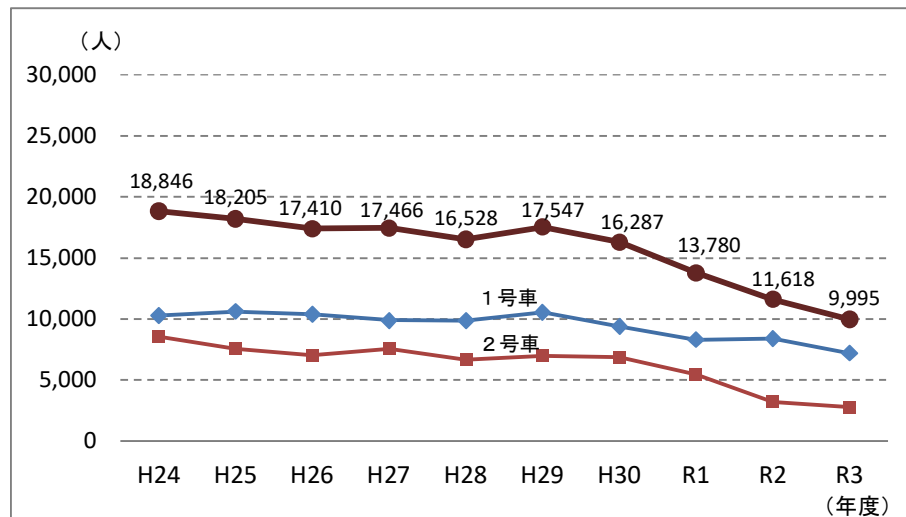


図5-13 町民バス「なかま号」の利用者数の推移

⑤南越前町が運行するコミュニティバスの状況

《路線の状況》

- 南越前町が河野地区で運行する「住民利用バス河野地区線」は、河野地区内を巡回ルートとなっている。
- 福鉄バスの王子保河野線に乗り継ぐことで越前武生駅に接続している。
- 住民利用バスには、河野地区線の他、福鉄バスに接続しないものの、今庄地区、南条地区を巡回するルートの路線がある。



図5-14 住民利用バス河野地区線の路線図

《利用者の状況》

- 利用者数は、平成29年度以降微増傾向にあったが、令和2、3年度は減少に転じたものの減少数は少なく大きな影響はない。

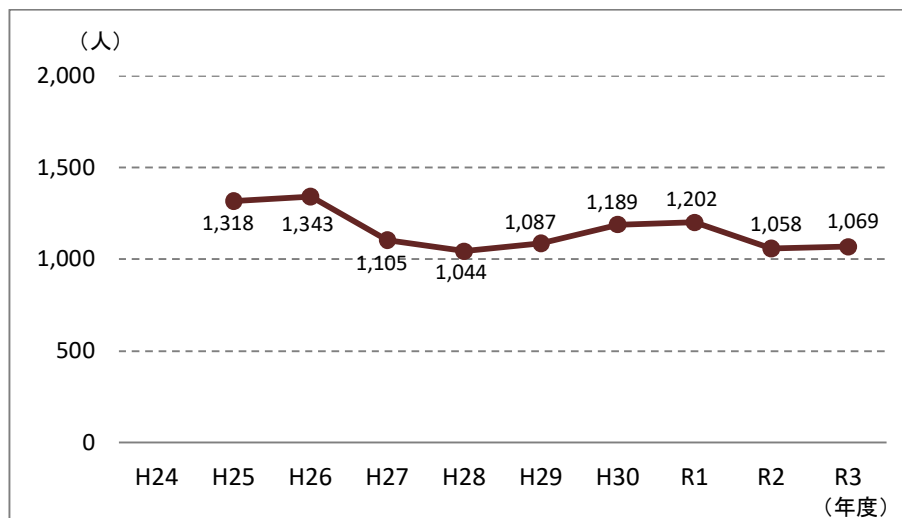


図5-15 住民利用バス河野地区線の利用者数の推移

《「南越前町らくらくおでかけバス」運行の実証実験》

- 生活に必要な移動手段を確保し、誰もが生涯にわたり地域で豊かに生活できるような交通システムを検討するため、AIを活用した効率的な乗合ができる予約システムを導入した実証実験を実施している。これにより、今庄地区、南条地区から福鉄バスの王子保河野線への乗継が可能になっている。

- ・運行期間：令和4年11月1日～令和5年3月29日（現在の住民利用バス運行は継続）
- ・運行範囲：町内全域（指定停留所での乗降）※南条、今庄、河野の3地区を跨いで移動可
- ・運行日時：平日 午前8時30分～午後5時（土日祝、年末年始（12/29～1/3）運休）
- ・利用料金：1人につき100円/回（片道）

⑥越前町が運行するコミュニティバスの状況

≪路線の状況≫

- 令和4年4月から越前町が運行する公共交通が刷新され、「コミュニティバスフレンドリー号」と「デマンドタクシー チョイソコえちぜん」となった。
- 「コミュニティバスフレンドリー号」は、これまでの9ルートから4ルートになり、織田地区、宮崎地区で運行されていた循環ルート、乗り合いルートが廃止となった。

運行路線	運行日	備考
① 環状ルート（右まわり）	月～土	
② 環状ルート（左まわり）		
③ 越前地区巡回ルート	月～金	
④ 越前地区乗り合いルート	月水金	一部デマンド方式

※年末年始（12月29日～1月3日）は全ルート運休



図5-16 コミュニティバスフレンドリー号路線図

- 「コミュニティバスフレンドリー号」の縮小に伴い新設された「デマンドタクシー チョイソコえちぜん」は、朝日地区と宮崎、織田地区の2区域を対象とする予約型の乗合タクシーで自宅前から乗車することができる。予約には、AIを活用した効率的な乗合ができるシステムを導入している。
- 利用者のほとんどが70歳以上である。利用者数は、運行開始から毎月増加している。

《利用者の状況》

- 利用者数は、減少傾向が続いている。
- 越前地区巡回ルートの利用者が最も多いものの、減少している。
- 環状ルートは漸減傾向で推移している。
- 乗合ルートの3路線の利用者は、近年千人に満たない状況で推移している。

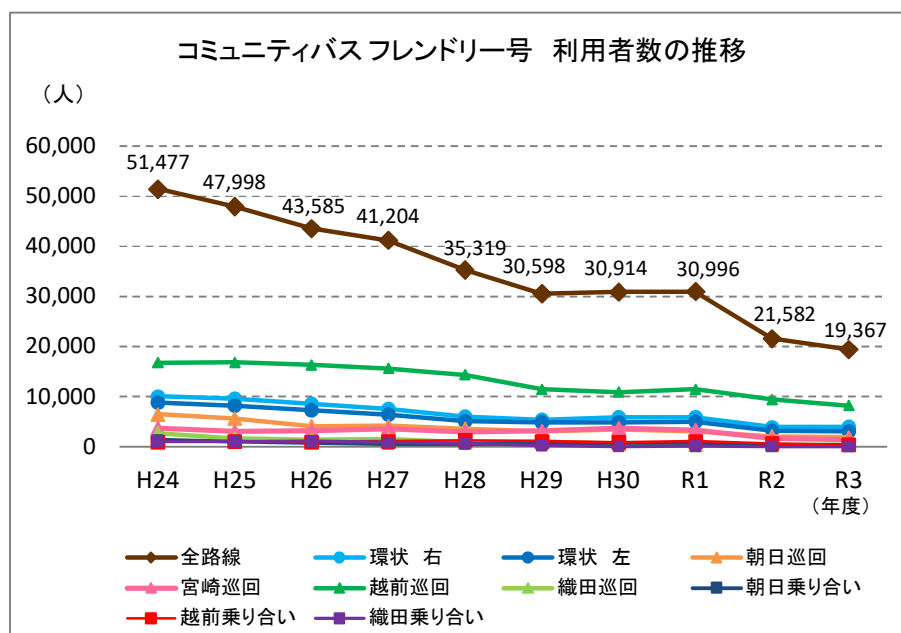


図5-17 コミュニティバスフレンドリー号の利用者の推移

住民ニーズの総括

○越前町地域公共交通計画（令和3年1月）より

対象：満20歳以上の町民2,500人を住民基本台帳から無作為抽出

公共交通に関する利用者の評価が低い

- ・公共交通の満足度が低く（「満足」、「まあ満足」を足して5～6割程度で、利用者の4～5割は何らかの不満がある。

越前町の公共交通のあり方について

- ・ほとんどの住民は公共交通が必要と考えているが、フレンドリー号の今後の運行については、「現状のまま町が負担し、現状の運行本数やルートを維持する」との回答が約半数である。

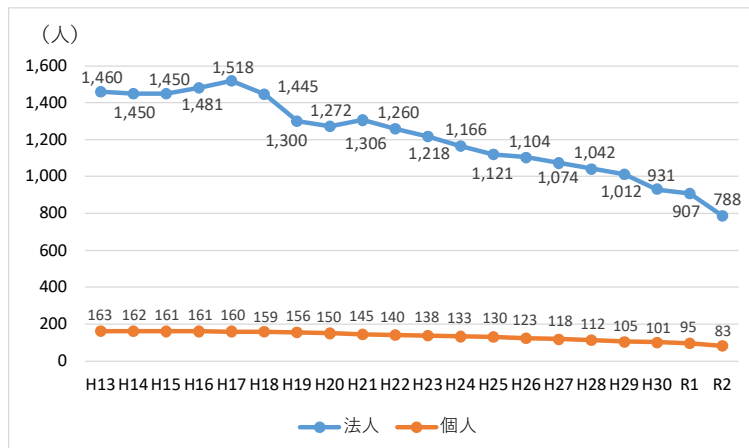
6. タクシー交通の現状

- 福井鉄道交通圏内に営業所を置くタクシー事業者は25社（福祉限定を除く）で、少人数の移動に対し、きめ細かいサービスを提供している。
- また移動ニーズの多様化、人口減少、高齢化等の進展により、鉄道やバス交通を補完する公共交通として重要な役割を担っている。

表6-1 福井鉄道交通圏内におけるタクシー事業者の車両数等

	事業者	車両総数	ジャンボタクシー (最大定員10人の ワンボックス車両)	福祉車両 (スロープ・リフト・ 寝台付車両)
福井市	福井交通(株)	91	14	—
	福井都タクシー(株)	50	2	—
	福井タクシー(株)	23	—	—
	(有)福井相互タクシー	36	1	—
	三福タクシー(株)	11	1	—
	三栄タクシー(有)	32	2	—
	光タクシー(有)	20	6	1
	大バス日ノ出交通(株)	6	—	—
	すいせんタクシー(株)	33	1	—
	福井バス(株)	55	3	—
	(株)福福交通	20	—	—
	アイネス観光(株)	10	1	1
	永平寺観光(株)	17	4	—
	鯖江市	鯖江タクシー(株)	14	2
相互タクシー(株)		13	1	1
越前市	福鉄商事(株)	20	3	—
	(株)丸越タクシー	7	—	—
	小松タクシー(有)	17	2	—
	白山交通(株)	4	2	—
	ヤマトタクシー(株)	5	1	—
池田町	池田観光(株)	1	1	—
南越前町	(有)今庄タクシー	4	1	—
越前町	朝日自動車(株)	5	2	—
	(有)越前タクシー	2	1	—
	(有)日の丸タクシー	21	2	—
	計	517	53	3

資料：中部運輸局福井運輸支局・福井県（令和4年3月31日現在）



資料：中部運輸局

図6-1 福井県におけるタクシー運転者数の推移

7. 策定体制と経緯

(1) 策定体制

「第4章 福井鉄道交通圏地域公共交通計画 (4) 計画の目標の達成状況の評価について」参照

(2) 策定経緯

日 程	会議名称	主な協議事項等
令和4年7月29日 (金)	第1回計画策定作業部会	・地域公共交通計画策定の概要 ・現行計画の評価・検証
令和4年9月28日 (金)	第2回計画策定作業部会	・施策・事業の評価・検証 ・基本方針・目標・施策の検討
令和4年11月15日 (火)	第3回計画策定作業部会	・計画全般
令和4年12月27日 (火) ～令和5年1月10日 (火)	パブリックコメント	・計画(素案)
令和5年2月14日 (火)	第1回活性化連携協議会	・計画(案)